

令和7年度 環境省請負業務

令和7年度
漁業者の協力による
海洋ごみ回収等に関する実証業務

報 告 書

令和8年3月

三洋テクノマリン株式会社

第I章 業務概要

I.1 業務目的

平成 21 年 7 月に成立した「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律（平成 21 年法律第 82 号）」が平成 30 年 6 月に改正され、「国及び地方公共団体は、地域住民の生活・経済活動に支障を及ぼす漂流ごみ等の円滑な処理の推進を図るよう努めなければならない」とされている。

また、「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」（令和元年 5 月 31 日変更閣議決定）、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」（令和元年 5 月 31 日海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係閣僚会議決定）等において、海底ごみ対策として、漁業者の協力を得て、操業時に回収した海底ごみを持ち帰ることなどを促進している。

本業務では、昨年度業務で策定した「漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収マニュアル」（以下、「マニュアル」）を活用し、海洋プラスチックごみへの対策促進とともに、マニュアルを利用した海洋ごみ回収の実施事例の蓄積・課題の顕在化による、マニュアルの改訂・ブラッシュアップを実施した。

I.2 業務の内容

本業務は、以下の I.2.1～I.2.5 の項目から構成される。

I.2.1 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に関する文献・事例の収集・整理

漁業者の協力により海洋ごみを回収等の取組（回収を中心とするが、回収した海洋ごみの利活用や廃棄漁網の利活用等についても関連文献・事例があれば適宜収集した）について、それによる漁場への影響、漁業者と自治体の協力体制の構築に当たっての課題、成果の情報発信方法等について、国内外の文献等を調査し、過年度業務における成果物をふまえ、適宜、更新・追加を行った。その結果を踏まえ、漁業者の協力により海洋ごみの回収等の取組に関する留意点、優良事例等を取りまとめた。

I.2.2 海底ごみ現地調査の実施

過年度業務と補助金活用状況を加味し、日本沿岸域の候補地域の中から選定した加賀市沿岸域、播磨灘（東）、備讃瀬戸（西）、備讃瀬戸（水島灘）、備後灘、燧灘（西）及び宗像市沿岸域の 7 地点において、漁業者の協力による海底ごみの回収調査及び解析を実施した。

それぞれの地点の漁業協同組合（以下、「漁協」）に所属して、底びき網漁や底刺し網漁による海底ごみ回収が可能である漁業者（以下、「漁業者」）に通常の操業時に漁獲物と混獲される海底ごみの持ち帰りと海底ごみの実態把握及び今後の対策検討のために必要な情報の記録を依頼した（各調査実施海域 20 日間程度）。

調査期間終了後、回収・保管された海底ごみを対象に「海底ごみの分類リスト」に従って分類し、個数・重量及び容積を計測し、調査結果を取りまとめ、効果的な対策の検討に資するよう海底ごみに関する現状等について整理した。

I.2.3 漁業者及び自治体における「漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収事業」の研修会の実施

令和5年8月に公示されたマニュアルに基づき、漁業者及び自治体の協力による海洋ごみ回収事業の周知及び取組の促進・啓発を目的に、以下の点について留意して実施した。また、研修会の実施内容等については、I.2.5の第1回検討会で意見を聴取した。

- ①研修会参加者の公募（自治体職員、漁業者など30名程度）
- ②研修会の実施（オンライン形式を前提に1日の日程で1回）
- ③研修会後の課題等の整理（研修会を通じて明らかとなった海洋ごみ回収事業に伴う課題を取りまとめるとともに、マニュアルに関するQ&Aの改訂案を作成）。

I.2.4 漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収マニュアルの改訂

I.2.1～I.2.3の検討結果等を基に、参考事例の追加などに係るマニュアルの改訂案を検討した。検討に当たっては、I.2.5に定める検討会等での意見を参考とした。

I.2.5 検討会の資料作成支援の実施

本業務の実施に際し、別途発注業務「令和7年度海洋ごみの実態把握及び効率的な回収に関する総合検討業務」において開催される調査方針及び調査結果の取りまとめ（I.2.4に言及する自治体・漁業者等向けマニュアル案含む）に関する検討会（2回開催）の資料作成を支援した。

I.3 業務フロー

本業務の業務フローを図 I-1 に示す。

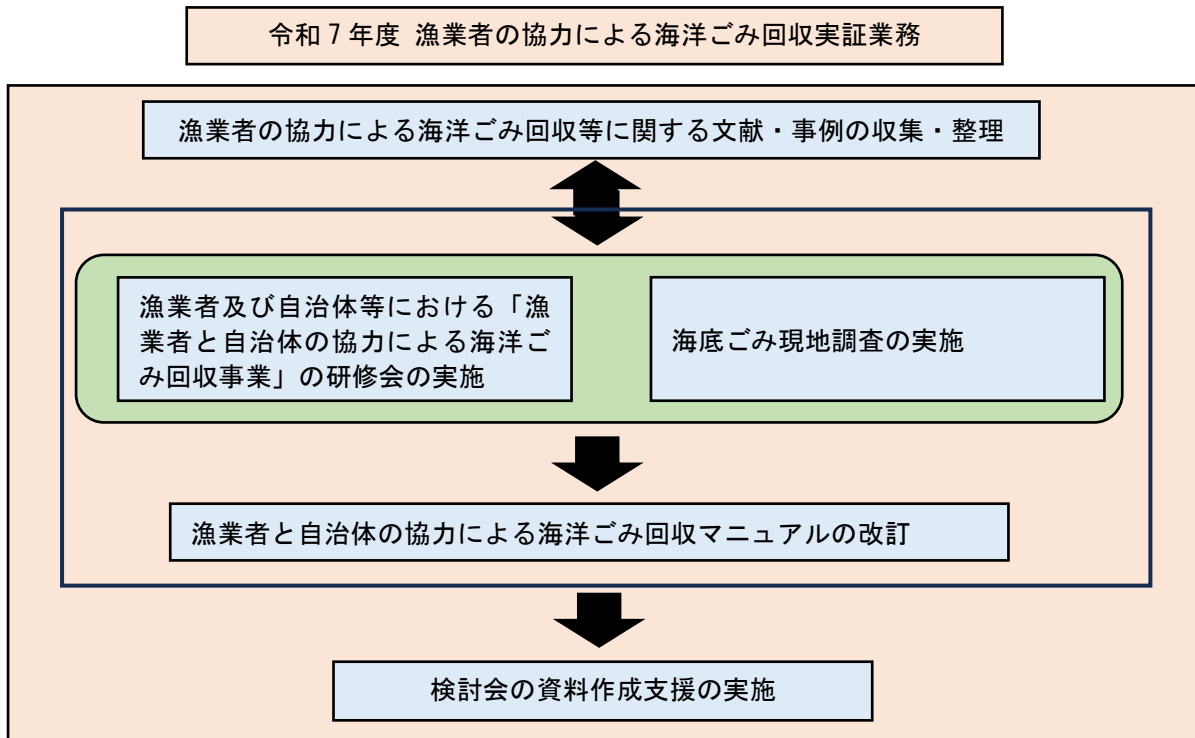


図 I-1 業務フロー

I.4 履行期間、業務工程

履行期間と業務工程を表 I-1 に示す。

表 I-1 業務工程表

【履行期間: 令和7年4月1日～令和8年3月19日】

検討項目	業務工程	令和7年												令和8年			備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
計画・準備		■	■															業務計画書の作成
検討事項																		
1	漁業者の協力による海洋ごみ回収等に関する文献・事例の収集・整理		■	■	■	■	■	■	■	■								
2	海底ごみ現地調査の実施	■	■		■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	7地点(漁協説明含む)
3	漁業者及び自治体における「漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収事業」の研修会の実施						■	■	■	■	■							9/12開催
4	漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収マニュアル改訂									■	■					■	■	
5	検討会の資料作成支援の実施				■	■	■									■	■	検討会(7/16, 2/12)
成果物の作成																■	■	報告書10部、DVD-R2枚
協議・報告		■	■		■		■	■	■	■		■	■		■	■	■	事前、中間、最終、等

(空白ページ)

第II章 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に関する文献・事例の 収集・整理

II.1 文献・事例の収集について

漁業者の協力により海洋ごみを回収等の取組（回収を中心とするが、回収した海洋ごみの利活用や廃棄漁網の利活用等についても関連文献・事例があれば適宜収集する）について、それによる漁場への影響、漁業者と自治体の協力体制の構築に当たった課題、成果の情報発信方法等について、国内外の文献等を調査し、過年度業務における成果物をふまえ、適宜更新・追加を行った。その結果を踏まえ、漁業者の協力により海洋ごみの回収等の取組に関する留意点、優良事例等を取りまとめた。

令和3～6年度の収集結果

令和3～6年度にかけて収集した情報を基に情報の更新・追加を行うため、初めに令和3～6年度の報告書で取りまとめられている事例について表II-1に整理した。また、令和3～6年度は主に以下の内容に沿って情報を収集し、整理されていた。

- (1) 海洋ごみ回収の取組による漁場への影響
- (2) 漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題
- (3) 関係者及び市民に向けての成果の発信方法等
- (4) 回収したごみの利活用、廃棄漁網の利活用等

表 II-1 (1) 令和 3~6 年度業務で収集した情報

項目	国内/ 国外 事例	内容	参考資料
(1) 漁業者の協力による海洋ごみ回収の取り組みにおける漁場への影響			
プラスチック製の海洋ごみによる漁業への影響	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁船の損傷・故障、航行障害 ・ 漁具・養殖施設漁の損傷 ・ 漁獲物の被害及び商品価値の低下 ・ 処理対応による作業及び費用の負担 ・ ゴーストフィッシング 	1
漁業・養殖業への影響		<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業・養殖業への影響 ・ 被害事例 ・ 野生生物への影響 	2, 13, 14
海洋ごみによる漁業への影響	国外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者の被害状況 ・ 生態系・生物多様性への影響 	4, 66, 67, 68, 69
海洋ごみの組成・分布とその動向	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋ごみの動向 ・ 対策方法・ごみ回収効果 	13, 14, 15
(2) 漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題			
漁業者による海洋ごみの回収体制	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協と自治体における回収体制の構築例 ・ 漁業者主体でのごみ回収事例 ・ 漁業者と自治体、その他民間団体の協力体制 	3, 41, 42, 43, 44, 45, 46
自治体による体制構築		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体による体制構築事例 	3, 16, 17
海洋ごみ回収の課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 回収処理体制 ・ 処理の手間・費用 ・ 補助・補償制度 ・ 保管場所、処理対応する人手不足等 	3
回収費用の捻出方法		<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと納税制度の利用事例 ・ 補助金の活用 	18, 19, 44, 45, 70, 71, 72, 73, 74
海洋ごみ回収の制度	国外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意識向上と海洋ごみ減少のための回収活動制度 ・ 活動参加者の意識と行動状況 ・ 今後の活動課題 	5, 6
回収		<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境へ配慮した回収方法の模索 (Trawling Activities) ・ 回収処理費用に関する取り組み事例 (Buy Back Program、Floating Receptacles : 韓国) ・ 漁業者へのインセンティブ(ミシシッピ州) 	7, 8, 9, 66
保管・分別		<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋ごみの処理方法とリサイクルについて 	9
処分		<ul style="list-style-type: none"> ・ 処分方法 (埋め立て、燃焼排ガス処理) ・ 処分による環境・人体への影響 ・ 処分費用の事例 	9
リサイクルや買取の事例		<ul style="list-style-type: none"> ・ スペイン、ドイツ、デンマークで実施されている活動の状況 	10, 11

表 II-1 (2) 令和 3~6 年度業務で収集した情報

項目	国内/ 国外 事例	内容	参考資料
(3) 成果の情報発信方法			
成果の情報 発信方法	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック循環アクション宣言 ・書面での情報発信 ・SNS を活用した情報発信 ・ごみの利活用に関する情報発信 ・漁協連合会による研修 	20, 47, 48, 49, 50, 51, 75, 76, 77, 78, 79
成果の情報 発信方法	国外	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・活動に関する情報の管理・運用状況 	7, 12
(4) 回収したごみの利活用、廃棄漁網の利活用等			
海底ごみの 活用方法	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ルアー ・固形燃料 	52, 80
廃棄漁網の 活用方法	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・リユース ・リサイクル 	21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 80, 81, 82
廃棄漁網の 活用体制の 構築		<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄漁網回収活動 	33, 40, 61, 62, 63, 64
廃棄漁網の 活用体制の 構築	国外	<ul style="list-style-type: none"> ・業界横断のプラットフォームでの情報共有 ・廃棄漁網回収活動 	34, 35, 36, 37, 38, 39

—参考資料—

- ・参考資料 1) : 藤枝繁 (2005) 「プラスチック製海洋ゴミが沿岸漁業に与える影響」
- ・参考資料 2) : NOWPAP MERRAC、Negative Impacts of Marine Litter in the NOWPAP Region: Case Studies
(https://wedocs.unep.org/bitstream/handle/20.500.11822/26217/negative_impacts_ML.pdf?sequence=1)
- ・参考資料 3) : 磯部 作 (2009) 漁業者による海底ごみの回収の状況と課題—瀬戸内海を中心として— 地域漁業研究 第 49 卷 第 3 号
- ・参考資料 4) : OSPAR Commission. (2007). Background report on fishing-for-litter activities in the OSPAR region. London, UK.
- ・参考資料 5) : Fishing for Litter WORKING WITH FISHERMEN TO CLEAN OUR SEAS
(<https://fishingforlitter.org/>)
- ・参考資料 6) : An evaluation of the Fishing for Litter scheme. ME5418: Fishing for Litter in the South West. PAME Website (<https://pame.is/document-library/desktop-study-on-marine-litter-library/additional-documents/619-department-for-2016-an-evaluation-of-the-fishi/file>)
- ・参考資料 7) : Madricardo, F., Ghezzi, M., Nesto, N., Kiver, M., Joseph, W., Fausson, G. C., ... & Moschino, V. (2020). How to deal with seafloor marine litter: an overview of the state-of-the-art and future perspectives. *Frontiers in Marine Science*, 830.
- ・参考資料 8) : NOWPAP MERRAC、Marine Litter Management : The approach of Incheon City, Republic of Korea,
(<https://wedocs.unep.org/bitstream/handle/20.500.11822/26199/marinelittermanagement.pdf?sequence=1&isAllowed=y>)
- ・参考資料 9) : NOWPAP MERRAC、Best Practices in dealing with Marine Litter in Fisheries, Aquaculture and Shipping sectors in the NOWPAP region,
(<https://www.unep.org/nowpap/resources/report/best-practices-dealing-marine-litter-fisheries-aquaculture-and-shipping-sectors>)
- ・参考資料 10) : Asociacion Proyecto Ecopuertos,
(<https://ecopuertos.org/index.php>)
- ・参考資料 11) : FARNET (Fisheries Areas Network)、Fishing for litter.
(https://webgate.ec.europa.eu/fpfis/cms/farnet2/on-the-ground/good-practice/projects/fishing-litter_en)
- ・参考資料 12) : Kershaw, P., Turra, A., & Galgani, F. (2019). Guidelines for the Monitoring and Assessment of Plastic Litter in the Ocean. GESAMP reports and studies.
- ・参考資料 13) : 上久保裕志・滝川 清・増田龍哉・新川 晃・中村秀徳 (2013)、「八代海における浮遊ゴミの漂流特性」、土木学会論文集 B3 (海洋開発)

- ・参考資料 14) : Valentina Franco-Trecu, Massimiliano Drago , Helena Katz , Emanuel Machín, Yamandú Marín. (2017). With the noose around the neck: Marine debris entangling otariid species. Environmental Pollution. (<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0269749116323272>)
- ・参考資料 15) : 栗山雄司・東海 正・田嶋健治・兼廣春之 (2003)、「東京湾海底におけるごみの組成・分布とその年代分析」、日本水産学会誌
- ・参考資料 16) : 福岡市市役所農林水産局 HP、「FUKUOKA おさかなレンジャー」、(<https://www.city.fukuoka.lg.jp/nosui/suisanshinko/life/fukuokaosakanarenzya-.html>)
- ・参考資料 17) : Yahoo! JAPAN SDGs HP、「博多湾の魚が海底ごみでピンチ。解決のために行政、ダイバー、漁業者が連携。」、(<https://sdgs.yahoo.co.jp/featured/71.html>)
- ・参考資料 18) : ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング HP、「【ネクストゴール 400 万円に挑戦中】海洋プラスチックゴミを回収して海洋生態系と漁場環境を守るー漁業操業中に見つけた海洋プラごみを回収ー」、(<https://www.furusato-tax.jp/gcf/2174>)
- ・参考資料 19) : 佐賀県 HP、「NPO・NGO 経営者の皆さまへ 佐賀県を活動の拠点にしませんか?」、(<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00346571/index.html>)
- ・参考資料 20) : 水産庁 HP、「プラスチック資源循環 (漁業における取り組み)」、(https://www.jfa.maff.go.jp/j/sigen/action_sengen/190418.html)
- ・参考資料 21) : TRANS HP、「漁網リサイクル | 廃棄漁網で作るリサイクルグッズを集めてみました!」、(http://www.trans.co.jp/column/sdgs/recycled_fishingnets/)
- ・参考資料 22) : Zerowasteman HP. 6 Companies that turn ghost nets into great products. (<https://www.zerowasteman.com/ghost-nets-into-great-products/#definition>)
- ・参考資料 23) : 日本財団 HP、「廃棄漁網から生まれた鞆をお披露目 「豊岡鞆」 から 10 月 1 日 (金) 販売へ」、(<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2021/20210721-59674.html>)
- ・参考資料 24) : 豊岡鞆 HP、「海を守る 漁網再生素材の鞆」、(<https://toyooka-kaban.jp/online-exhibition2022aw/product-for-the-blue/>)
- ・参考資料 25) : SDGs ONLINE HP、「『BE EARTH-FRIENDLY』-漁網アップサイクル産学連携プロジェクト- 文化学園の学生が制作した 24 点のアイテムから選ばれた入賞作品を DAIWA Apparel Showroom にて展示開始」、(<https://sdgsonline.jp/78833/>)
- ・参考資料 26) : GLOBERIDE HP、「資源循環の推進」、(<https://www.globeride.co.jp/sustainability/materiality/resource>)
- ・参考資料 27) : RECYCLING TODAY HP. How abandoned fishing nets are recycled into nylon. (<https://www.recyclingtoday.com/news/abandoned-fishing-nets-recycled-into-nylon/>)
- ・参考資料 28) : patagonia HP. NetPlus® Recycled Fishing Nets. (<https://www.patagonia.com/our-footprint/netplus-recycled-fishing-nets.html>)

- ・参考資料 29) : NATIONAL GEOGRAPHIC HP. These Communities Turn Discarded Fishing Nets Into Carpets. (<https://www.nationalgeographic.com/science/article/heather-koldeway-explorer-nets-plastic-philippines-ocean-culture>)
- ・参考資料 30) : Samsung HP. Galaxy's Purposeful Innovation With Discarded Fishing Nets. (<https://www.samsung.com/sg/news/local/galaxys-purposeful-innovation-with-discarded-fishing-nets/>)
- ・参考資料 31) : TEIJIN HP、「トレーサビリティに対応した漁網由来の再生ポリエステル樹脂製の配膳用トレーの開発と展開」、(https://www.teijin.co.jp/news/2022/06/30/20220630_01.pdf)
- ・参考資料 32) : DESU TECH HP. Can you believe it? Turning discarded fishing nets into rPET resources for reuse. (<https://desuplastic.com/study/can-you-believe-it-turning-discarded-fishing-nets-into-rpet-resources-for-reuse/>)
- ・参考資料 33) : 一般社団法人 ALLIANCE FOR THE BLUE HP、「100年後の子どもたちにも恵みの多い海を」、(<https://www.alliancefortheblue.org/>)
- ・参考資料 34) : PADI HP、「AWARE（日本）の新しい取り組み「廃漁網の回収とリサイクルプロジェクト」がスタート!」、(https://blog.padi.com/jp/jp_ghostfishingnet-recycle/)
- ・参考資料 35) : Marine Diving web、「PADI&PADI AWARE（日本）による SDGs 活動「廃漁網の回収とリサイクルプロジェクト」スタート!」、(<https://marinediving.com/topics/28499.html>)
- ・参考資料 36) : WWF ジャパン HP、「地域と一緒に！漁網のみらいプロジェクト」、(<https://www.wwf.or.jp/campaign/gyomo-mirai/>)
- ・参考資料 37) : MIRU Plus HP、「WWF が取り組む「漁網リサイクル」その背景と経緯、そして今」、(<https://plus.iru-miru.com/ja/article/44965>)
- ・参考資料 38) : ocean α HP、「海にも漁業者にも優しい！廃漁網回収リサイクルプログラム「NET RE-VALUE PROGRAM」」、(<https://oceana.ne.jp/diving/diving-news/124688>)
- ・参考資料 39) : Ellange HP、「END FISHING NET POLLUTION 漁網汚染を根絶する」、(<https://www.ellange.jp/>)
- ・参考資料 40) : 嘖嘖 HP、「海廢循環小漁包—海廢漁網循環再生計畫」、(<https://www.zeczec.com/projects/thecircularproject>)
- ・参考資料 41) : 山口県 HP、報道発表「山口県漁協青壮年部連合会防府支部の漁業者が操業中にとれた 海ごみの自主回収作業を行います!」、(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/196654.html>)
- ・参考資料 42) : Web 東海新報、海洋ごみ回収促進へ 漁港のコンテナ設置始動 廃プラなど影響減狙う」、令和 2 年 11 月 20 日、(<https://tohkaishimpo.com/2020/11/20/308461/>)
- ・参考資料 43) : 宮古市 HP、「海岸漂着物対策事業」、(<https://www.city.miyako.iwate.jp/suisan/kaiganhyoutyakubututaisakujigyou.html>)
- ・参考資料 44) : 読売新聞オンライン、「海底ゴミ回収 漁師に協力金」、2024 年 1 月 18 日、(<https://www.yomiuri.co.jp/local/okayama/news/20240117-0YTNT50255/>)

- ・参考文献 45) : 日本財団・瀬戸内オーシャンズ X HP、「戦略的な海洋ごみの削減・地域循環型社会形成助成プログラム」、(<https://fund.setouchi-oceansx.jp/detail>)
- ・参考文献 46) : 朝日新聞 DIGITAL、「青森）浜が力を合わせて海底ゴミを回収」、2020 年 6 月 28 日、(<https://www.asahi.com/articles/ASN6W6V3RN6WULUC00L.html>)
- ・参考文献 47) : 一般社団法人 全国底曳網漁業連合会、「沖合・以西底びき網漁業のデータブック」、2021 年 11 月、
(http://zensokoren.or.jp/databook/okisoko-isei-databook_2021_09.pdf)
- ・参考文献 48) : 環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室、「海洋ごみ発生抑制対策等事例集」 令和 3 年 6 月、(<https://www.env.go.jp/content/900543328.pdf>)
- ・参考文献 49) : 日本財団海と日本プロジェクト HP 海ごみアップサイクル展 in 銀座、(<https://uminohi.jp/eventsearch/event-1322/>)
- ・参考文献 50) : 日刊水産経済新聞、「各浜で海プラ対策を 日本周辺で漁業系ゴミ増大」、2024 年 2 月 27 日
(<https://www.suikai.co.jp/%e5%90%84%e6%b5%9c%e3%81%a7%e6%b5%b7%e3%83%97%e3%83%a9%e5%af%be%e7%ad%96%e3%82%92%e3%80%81%e6%97%a5%e6%9c%ac%e5%91%a8%e8%be%ba%e3%81%a7%e6%bc%81%e6%a5%ad%e7%b3%bb%e3%82%b4%e3%83%9f%e5%a2%97%e5%a4%a7/>)
- ・参考文献 51) : 「未来の海を守ろう！海ごみへらすブック」、令和 6 年 3 月、ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団 護海袋プロジェクト
- ・参考文献 52) : 釣り具新聞 「海底から回収したルアーを溶かし、新たなルアーに。ゴミから作られた「メタルフェニックス」【マリンスイーパー】」、2023 年 4 月 28 日、
(<https://tsurigu-np.jp/news/15377/>)
- ・参考文献 53) : NEURALWORKS. HP、「FISHAND/ 国内で編む、漁網のリサイクルプロジェクト」、(<https://www.goldwin.co.jp/neutralworks/info/journal/20221118fishand>)
- ・参考文献 54) : Team Expo 2025 HP、「海からの贈り物 “漁網から創った漆塗風食器”」、(<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/79>)
- ・参考文献 55) : globeride、「『BE EARTH-FRIENDLY -漁網アップサイクルプロジェクト-』(前編)「自然との共生」という視点からとらえた環境課題への取り組み」、2023 年 4 月 3 日
(https://www.globeride.co.jp/features/page19?_ga=2.1867186.2077337177.1698912733-1380409923.1698912733https://www.globeride.co.jp/features/page20)
- ・参考文献 56) : globeride、「『BE EARTH-FRIENDLY -漁網アップサイクルプロジェクト-』(後編) サステナブルな社会を目指す取り組みの構築」、2023 年 4 月 17 日、
(<https://www.globeride.co.jp/features/page20>)
- ・参考文献 57) : 日本道路株式会社 HP、「国内初！使用済み漁網をリサイクルした舗装材の実証実験を開始しました」、(<https://www.nipponroad.co.jp/info/2023/121501.html>)
- ・参考文献 58) : 宮城県 HP、「廃漁網をリサイクルしたアスファルト改質剤の県道への試験施工について」、(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/junkan/3r-sikensekou.html>)
- ・参考文献 59) : コクヨ株式会社 HP、「漁網をリサイクルしたネオクリッツ」、
(<https://www.kokuyo-st.co.jp/en/stationery/neocritz-fishingnets/>)

- ・参考文献 60) : 日刊水産経済新聞 「漁網から食器、水産資材」、2021年11月16日
(<https://www.suikei.co.jp/%e6%bc%81%e7%b6%b2%e3%81%8b%e3%82%89%e9%a3%9f%e5%99%a8%e3%80%81%e6%b0%b4%e7%94%a3%e8%b3%87%e6%9d%90/>)
- ・参考文献 61) : 日本財団 海と日本 PROJECT in ながさき HP、「国内初 海の漁で使われる『漁網』を資源に【平戸市】」、
(<https://nagasaki.uminohi.jp/information/%e5%9b%bd%e5%86%85%e5%88%9d-%e6%b5%b7%e3%81%ae%e6%bc%81%e3%81%a7%e4%bd%bf%e3%82%8f%e3%82%8c%e3%82%8b%e3%80%8e%e6%bc%81%e7%b6%b2%e3%80%8f%e3%82%92%e8%b3%87%e6%ba%90%e3%81%ab/>)
- ・参考文献 62) : 長崎新聞、「PET 漁網リサイクルで実証事業 長崎県平戸・生月の館浦漁協 帝人などと3者で」、2023年5月30日、(<https://nordot.app/1036095133650780190>)
- ・参考文献 63) : 館浦漁業協同組合 HP、「ポリエステル (PET) 製漁網リサイクル」、
(<https://jf-tachiura.or.jp/pages/30/>)
- ・参考文献 64) : Sakanadia、「JF 北海道ぎょれん、リサイクル大手の鈴木商会と共同で漁網リサイクル」、2022年7月22日
https://sakanadia.jp/torikumi/hokkaido_gyoren_recycling/)
- ・参考文献 65) : 北海道建設新聞社、「漁網をナイロン原料に 苫小牧プラ・ファクトリー 開所」、2022年6月16日、(<https://e-kensin.net/news/148505.html>)
- ・参考資料 66) Alyssa Rodolfich1, Eric Sparks, Benedict Posadas, Keith Chenier1, Ryan Bradley, Caitlin Wesse, and Sarah Cunningham "The development of a derelict crab trap removal incentive program for commercial shrimpers" 2022
- ・参考資料 67) Posadas, Benedict C., Eric L. Sparks, Sarah R. Cunningham, and Alyssa E. Rodolf "Qualitative assessment of the impacts of marine debris on Mississippi commercial shrimping" 2021
- ・参考資料 68) Rodolfich, Alyssa, Eric Sparks, Benedict Posadas, John Rodgers, Adam Skarke, Ryan Bradley, and Caitlin Wessel. "The distribution and direct impacts on the commercial shrimping industry" Marine Pollution Bulletin (accepted with revisions)"
- ・参考資料 69) A. M. Scheld, D. M. Bilkovic & K. J. Havens "The Dilemma of Derelict Gear" 2016
- ・参考資料 70) 海洋プラごみ回収とその固形燃料化による海洋環境保全と地球環境保全 | ふるさと納税のガバメントクラウドファンディングは「ふるさとチョイス」(https://www.furusato-tax.jp/gcf/3743#products_list)
- ・参考資料 71) 漁業協 HP ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業 (<https://www.gyoankyo.or.jp/alps-fund-project>)
- ・参考資料 72) 水産庁 HP 水産多面的機能発揮対策
(https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_thema/sub391.html)
- ・参考資料 73) 国土交通省 HP 災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業 (流木関連・補助) (<https://www.mlit.go.jp/common/000055611.pdf>)

- ・参考資料 74) 農林水産省 HP 韓国・中国等外国漁船操業対策
(https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r5hosei_pr54.pdf)
- ・参考資料 75) NPO 法人クリーンオーシャンアンサンブル、香川県方式漁業者との海洋ごみ MAP での回収の見える化・定量化の連携を開始 | NPO 法人 Clean Ocean Ensemble のプレスリリース PRTimes 2024 年 6 月 28 日
([https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000110850.html](https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000017.000110850.html))
- ・参考資料 76) 宮崎市公式ホームページ 宮崎の海をきれいに-宮崎市漁場の海底清掃-
(https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/business/agriculture_and_fisheries/forestry_fisheriesindustry/373360.html)
- ・参考資料 77) Facebook 愛媛県漁業協同組合三崎支所
(https://www.facebook.com/story.php/?story_fbid=813292287657029&id=100069287964738)
- ・参考資料 78) 水島財団 HP 大室さんと漁業&海ごみについて体験しませんか
(<https://mizushima-f.or.jp/news/5902/>)
- ・参考資料 79) エコパークあぼし姫路市網干環境楽習センターホームページ
「海洋ごみの勉強会 2022 年 10 月 9 日開催分」結果報告
(<https://ecopark.or.jp/news.php?fixid=20221029160043>)
- ・参考資料 80) 一般社団法人日本 RPF 工業会ホームページ RPF とは
(<https://www.jrpf.gr.jp/rpf-1>)
- ・参考資料 81) 真珠養殖のごみを、地域の財産に。伊勢志摩で始まった廃漁具の水平リサイクル IDEAS FOR GOOD 2024 年 9 月 10 日
(<https://ideasforgood.jp/2024/09/10/circular-fish-net/>)
- ・参考資料 82) REMARE ホームページ (<https://remare.jp/materials>)
- ・参考資料 83) 株式会社トンボ鉛筆ホームページ ピットエア―漁網リサイクル
(https://www.tombow.com/products/pit_air_fn/)

11.2 更新情報・新規事例

国内外における海底ごみ回収事業の事例について、令和3～6年度に取りまとめた情報から更新及び追加を行った。以下の項目に沿って、インターネット等を用いて情報を収集しとりまとめた。

- (1) 海洋ごみ回収の取組による漁場や漁業への影響、効果
 - (2) 漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題
 - (3) 関係者及び市民に向けての成果の発信方法等
 - (4) 回収したごみの利活用、廃棄漁網の利活用等
- 以下に収集した国内外情報の概要を整理した。

(1) 海洋ごみ回収の取組みによる漁場や漁業への影響、効果

沿岸漁業（定置網や養殖生簀などの固定式の網漁具、底曳き網などの動的漁具、漁獲対象を限定する釣り漁具による漁業及び磯場での採介藻漁業など）で海洋ごみによる影響が発生している。過年度は、漁船・漁具・養殖施設への被害、水産資源及び海洋生態系への影響、漁業経営・操業への負荷などの影響を整理した。

漁船・漁具への被害としては、ごみのスクルーへの絡まり、取水取り入れ口への吸い込みによる航行の影響や、ごみが漁網に絡みついて破損を引き起こすことが挙げられた。

養殖施設への被害としては、台風・豪雨の流出ごみによる養殖施設の損傷、河川から流出した堆積物等による海域・海底環境の悪化が挙げられた。

水産資源や海洋生態系への影響としては、プラスチック製漁具やロープに海洋生物が絡まり、窒息・損傷・死亡を招くこと、プラスチックの誤飲による消化管閉塞、栄養吸収率の低下、成長阻害を招くことや、海底ごみの堆積による底質環境の悪化など生息環境の破壊などが挙げられた。

漁業経営・操業への負荷としては、ごみ除去作業に時間を要することで本来の操業時間が減少すること、ごみの処理費用を漁業者または自治体が負担する必要があること、出水等で大量のごみが出た際には出漁不能になること、混獲ごみで漁獲物が損傷・品質低下し、市場価値が下がることなどが挙げられた。

1) 海洋ごみによる漁場への影響⁸⁴⁾⁸⁵⁾

本年度は新たに、アマモ場への影響について調査、実験を行った文献が確認できた。

長崎大学の Alifro Maldini、松下吉樹らは、長崎県内の複数の海域において、海底に堆積したプラスチックごみが海洋生物や生態系に与える影響を、底びき網漁業の混獲ごみの分析、刺網漁場での潜水調査及びアマモ場での長期観測の3つの手法で調査した。

橘湾での底びき網を利用した調査では、6か月間に523個（29.6kg）の混獲ごみが回収され、その95%が海底プラスチックごみであった。回収されたプラごみの28%には魚類や甲殻類などの小型生物が付着した状態で見つかり、すべて死亡していた。海底プラごみの量が多いほど死亡個体数も増加する正の相関が確認され、海底プラ

ごみが生息場や隠れ家となる一方で、生物を閉じ込め死亡させる危険性が示された。

長崎市南部海域のイセエビ刺網漁場の調査では、回収された海底ごみの93%がプラスチック由来であり、その7~20%がサンゴ類やカキ礁などの固着性生物に絡まっていた。特に、複数種の漁具が固まった大型の海底プラごみでは、ヤギ類の刺胞動物や小型イセエビが死亡した状態で見つかり、プラごみの絡まりが固着生物の呼吸や摂食を長期的に阻害する可能性が指摘された。

アマモ場の調査では、長崎県の新上五島町の有川湾内の2地点において、海底ごみがアマモ場に与える影響とごみを除去した際の効果について実験を行った。実験は海洋ごみを除去することでアマモの被度と面積の変化を追跡する回復実験と、アマモの上に漁網を設置し数日間の影響を測定する影響実験の2つを行った。回復実験では、「ごみを継続的に除去する区画」と「途中で除去を止める区画」の2つを対比した。ごみは4年間で合計426kg回収され、ごみの除去を続けた区画は、除去を止めた区画と比較し、高い割合でアマモ場が拡大した。また、影響実験では、漁網を放置した区画と何もない区画を67日~252日での影響を比較した。漁網を放置した区画では個体密度が顕著に低下した。

海底ごみによるアマモの影響としては、光量が減少することによる光合成阻害や水交換阻害による低酸素化が挙げられ、海底ごみを回収することでそれらの影響を除去できるほか、ごみのあったスペースが空くことでアマモが地下茎をより伸ばせるようになり、アマモ場の拡大が期待できると考察された。

2) 回収の効果⁸⁶⁾⁸⁷⁾

本年度は新たに、底びき網漁具を用いた海洋ごみ回収によって海底のごみがどの程度回収できるかについての文献が確認できた。

東京海洋大学のZijiang Yangらは、東京湾北部沿岸で、手繰り第3種の爪がついた桁網を使用して海底ごみを繰り返し回収する曳網実験を実施し、漁具の回収効率を推定した。実験では同じルートを10~20回以上曳網し、回収されたごみの減り方から「1回の曳網でどれだけ取り逃しているか」を推定した。

回収されたごみは、袋網の奥に入ったもの(コットエンド)と爪や網に絡まったものに分けて集計が行われた。これらから回収効率を求めたところ、コットエンドのみの回収効率は34.8%、絡まったもののみでは16.2%、合計で18.7%となり、海底ごみの回収量が海底に存在するごみの量とはならないことが示唆された。

また、桁網とビームトロールの回収効率についての比較も実施した。結果、ビームトロールではコットエンドでの回収効率が約0.9%、合計では2.0%と推定され、漁具での回収効率の差が示された。今後、実際の海底ごみの量を正確に推定するためには、漁具効率を考慮した解析が必要との知見が示された。

(2) 漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題

漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題として、これまで岡山県、広島県、大分県、福岡県、佐賀県、山口県、岩手県、兵庫県、青森県や海外のFishing for Litter

制度、Trawling Activities、Buy Back Program、Floating Receptacles などの事例を収集し課題を整理してきた。その結果、自治体と漁業者間の連携への課題、ごみ処理費用の負担先や回収されたごみの保管場所の確保、漁業者の高齢化や人手不足によるごみ回収実施者の減少など海洋ごみ回収を継続する難しさが挙げられた。

本年度は、以下の更新情報が確認された。

1) Fishing for Litter⁸⁸⁾

Fishing for Litter (以下 FFL) は、海洋ごみ問題に対する水産業の意識を高め、漁船を用いて海洋ごみを減少させることを目的とした活動である。漁業者に海洋ごみを収容するための袋を配布し、漁業者は通常の操業中に網に入ったプラスチックごみを回収し、持ち帰る。港で袋を回収し、集積されたごみをリサイクル・適正処理するために仕分けをする。漁業者はボランティアでごみを回収し、ごみの処分費用は事業で負担する。この FFL の取り組みは KIMO (Local Authorities International Environment Organization) が働きかけを行っている。

2024 年 10 月に、KIMO のオランダ・ベルギー支部が、プロジェクト開始以来 850 万 kg の海洋ごみを回収したと発表した。オランダにおいて FFL の取り組みは KIMO により、140 隻の漁船と 13 港湾で実施されている。オランダでは回収されたごみの 100% をリサイクルしている。2024 年現在、EU 加盟国のうち 9 か国で FFL が実施されており、この取り組みが成功している理由として漁業者、港湾、廃棄物収集業者、行政が協力していることによるものとされている。このように、漁業者と自治体だけでなく、港湾や廃棄物収集業者との連携が取れることが海洋ごみ回収事業を円滑に進め、事業を長期的に続けるために必要になってくる。

(3) 関係者及び市民に向けての発信方法等⁸⁹⁾

海洋ごみの回収を継続するためには、漁業者だけでなく、地元住民の理解や協力関係 NPO の参画等による地域一帯の活動としていくことが望ましい。過年度では情報発信方法による期待される効果と実際に公表されているホームページ公開や漁業者での SNS、クラウドファンディングの事例等を挙げた。

過年度まで収集した資料と期待される効果について整理し、結果を表 II-2 に示す。

本年度は、2026 年 2 月 13 日に環境省と大阪府が共同し、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて“プラスチックとの賢い付き合い方”を推進する「プラスチック・スマート」施策の一環として、官民連携による海洋プラごみ対策の強化を目的としたシンポジウムが開催された。

本シンポジウムでは、自治体・企業・団体が実施している海洋プラごみ削減の取組を紹介するとともに、瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク等の広域的な連携事例を共有し、効果的な対策の方向性を議論する場が設けられた。また、プラスマ・アワード 2026 受賞者の発表や学生による活動紹介など、多様な主体による実践例の報告が行われた。

併せて、自治体・企業・団体が互いの取組を紹介し合い、官民連携をさらに促進するためのネットワーキングイベントも実施され、海洋プラスチック問題に対する理解促進と今後の連携強化に資することが期待されている。

表 II-2 海洋ごみ回収への関心を喚起する情報発信

情報の発信者 (誰が)	情報の受信者 (誰に)	手段、媒体 (どのように)	周知する内容 (何を)	期待される効果 (何のために、どうする)	参考資料
自治体	地元住民 (地元限定しない場合もあり)、漁協・漁業者等	ホームページ、自治体広報紙、TV、新聞	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs との関係 ・実際に海洋ごみが海洋中に漂流・堆積している状況 ・操業中に回収される海洋ごみの総量や品目 ・海洋ごみが海の生物に与える危険性 ・イベント、コンテスト情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみに対する環境問題としての認識の定着 ・操業時のごみ回収の推進と成果広報による認識拡大 ・海洋ごみには陸域起源のものも多いという認識の共有 ・陸域だけでなく、航行船舶起源のごみ発生抑制 ・自治体(環境、水産部局)の協力と推進に関する認識拡大 	20,51
	児童、生徒	漁業者、自治体職員、等による出前授業	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs との関係 ・海洋ごみの回収取組の状況とその成果等 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の環境保全意識向上 ・漁業者の回収意欲向上 	78,79
自治体 漁業者	地元住民等 (地元限定しない場合もあり)	漁協・自治体のホームページ、自治体広報紙、TV、新聞	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみの回収取組の状況 ・回収された海洋ごみの種類と量 ・キャラクター(UMI ゴミレンジャー)の創出と活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への地域住民の関心拡大 ・回収ごみ分別作業等へのボランティアの参加推進 ・ふるさと納税、水産物のブランド化による経済振興、観光力アップ効果 ・シンポジウムやセミナーの開催 	20,47, 48,76
漁業者 (NPO)	自治体、住民、企業	漁協のホームページ SNS、YouTube、クラウドファンディング	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみの回収取組の状況と効果 ・海洋ごみ回収に係る問題点(費用、労力の不足と一部補助要請) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ回収活動への理解の拡大 ・負担(労力、処分費用等)の軽減 ・社会貢献、CSR(社会的責任)活動の場の提供 	49,75, 77

(4) 回収したごみの利活用、廃棄漁網の利活用等

1) 廃棄漁網の活用⁹⁰⁾⁹¹⁾

海底ごみの中で大きな割合を占め、尚且つ大きな影響を及ぼすものとして廃棄漁網が挙げられる。海底に沈んだ廃棄漁網は「ゴーストギア」または「ゴーストネット」と呼ばれ問題視されている。

日本で漁具に用いられているプラスチックの量は、日本で製造・消費されるプラスチック生産量のうちの0.2%に相当する約2万トンと推計されている。漁具が時化や荒天で偶発的に海洋に流出するほか、使用済みの漁具には塩分や生物が付着しており、複数の素材が組み合わさって製造されているため分離・分別難易度が高く、多くはそのまま埋め立て処分され問題となっている。

漁具をめぐる問題について様々な対応がなされている。例えば、漁具の流出対策としては、世界的にFAO(国連食糧農業機関)が漁具の所有者を示すマーク付記を推奨する「漁具マーキングのための自主的ガイドライン」を2018年に策定、さらに2023年に「漁具マーキングのマニュアル」、「漁具のマーキングに関するリスクアセスメントを実施するためのフレームワーク」が策定されている。

日本では、漁業者も一事業者として廃棄物を適切に計画的に処理するための手順を「漁業系廃棄物計画的処理推進指針」として水産庁が2020年に示し、漁業者自らが発生量・時期の把握及び処理に必要な作業量やコストを考慮することが推奨されている。

また、地域内で大量に発生する同一種類の廃棄物については、漁業者団体等が中心となって集団的かつ計画的な処理を行うことを推進している。

さらに、官民連携で漁網リサイクル等を進めており、過年度に情報収集した北海道漁協連合会や館浦漁協などが漁業者・漁協・企業と連携して廃棄漁網のリサイクルを進めている。

本年度は新たに、自治体が主導となってリサイクルした事例が確認できた。

山口県では、プラスチックごみの減量化と地域での資源循環を推進するため、令和7年度に周防大島町を中心としてプラスチック製漁網及びカキ養殖用パイプの回収と再資源化を実施した。回収された漁網約220kg、カキ養殖用パイプ約190kgは、汚れの少ないものをペレットとして再資源化し、汚れの多いものは溶融して板材に加工した。そして板材で作成されたベンチ3基は、山口県庁や周防大島町内に設置された。これらは海洋ごみ問題への関心を高める啓発効果を有する取組であり、今後は周防大島町や県内の大学と連携し、再生ペレットの利活用や新たな製品開発を進め、地域でのプラスチック資源循環を促進するとしている。

表 II-3 令和7年度で追加した情報

項目	内容	参考資料
(1)海洋ごみ回収の取り組みによる漁場や漁業への影響、効果		
漁業・養殖業への影響	・水産生物への影響 ・アマモ場への影	84, 85
回収の効果	・1回の曳網でのごみの回収効率	86, 87
(2)漁業者と自治体の協力体制の構築に係る課題		
海外の事例	・Fishing for Litter	88
(3)関係者及び市民に向けての発信方法等		
	・過年度収集した情報と期待できる効果の整理 ・国と府共同でのプラスチック対策イベント	89
(4)回収したごみの利活用、廃棄漁網の利活用等		
廃棄漁網の活用	・日本での取り組み状況 ・自治体中心での取り組み	90, 91

II.3 海洋ごみ回収等の取り組みに関する留意点

文献・事例収集の結果を踏まえ、海洋ごみ回収の取り組みに関する留意点等を以下に整理した。

(1) 海底ごみによる影響の公表

海底ごみによるアマモ場への影響を示す文献が新たに確認された。

アマモ場は小魚や甲殻類の産卵・生育の場として機能する重要な生態系である。また、CO₂吸収効果を有すことからブルーカーボンクレジットの取り組みなどでも注目されており、保全やアマモ場の造成活動が各地で行われている。これらのアマモ場に対して海底ごみを与える影響、そしてごみを回収することでアマモ場の拡大に寄与する可能性が文献によって示された。こうした知見を積極的に公開し、関係者に海洋ごみ回収の意義と利点を分かりやすく伝えることで海洋ごみ回収のさらなる普及が期待される。

(2) 海洋ごみ回収結果による海底ごみの現存量の推計

海底ごみ回収を行う漁具ごとのごみ回収効率（一度の曳網で海底ごみの何%が網に入るか）を推計した文献が新たに確認された。操業によって回収される海底ごみは、底曳網の袋網部分（以下、コットエンド）に入るごみと網目や爪に絡みつくとごみの2種類に分類されるとしている。

底びき網の手繰り第3種の桁網（爪あり）では、コットエンドのみのごみ回収効率は34.8%、絡まったごみだけでは16.2%、両方を合わせたごみ試料は18.7%と推計された。手繰り第2種であるビームトロールでは同一海域での調査により、コットエ

ンドの回収効率が約 0.9%、コットエンドと絡みついたものを合わせた試料では 2.0%と推計された。

これらの結果から、海底ごみの回収量は、海底に存在するごみ量の 100%を反映するものではないことが明らかになった。今後、海底ごみの正確な現存量等を把握するためには、漁具ごとの回収効率を考慮した推計が必要である。

一方で、漁具による海底ごみの回収効率が示されたことにより、漁業者が作業時に回収したごみが海底に存在するごみの何%に相当し、どの程度海洋環境に寄与するかを数値で説明できる可能性が広がった。このことは、海洋ごみ回収への意欲向上につながることを期待される。

本年度収集した情報のうち、自治体を中心となって取り組んでいる優良事例を表 II-4 に示す。

これまで、漁網の回収、リサイクルについては企業と漁協での連携で実施している事例が多かった。自治体を中心となってリサイクルを進めることで、漁業者と自治体間の連携が取れるようになり、より海洋ごみ問題に対する連携が図れるようになることが期待できるほか、本件のベンチのように自治体から市民にリサイクル製品を使用してもらうことで市民のリサイクル意識の向上も期待できる。

表 II-4 優良事例

優良事例	実施主体
自治体を中心とした漁網リサイクル	山口県 周防大島町

—参考資料—

・参考資料 84) : Maldini, A., Kabeyama, M., Kobayashi, T., Aota, T., Ansai, H., Takashima, N., Matsushita, Y., & Nishihara, G. N. (2026). Efficacy of removing marine debris and the effects of sustained exposure on a *Zostera marina* meadow. *Marine Pollution Bulletin*, 225, 119214.

・参考資料 85) : 松下吉樹・Saranya Raju・Gregory N. Nishihara・Alifro Maldini (2025) 「海底プラスチックごみの回収支援に向けた手法・技術の開発研究」『水産工学』61 (3) : 175-178.

・参考資料 86) : Yang, Z., Soejima, R., Shiode, D., & Tokai, T. (2026). Comparative towing experiment to evaluate efficiency between beam trawl and dredge for capturing seafloor litter. *Marine Pollution Bulletin*, 223, 118997.

・参考資料 87) : Yang, Z., Soejima, R., Shiode, D., & Tokai, T. (2026). Estimating gear efficiency of toothed fishing dredge for collecting seafloor litter. *Marine Pollution Bulletin*, 222, 118782.

・参考資料 88) : IDEASS (2025). Results of “Fishing for Litter” in 2025 involving fishermen to reduce marine litter. IDEASS Programme.

<https://www.ideassonline.org/public/pdf/FishingforLitter2025-ENG.pdf>

・参考資料 89) : 環境省 HP 令和 7 年度プラスチック・スマートシンポジウム×ネットワーキングイベント「官民連携で進める海洋プラごみ対策のこれから」の開催について

https://www.env.go.jp/press/press_02148.html 2025 年 3 月 10 日アクセス

・参考資料 90) : 津山桂子 (2025). 「漁業における海洋プラスチックごみ問題をめぐる状況と対策」『水産工学』61 (3) : 179-182.

・参考資料 91) : 山口県 HP 県庁と周防大島町に「海洋プラスチックリボンベンチ」を設置しました！～地域でのプラスチック資源循環に向けた取組～

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/40/333402.html> 2026 年 3 月 13 日アクセス

(空白ページ)

第III章 海底ごみ現地調査の実施

III.1. 調査概要

7地域で操業している漁業者に協力を要請し、以下の方法でごみの回収調査を実施した。

(1) 調査時期

実証地域別の調査期間及び調査隻日等は、表 III. 1-1 に示す。

表 III. 1-1 実証地域別調査期間・調査隻日数等

調査海域・地点	自治体窓口	協力漁協	漁業種	漁期	操業による海底ごみ回収							
					過年度	R7年度		現地調査 実施日				
						予定 調査時期	協力隻数		実績 調査時期	協力隻数		
①加賀市沿岸域	石川県加賀市 (環境)	石川県漁協 加賀支所	底びき網 手繰り第1種	9/1~6/30	R2.3: 10/中~下	9/下~10/上	11	10/8, 16	11	22隻日	10/22, 23	
瀬戸内海	②播磨灘(東)	兵庫県洲本市 (水産)	五色町漁協	底びき網 手繰り第3種	10/1~3/31	R2.3: 10/下~11/上	10/中以降	13	10/20~26	11	27隻日	10/30
	③備讃瀬戸(西)	香川県丸亀市 (水産)	中讃西部漁協 丸亀支所	底びき網 手繰り第2種	1/1~12/31	H26: 1/中~下	9/下以降	5	10/6~12/11	4	20隻日	12/17
	④備讃瀬戸(水島灘)	岡山県浅口市 (環境)	寄島町漁協	底びき網 手繰り第3種	12/1~3/31	H26: 1/上~2/上	12/上~12/下	2	11/1~16	2	20隻日	11/26, 27
	⑤備後灘	広島県尾道市 (環境、水産)	因島市漁協	底びき網 手繰り第2, 3種	2種: 1/1~12/31 3種: 12/1~3/31	H26: 1/中~2/中	12/上~12/下	3	11/20~12/11	3	26隻日	12/15~17
	⑥燧灘(西)	愛媛県今治市 (水産)	愛媛県漁協 宮窪支所	底びき網 手繰り第3種	12/1~3/31	H26: 2/中~3/上	12/上~12/下	1	12/1~29	1	20隻日	1/7, 8
	⑦宗像市沿岸域	福岡県宗像市 (水産)	宗像漁協 大島支所	カレイ底刺し網	1/21~3/9	R2.3: 1/中~3/上	1/21以降	4	1/25~2/21	4	24隻日	2/24, 25

(2) 調査方法

調査地点の漁協等を通じて底びき網漁、刺し網漁を行っている漁業者に、

図 III. 1-1 に示す操業野帳を事前に配布し、操業時の状況（掃海面積算出のための操業時間と船速、操業回数、ごみの種類等）を野帳へ記録することと操業時に混獲された海底ごみは持ち帰り、決められた場所へ集積・保管するよう依頼した。なお、加賀市沿岸域、播磨灘（東）ではGNSS ロガーを貸与し、出港から帰港までの航跡を記録することをお願いした。

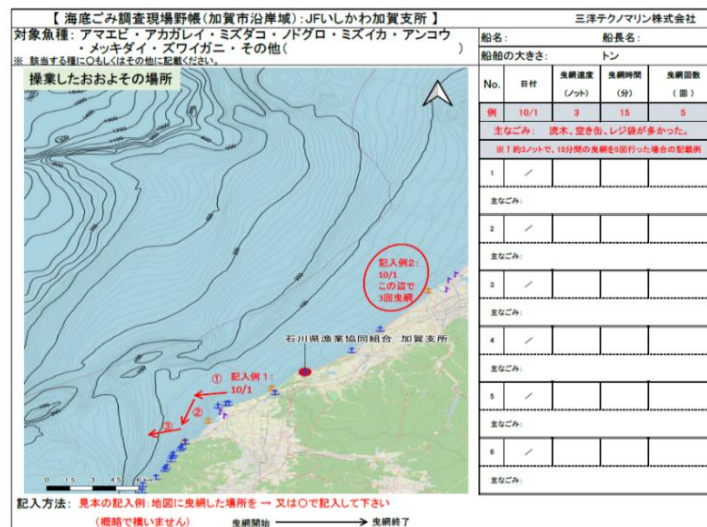


図 III. 1-1 操業野帳 (例)

(3) 海底ごみ現地計測時の分類・計測方法等

調査終了後は、調査員が現地へ赴き、保管されているごみを表 III. 1-2 に示す項目を表 III. 1-3 に示す環境省の海底ごみ分類リストに従って品目を分類し、それぞれの個数、重量（湿重量）及び容積を計測、記録した。計測対象の海底ごみは、基本的に人工物に限り、海藻、流木等の自然物は計測対象外とした。

基本的に容積は、容積が明確になっているカゴ、バット等の容器を用いて行った。

なお、容器に入らない大型のごみは、直接スケールで寸法を計測した。

上記の他に、主に食品包装やペットボトルなどの賞味（消費）期限が分かるものや、日本及び日本語以外の言語表記の推定可能なものは記録した。

また、飲料缶についてはスチール製飲料缶とアルミ製飲料缶に分別し、印字されている賞味（消費）期限年月を読み取って記録した。

1 個の重量及び容積が全体の 50%以上を占める大型ごみは、以下の統計処理データからは除外した。

◎直接計測の例

- ・箱型のごみ : 縦、横、高さを実測し、容積を計算
- ・大型のワイヤー類 : 直径と高さを実測し、容積を計算

表 III. 1-2 現地計測時の記録項目、内容・方法

項目	内容・方法
分類	・環境省提供の海底ごみ分類リストの区分に合わせて分類。 ・海藻や流木等の自然物は、計測から除外。
計測	・それぞれの分類ごとに個数・重量・容積を計測。 ・容積計測は、容積の明確なカゴ、バット等の容器を用いて行う。容器に入らない大型のごみは、直接スケールで寸法を計測。 ・漁具ワイヤー、トラックタイヤ等の重量物は、記録のみ残す（集計から除外）。
賞味（消費） 期限	・飲料缶はスチール缶とアルミ製飲料缶に分別し賞味（消費）期限年月を記録。 ・食品包装等の印字の読めるものは賞味（消費）期限年月日を記録。
言語表記	・回収されたごみのうち、日本語表記でないものは記録。

表 III. 1-3(1) 海底ごみ分類リスト

まとめ分類		調査分類
プラスチック		プラスチック
ボトルのキャップ、ふた		ボトルのキャップ、ふた
ボトル <2L	飲料用 (ペットボトル) □600m l	飲料用 (ペットボトル □600m l
	飲料用 (ペットボトル) 600<V<2L	飲料用 (ペットボトル) 600<V<2L
	その他のプラボトル □600ml	その他のプラボトル □600ml
	その他のプラボトル 600ml<V<2L	その他のプラボトル 600ml<V<2L
ボトル、ドラム型、 燃料用&バケ ツ 2L□	飲料用 (ペットボトル 2L□	飲料用 (ペットボトル) 2L□
	その他のプラボトル類 2L□	洗剤、漂白剤 2L□
		市販薬品 (農薬含む) 2L□
		食品用 (マヨネーズ・醤油等) 2L□
その他のプラボトル 2L□		
ストロー、 フォーク、 スプーン、 マドラー、 ナイフ	ストロー、マドラー	ストロー、マドラー
	フォーク、ナイフ、スプーン 等	フォーク、ナイフ、スプーン等
食品容器 (ファ ーストフード、カッ プ、ランチボックス &それに類す るもの)	カップ、食器	カップ、食器
	食品容器	食品の容器
		食品トレイ
-	-	小型調味料容器 (弁当用醤油・ソース容器)
ビニール袋 (不透明&透 明)	食品用・包装用の袋 (食品の 包装・容器)	食品用・包装用の袋 (食品の包装・容器)
		お菓子の袋
	レジ袋	スーパー、コンビニの袋
	その他プラスチック袋	農薬・肥料袋
その他の袋		
-	-	6 パックホルダー

表 III.1-3(2) 海底ごみ分類リスト

ライター		ライター
たばこ吸殻 (フィルター)		タバコのフィルター
-		文房具
		その他の雑貨類
シリンジ、注射器		注射器
生活雑貨 (歯ブラシ等)		生活雑貨 (歯ブラシ等)
浮子 (ブイ)		浮子 (ブイ)
漁具 (ルアー、 トラップ&つ ぼ)	アナゴ筒 (フタ、筒)	アナゴ筒 (フタ)
		アナゴ筒 (筒)
	カキ養殖用まめ管 (長さ 1.5cm)	カキ養殖用まめ管 (長さ 1.5cm)
	カキ養殖用パイプ (長さ 10-20cm)	カキ養殖用パイプ(長さ 10-20cm)
	-	カキ養殖用コード
	釣りのルアー・浮き	釣りのルアー・浮き
	かご漁具	かご漁具
	釣り糸	釣り糸
	-	釣りの蛍光棒 (ケミホタル)
その他の漁具	その他の漁具	
ロープ・ひも		ロープ・ひも
漁網		漁網
テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)		テープ (荷造りバンド、ビニールテープ)
苗木ポット		苗木ポット
シートや袋の破片		シートや袋の破片
釣りえさ袋・容器		釣りえさ袋・容器
燃え殻		燃え殻
-		コード配線類
		薬きょう (猟銃の弾丸の殻)
		農業資材 (ビニールハウスのパッカー等)
		シート (防水シート又はその他のプラスチック織物袋、 コンテナ(パレット)のシート)
硬質プラスチック破片		プラスチックの破片
-		漁具の破片
ウレタン		ウレタン
-		点滴バック
プラスチック梱包材		プラスチック梱包材
花火		花火
玩具		玩具

表 III.1-3(3) 海底ごみ分類リスト

-	その他の容器類
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
発泡プラスチック（発泡スチロール）	発泡プラスチック（発泡スチロール）
食品容器（発泡スチロール）	食品トレイ 弁当・ラーメン等容器
コップ、食器（発泡スチロール）	飲料用カップ
発泡スチロール製フロート・浮子（ブイ）	浮子（ブイ）
発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片
発泡スチロール製包装材	梱包資材
-	その他具体的に 魚箱（トロ箱）
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
天然繊維・革	天然繊維・革
ロープ・ひも	布ひも
-	衣服類 毛布・カーペット 布片 軍手 糸、毛糸 覆い（シート類）
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
ガラス&陶器	ガラス&陶器
建築資材	タイル・レンガ その他具体的に
食品容器	食品用容器 飲料用容器
食品以外容器	化粧品容器 市販薬品（農薬含む）容器
コップ、食器	食器（コップ、ガラス皿等） 食器(陶磁器類)
電球	電球
蛍光管	蛍光管
ガラス又は陶器の破片	ガラス破片 陶磁器類破片
-	バイアル

表 III.1-3(4) 海底ごみ分類リスト

	アンブル
	その他具体的に
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
金属	金属
金属製コップ・食器	金属製コップ・食器
フォーク・ナイフ・スプーン等	フォーク・ナイフ・スプーン等
ビンのふた、キャップ、プルタブ	ふた・キャップ
	プルタブ
アルミの飲料缶	アルミの飲料缶
スチール製飲料用缶	スチール製飲料用缶
その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	その他の缶
	食品用缶
	潤滑油缶・ボトル
	ドラム缶
金属製漁具	釣り針 (糸のついたものを含む)
	おもり
	その他の釣り用品
金属片	金属片
ワイヤー、針金	針金
-	釘 (くぎ)
電池	電池
-	アルミホイル・アルミ箔
	コード配線類
	スプレー缶 (カセットボンベを含む)
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
紙&ダンボール	紙&ダンボール
紙製コップ・食器	紙コップ
	紙皿
食品包装材	菓子類包装紙
紙製容器 (飲料用紙パック等)	飲料用紙パック
タバコのパッケージ (フィルム、銀紙を含む)	タバコのパッケージ (フィルム、銀紙を含む)
紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	新聞、雑誌、広告
	段ボール (箱、板等)
	紙片
花火	花火の筒
	花火 (手持ち花火)

表 III.1-3(5) 海底ごみ分類リスト

紙袋	紙袋
	ボール紙箱
	ティッシュ、鼻紙
	タバコの吸殻
	葉巻などの吸い口
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
ゴム	ゴム
靴（サンダル、靴底含む）	ゴムサンダル
	複合素材サンダル
	くつ・靴底
タイヤ	タイヤ
ゴムの破片	ゴムの破片
玩具・ボール	ボール
風船	風船
	ゴム手袋
	輪ゴム
	コンドーム
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
木（木材等）	木（木材等）
木材(物流用パレット、木炭等含む)	木材・木片（角材・板）
	木炭（炭）
	物流用パレット
	その他具体的に
	割り箸
	つま楊枝
	梱包用木箱
	マッチ
分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載
大型ごみ	大型ごみ
電化製品&電子機器	家電製品・家具
バッテリー	バッテリー
自転車・バイク	自転車・バイク
自動車・部品（タイヤ・バッテリー以外）	自動車・部品（タイヤ・バッテリー以外）
その他	その他
	オイルボール

表 III.1-3(6) 海底ごみ分類リスト

	タンポンのアプリケータ
	建築資材（主にコンクリート、鉄筋等）
	錠剤パック
	点眼・点鼻薬容器
	紙おむつ
	その他の医療用廃棄物
	革製品
	船（FPR 等材質を記入）

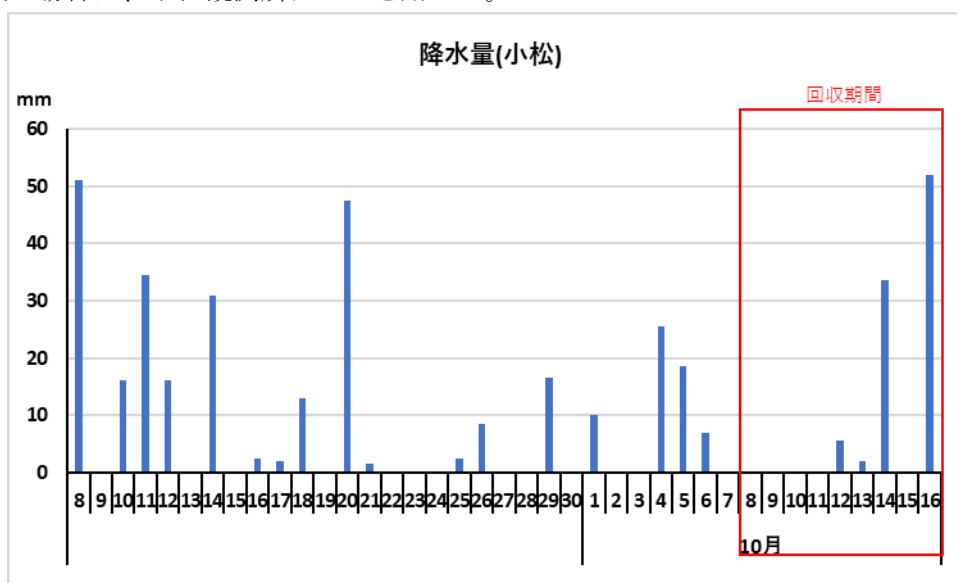
III. 2 調査結果

III. 2. 1 加賀市沿岸域

(1) 現地の状況

1) 降水量

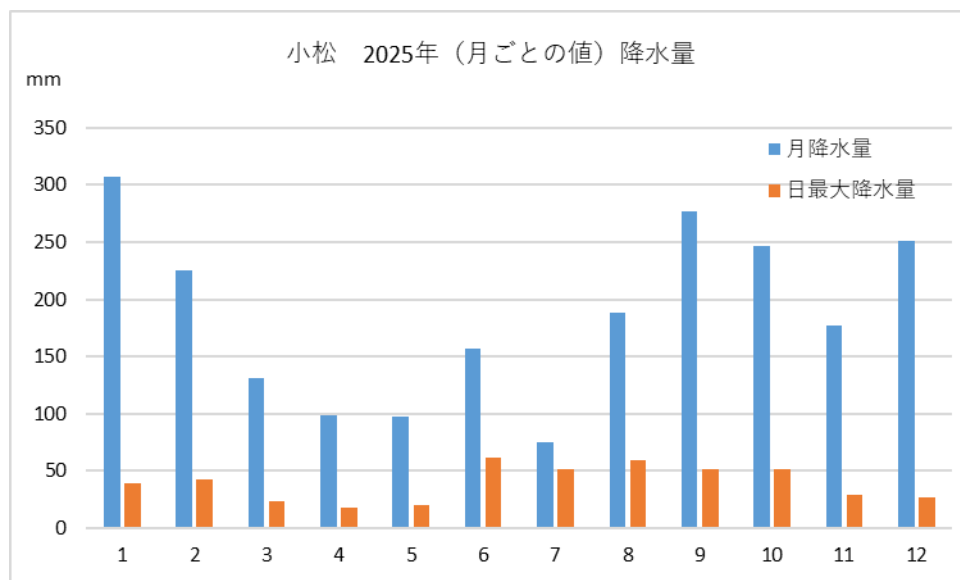
気象庁のホームページより確認した、調査期間 1ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 1-1 に、令和 7 年における月ごとの降水量を図 III. 2. 1-2 に示す。加賀市沿岸域の場合は、小松観測所データを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

(気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年2月9日閲覧) より作成

図 III. 2. 1-1 調査期間の降水量 (加賀市沿岸域：小松)



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

(気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年2月9日閲覧) より作成

図 III. 2. 1-2 月別降水量 (加賀市沿岸域：小松_令和7年)

2) 漁業情報等

石川県漁業協同組合加賀支所における漁業情報について聞き取りを行った結果は、表 III. 2. 1-1 に示す。

表 III. 2. 1-1 漁業情報（加賀市沿岸域）

漁期	9月～翌年6月
操業状況	<ul style="list-style-type: none"> ・主に沖合底びき網漁業、小型機船底びき網漁業。 ・対象魚種：アマエビ、アカガレイ、ミズダコ、ノドグロ、ミズイカ、アンコウ、メッキダイ等。11月6日からズワイガニ漁が始まる。 ・操業海域の水深は、200～450m。
海洋ごみ回収状況	・漁港に岸壁に配置されたコンテナに漁業者が持ち帰った海底ごみを集積・保管。集積された海洋ごみは、加賀市にて処分を実施。

3) 調査状況等

加賀支所所属の沖合底びき網漁と小型機船底びき網漁に従事する11隻で、22隻日の海底ごみを回収した。回収された海底ごみは岸壁の水産コンテナに集積された。

調査で使用された船舶・漁具等の仕様及び写真は、表 III. 2. 1-2 及び図 III. 2. 1-3 に、携行されたGNSSにより確認されたおおよその操業海域は、図 III. 2. 1-4 に示す。

表 III. 2. 1-2 漁具等の仕様（加賀市沿岸域）

沖合底びき網漁業、小型機船底びき網漁業	手繰り第1種
漁網の網口幅	15m
網の目合い	8cm
曳網距離	324.13km /22隻日
換算掃海面積	4.86 km ²

※換算掃海面積は、「曳網距離×漁網網口幅」より推算した。

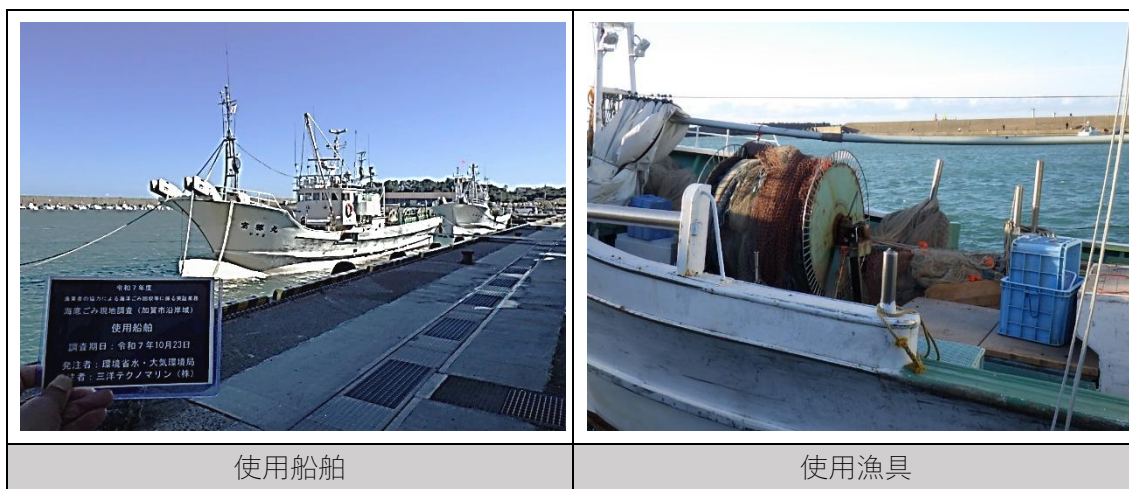


図 III. 2. 1-3 使用漁具等（加賀市沿岸域）

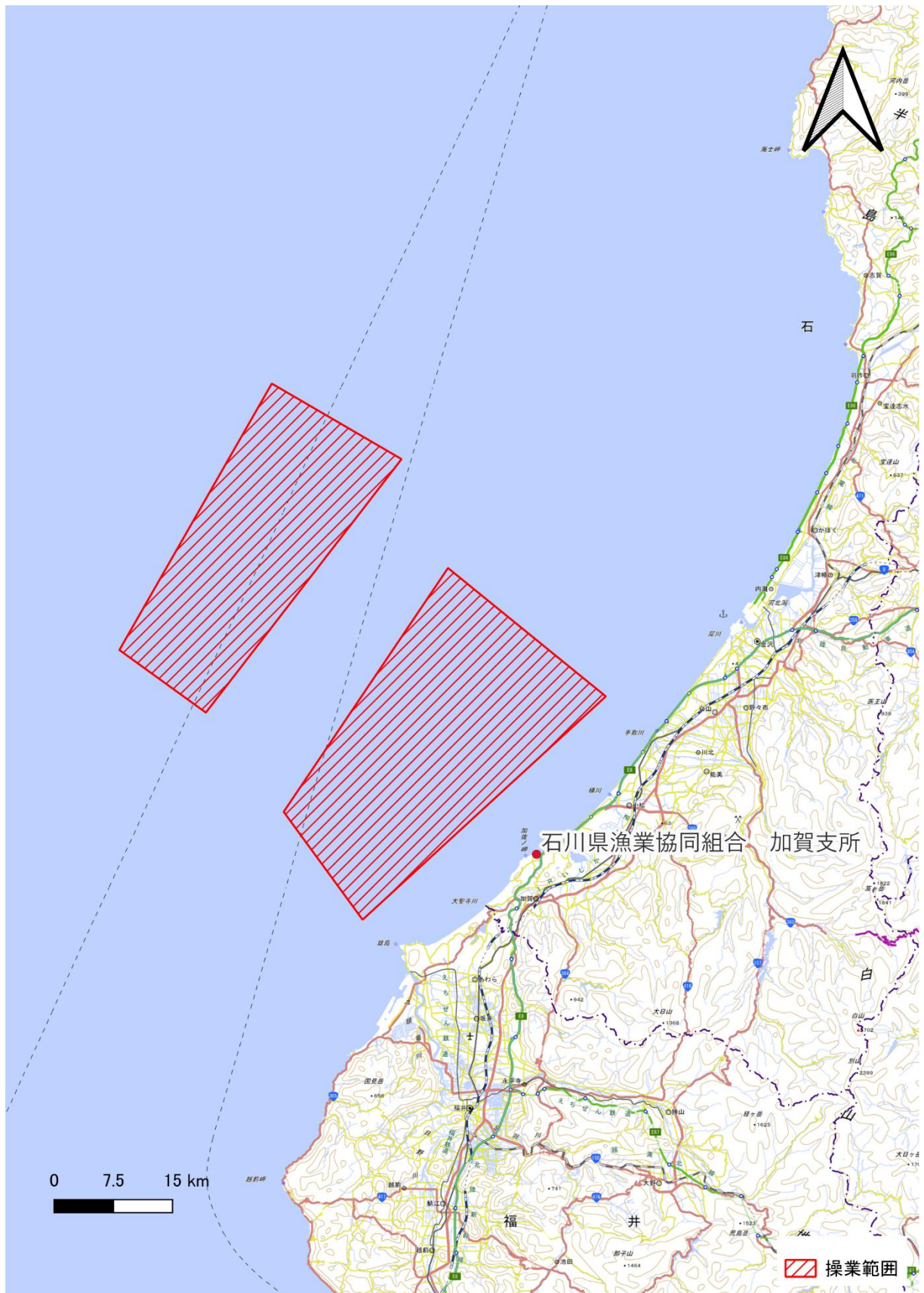


図 III. 2.1-4 操業範囲(加賀市沿岸域)

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 1-5 に示す。



図 III. 2. 1-5 回収・分別状況（加賀市沿岸域）

2) 個数・重量・容積(実数)

回収された海底ごみの個数、重量及び容積の計測結果を表 III. 2. 1-3 及び図 III. 2. 1-6 に示す。組成比の上位 3 品目について、大きい品目順に、濃い橙色で色別した。

個数全体の約 8 割、重量全体の約 3 割、容積全体の約 5 割をプラスチック類が占め、次いで木(木材等)、ゴム類の割合も重量をはじめ多かった。

表 III. 2. 1-3 海底ごみの実測結果(加賀市沿岸域)

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	350	1	13	-	33	4	13	43	-	3	460
割合(%)	76.1%	0.2%	2.8%	-	7.2%	0.9%	2.8%	9.3%	-	0.7%	100%
重量(kg)	35.1	0.1	2.4	-	24.7	0.1	3.2	45.1	-	0.8	111.5
割合(%)	31.5%	0.1%	2.1%	-	22.2%	0.1%	2.9%	40.5%	-	0.7%	100%
容積(L)	681.5	25.0	60.5	-	177.9	1.5	34.8	415.7	-	8.1	1404.9
割合(%)	48.5%	0.02	4.3%	-	12.7%	0.1%	2.5%	29.6%	-	0.6%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

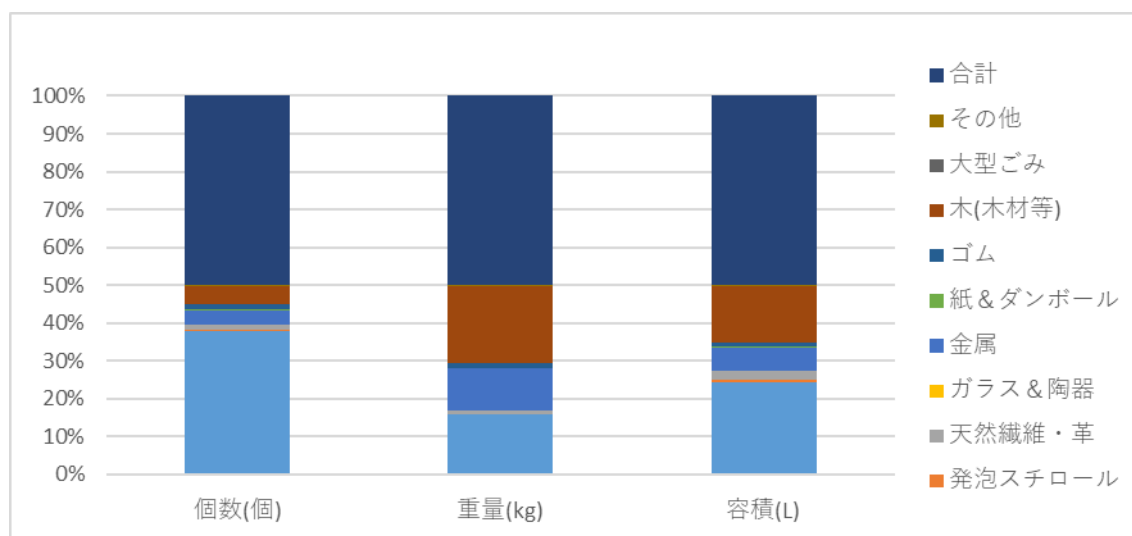
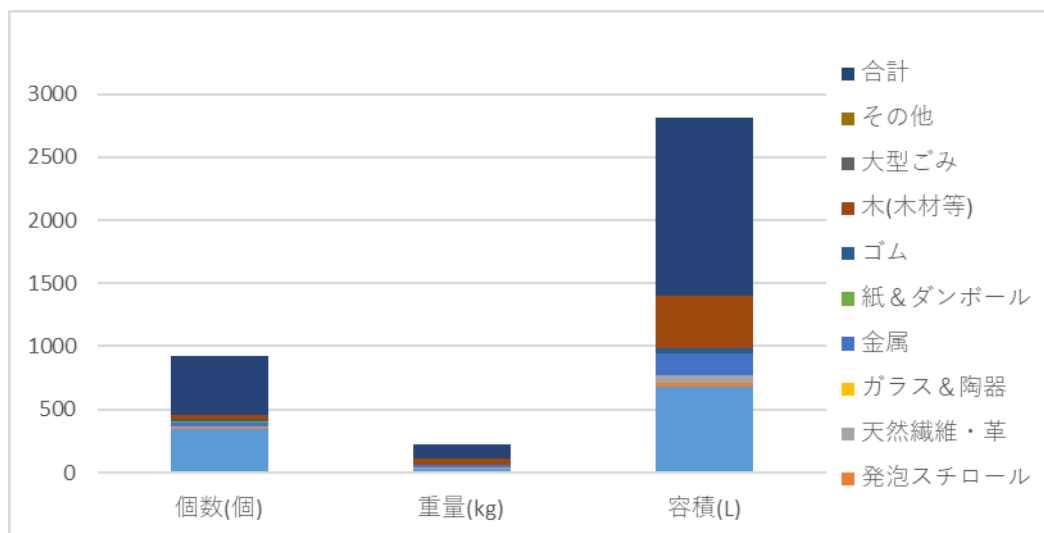


図 III. 2. 1-6 海底ごみの実測結果(上: 計測値、下: 割合)

3) 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、掃海面積から密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 1-4、図 III. 2. 1-7 に示す。また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチック類を用途別に中分類に分けて整理し、表 III. 2. 1-5 に示す。

個数と容積の密度では「袋類」が、重量密度では「ひも類・シート類」がプラスチック類の中で最も多くを占めていた。

表 III. 2. 1-4 海底ごみの密度（加賀市沿岸域）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	72.0	0.2	2.7	-	6.8	0.8	2.7	8.8	-	0.6	94.6
割合(%)	76.1%	0.2%	2.8%	-	7.2%	0.9%	2.8%	9.3%	-	0.7%	100%
重量密度(kg/km ²)	7.2	0.0	0.5	-	5.1	0.0	0.7	9.3	-	0.2	22.9
割合(%)	31.5%	0.1%	2.1%	-	22.2%	0.1%	2.9%	40.5%	-	0.7%	100%
容積密度(L/km ²)	140.2	5.1	12.5	-	36.6	0.3	7.2	85.5	-	1.7	289.0
割合(%)	48.5%	1.8%	4.3%	-	12.7%	0.1%	2.5%	29.6%	-	0.6%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 1-5 プラスチック類の密度（加賀市沿岸域）

分類名	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	13.4	4.5	3.1	13.6	8.4	14.2	7.8	7.0
重量密度(kg/km ²)	0.3	0.1	0.1	3.1	1.8	1.0	0.1	0.8
容積密度(L/km ²)	17.1	7.5	2.6	21.0	39.2	25.3	5.9	21.8

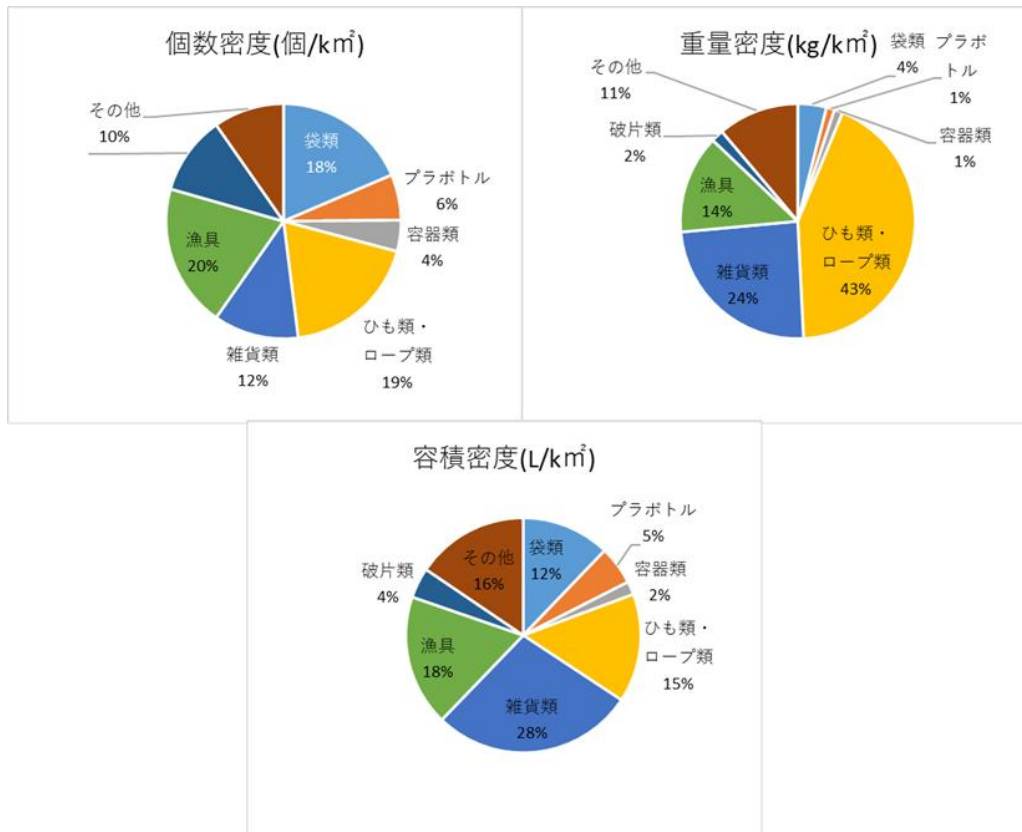


図 III. 2. 1-7 プラスチック類の密度 (加賀市沿岸域)

4) 賞味 (消費) 期限及び言語表記

①賞味 (消費) 期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を表 111. 2. 1-6 と図 III. 2. 1-8、回収されたごみの期限表記の状態を図 III. 2. 1-9 に示す。

品目が多いため、図では飲料用ペットボトル 2 種は「飲料用ペットボトル」に、その他のプラボトルと食品の容器は「その他の容器」、農薬・肥料袋とその他の袋は「その他袋類」にまとめて表した。表の品目の左に記載されている四角で同色のものをまとめた。

全品目で 2026 年、2025 年と直近のものが多く確認された。また、アルミ飲料缶では幅広く長期の期間にわたる年代の飲料缶が確認され、最も古い時期は 2006 年であった。

表 III.2.1-6 賞味（消費）期限（加賀市沿岸域）

品目	2027	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2011	2010	2006	合計
■ スチール製飲料用缶	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
■ アルミの飲料缶	-	6	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-	1	-	1	15
■ 食品用缶	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
■ 飲料用（ペットボトル）≤600ml	-	5	4	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	14
■ 飲料用（ペットボトル）600<V<2L	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
■ その他のプラボトル≤600ml	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
■ 食品の容器	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
■ お菓子の袋	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	5
■ 食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	-	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	8
■ 農薬・肥料袋	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
■ その他の袋	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
合計	1	15	14	4	2	4	1	1	2	1	2	1	2	1	1	52

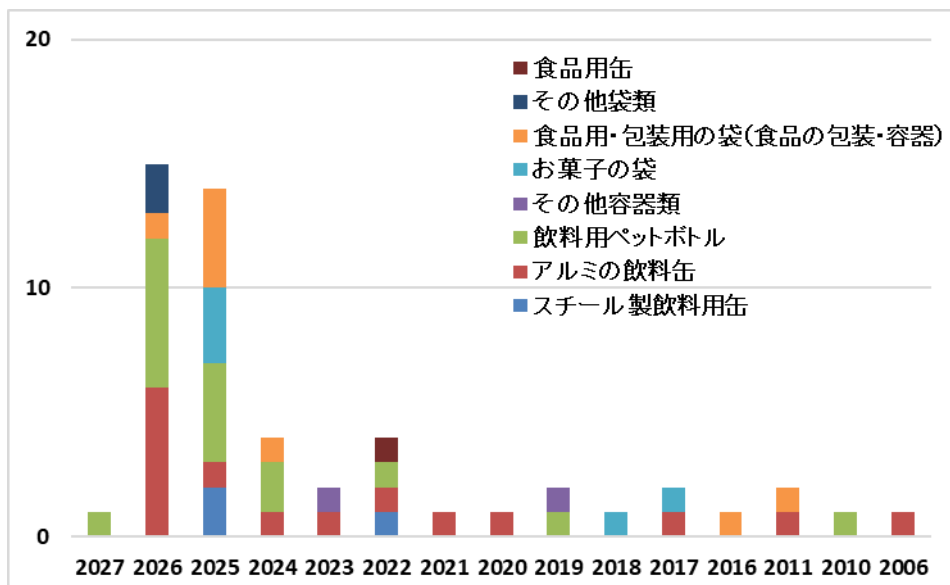


図 III.2.1-8 飲料缶等の賞味（消費）期限（加賀市沿岸域）



図 III.2.1-9 海底ごみ個別の状態（加賀市沿岸域）

②食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

食品容器・包装、ペットボトル等の文字表記、バーコードが確認できる場合は、表記された言語、バーコードを判別し記録した。

品目ごとに数量を記録した結果を表 III. 2. 1-7 と図 III. 2. 1-10 に示す。また、回収されたごみの言語表記の状態は、図 III. 2-11 に示す。なお、品目が多いため、図では缶製品を「飲料・食品缶」、ペットボトルやキャップを「飲料用ペットボトル」、その他の容器、プラボトルや食品の容器を「その他容器類」、食品用の袋、小型調味料の容器を「食料品の袋」、その他の袋、釣りえさ袋、農業資材、農薬袋、スーパーの袋を「その他袋類」、玩具、たばこのパッケージを「その他人工物」にまとめて表した。表の品目の左に記載されている四角で同色のものをまとめた。

回収されたごみの言語表記は、日本語が多かったが、韓国語や中国語表記の食品用・包装用の袋も混在していた。

表 III. 2. 1-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（加賀市沿岸域）

品目	日本語	中国語	韓国語	マレーシア語
■スチール製飲料用缶	4	-	-	-
■アルミの飲料缶	15	1	-	-
■食品用缶	-	-	-	1
■飲料用（ペットボトル） $\leq 600\text{ml}$	14	-	-	-
■飲料用（ペットボトル） $600 < V < 2\text{L}$	2	-	-	-
■ボトルのキャップ、ふた	1	-	-	-
■シート（防水シート又はその他のプラスチック織物袋、コンテナ(パレット)のシート）	-	4	5	-
■その他の容器類	1	-	-	-
■その他のプラボトル $\leq 600\text{ml}$	2	-	-	-
■食品の容器	2	-	-	-
■食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	10	3	1	-
■小型調味料容器（弁当用醤油・ソース容器）	2	-	-	-
■お菓子の袋	4	1	2	-
■その他の袋	2	4	2	-
■釣りえさ袋・容器	3	1	-	-
■農業資材（ビニールハウスのパッカー等）	-	-	1	-
■スーパー、コンビニの袋	1	-	-	-
■農薬・肥料袋	1	-	-	-
■玩具	-	1	-	-
■タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む）	1	-	-	-
合計	65	15	11	1

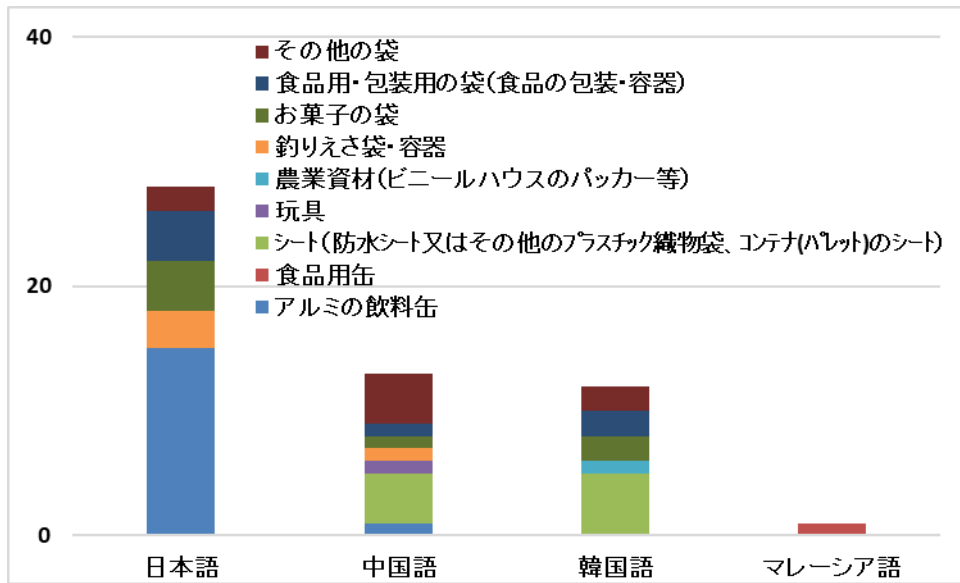


図 III. 2. 1-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記 (加賀市沿岸域)

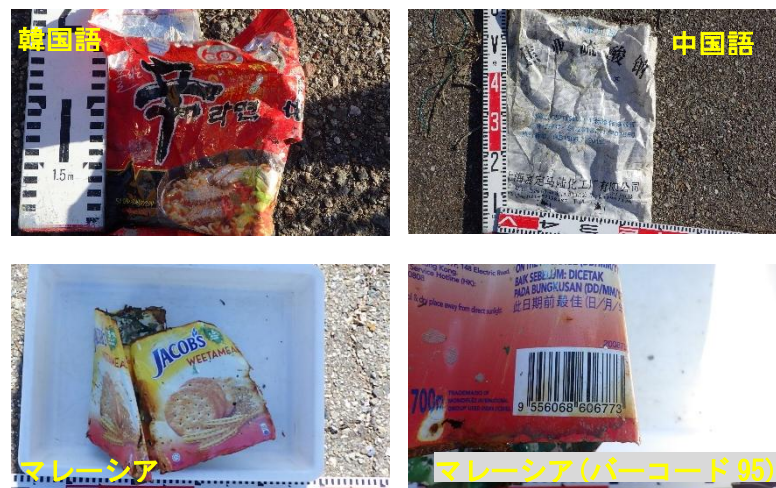


図 III. 2-11 回収された海底ごみの言語表記の状況 (加賀市沿岸域)

(3) 過年度調査結果との比較

加賀市沿岸域では令和2、3年度に、海底ごみ現地調査を石川県漁協加賀支所にて本年度調査と同様に実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体での比較した結果を表 III. 2. 1-8、図 III. 2. 1-12 に示す。プラスチック類の用途別中分類で比較した結果を表 III. 2. 1-9 に、図 III. 2. 1-13 に示す。

総量の個数、重量については大きな増減はないが、本年度は木製収納棚等の影響で容積が増加した。プラスチック類では、袋類は減少し、雑貨類の組成が増加した。漁具は多いが、容器や破片類は少なかった。

表 III. 2. 1-8 海底ごみの分類別結果比較(加賀市沿岸域)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
R2_個数密度	70.1	-	7.3	0.8	5.7	5.1	2.2	4.8	0.2	-	96.2
組成(%)	72.9%	-	7.6%	0.8%	5.9%	5.3%	2.3%	5.0%	0.2%	-	100%
R3_個数密度	46.5	2.1	4.1	1.4	7.9	2.5	2.9	5.2	-	1.1	73.7
組成(%)	63.1%	2.9%	5.6%	1.9%	10.7%	3.4%	3.9%	7.0%	-	1.5%	100%
R7_個数密度	72.0	0.2	2.7	-	6.8	0.8	2.7	8.8	-	0.6	94.6
組成(%)	76.1%	0.2%	2.8%	-	7.2%	0.9%	2.8%	9.3%	-	0.7%	100%
R2_重量密度	13.5	-	4.6	0.2	0.5	0.2	0.3	5.7	0.1	-	25.2
組成(%)	53.7%	-	18.1%	1.0%	2.0%	0.7%	1.3%	22.7%	0.6%	-	100%
R3_重量密度	5.1	0.1	0.8	0.1	1.2	0.0	3.5	3.5	-	1.8	16.2
組成(%)	31.4%	0.3%	5.0%	0.9%	7.7%	0.2%	21.8%	21.5%	-	11.3%	100%
R7_重量密度	7.2	0.0	0.5	-	5.1	0.0	0.7	9.3	-	0.2	22.9
組成(%)	31.5%	0.1%	2.1%	-	22.2%	0.1%	2.9%	40.5%	-	0.7%	100%
R2_容積密度	110.9	-	8.2	0.3	2.0	0.2	0.4	6.1	0.2	-	128.2
組成(%)	86.5%	-	6.4%	0.2%	1.6%	0.2%	0.3%	4.7%	0.1%	-	100%
R3_容積密度	61.3	1.2	3.8	0.4	19.3	0.2	19.1	4.5	-	48.8	158.5
組成(%)	38.7%	0.8%	2.4%	0.3%	12.2%	0.1%	12.0%	2.8%	-	30.8%	100%
R7_容積密度	140.2	5.1	12.5	-	36.6	0.3	7.2	85.5	-	1.7	289.0
組成(%)	48.5%	1.8%	4.3%	-	12.7%	0.1%	2.5%	29.6%	-	0.6%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

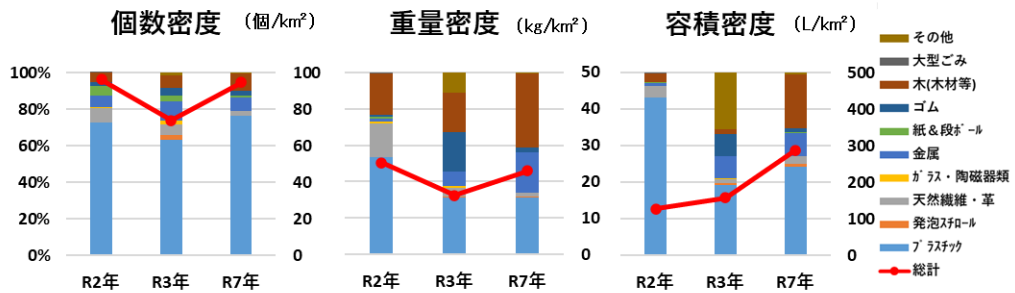


図 III. 2. 1-12 海底ごみの分類別結果比較(加賀市沿岸域)

表 III.2.1-9 プラスチック類の分類別結果比較(加賀市沿岸域)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
R2_個数密度	29.1	7.1	3.2	13.3	-	7.1	6.7	3.6	70.1
組成(%)	41.5%	10.1%	4.6%	19.0%	-	10.1%	9.5%	5.2%	100%
R3_個数密度	9.5	2.3	0.9	8.4	-	15.0	7.0	5.5	48.7
組成(%)	19.5%	4.8%	1.8%	17.3%	-	30.9%	14.3%	11.4%	100%
R7_個数密度	13.4	4.5	3.1	13.6	8.4	14.2	7.8	7.0	72.0
組成(%)	18.6%	6.3%	4.3%	18.9%	11.7%	19.7%	10.9%	9.7%	100%
R2_重量密度	2.3	0.2	0.9	6.4	-	1.6	0.3	1.9	13.5
組成(%)	16.9%	1.3%	6.5%	47.3%	-	11.5%	2.3%	14.3%	100%
R3_重量密度	0.5	0.1	0.0	1.4	-	1.7	0.5	0.9	5.1
組成(%)	10.5%	1.1%	0.2%	27.7%	-	33.1%	10.4%	16.9%	100%
R7_重量密度	0.3	0.1	0.1	3.1	1.8	1.0	0.1	0.8	7.2
組成(%)	4.0%	1.1%	1.2%	43.0%	24.3%	13.6%	1.7%	11.2%	100%
R2_容積密度	38.1	6.5	9.2	32.2	-	14.9	3.0	6.9	110.9
組成(%)	34.4%	5.8%	8.3%	29.1%	-	13.5%	2.7%	6.2%	100%
R3_容積密度	18.3	1.8	0.2	11.0	-	13.3	7.4	10.6	62.5
組成(%)	29.3%	2.8%	0.3%	17.5%	-	21.3%	11.9%	16.9%	100%
R7_容積密度	17.1	7.5	2.6	21.0	39.2	25.3	5.9	21.8	140.2
組成(%)	12.2%	5.3%	1.8%	15.0%	27.9%	18.1%	4.2%	15.5%	100%

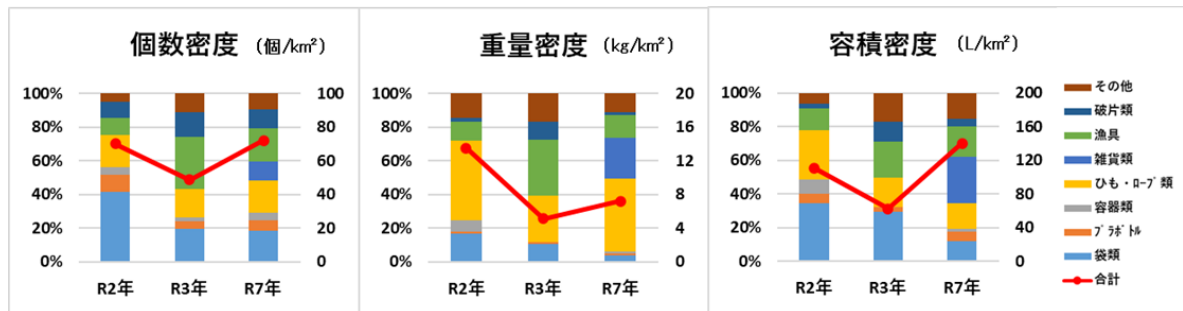


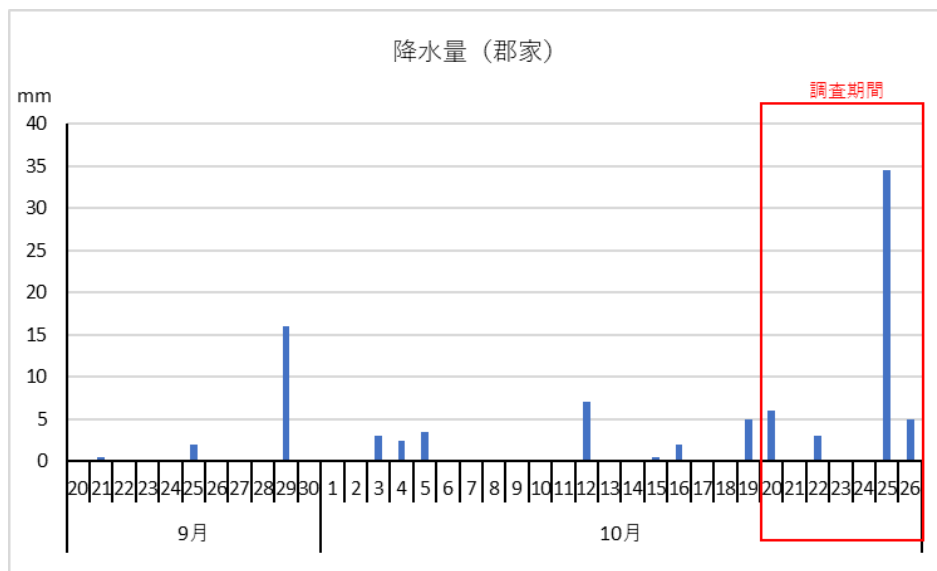
図 III.2.1-13 プラスチック類の分類別結果比較(加賀市沿岸域)

III. 2. 2 播磨灘（東）

(1) 現地の状況

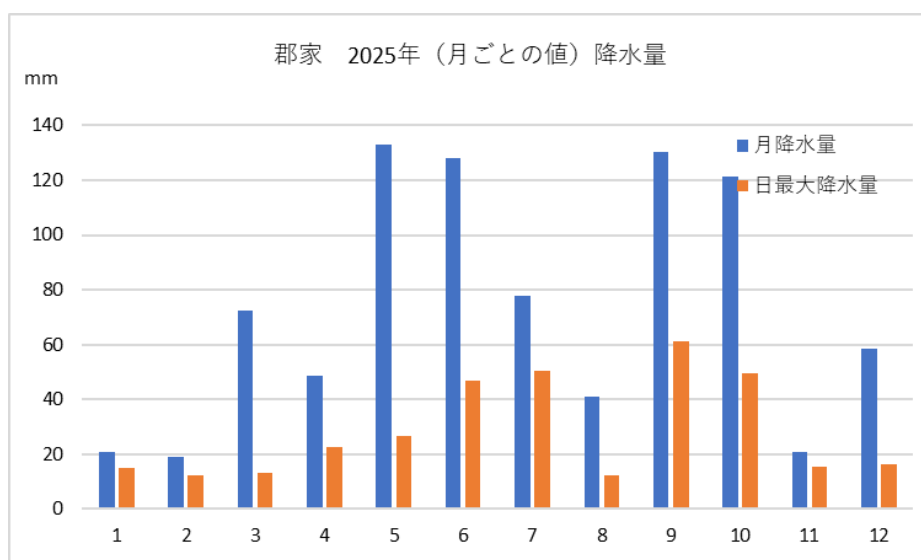
1) 降水量

気象庁のホームページより確認した、調査期間 1 ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 2-1 に、令和 7 年における月別降水量を図 III. 2. 2-2 に示す。播磨灘（東）の場合は、郡家観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 （気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026 年 3 月 10 日閲覧）より作成

図 III. 2. 2-1 調査期間の降水量（播磨灘（東）：郡家）



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 （気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026 年 3 月 10 日閲覧）より作成

図 III. 2. 2-2 月別降水量（播磨灘（東）：郡家_令和 7 年）

2) 漁業情報等

五色町漁協における漁業情報について聞き取りを行った結果は、表 III.2.2-1 に示す。

表 III.2.2-1 漁業情報及びごみの回収情報（播磨灘（東））

漁期	10月～翌年3月（底びき網漁の漁期）
操業状況	・カレイ類、メバル、カサゴ、マダイ等
海洋ごみ回収状況	玉ねぎ袋に漁業者が操業中に海洋ごみを回収し、漁港に設置したコンテナにごみを集積し、集積された海洋ごみは洲本市にて回収・処分を実施。

3) 調査状況等

播磨灘（東）では、小型機船底びき網漁業に従事する13隻で、27隻日で調査を行った。回収されたごみは、五色町漁協のコンテナに集積された。

調査で使用された漁具等の仕様及び写真は、表 III.2.2-2 及び図 III.2.2-3 に示す。携行されたGNSSにより確認されたおおよその操業海域は、図 III.2.2-4 に示す。

表 III.2.2-2 漁具等の仕様（播磨灘（東））

小型機船底びき網漁業	手繰り第3種
桁網幅・長・高	3.2(*0.97*0.23)m
桁網の有無	あり
爪の本数、長さ	45本、18cm
曳網距離	1114km/27隻日
換算掃海面積	3.6km ²

※換算掃海面積は「曳網距離×桁網幅」より算出している。



図 III.2.2-3 使用漁具等（播磨灘（東））

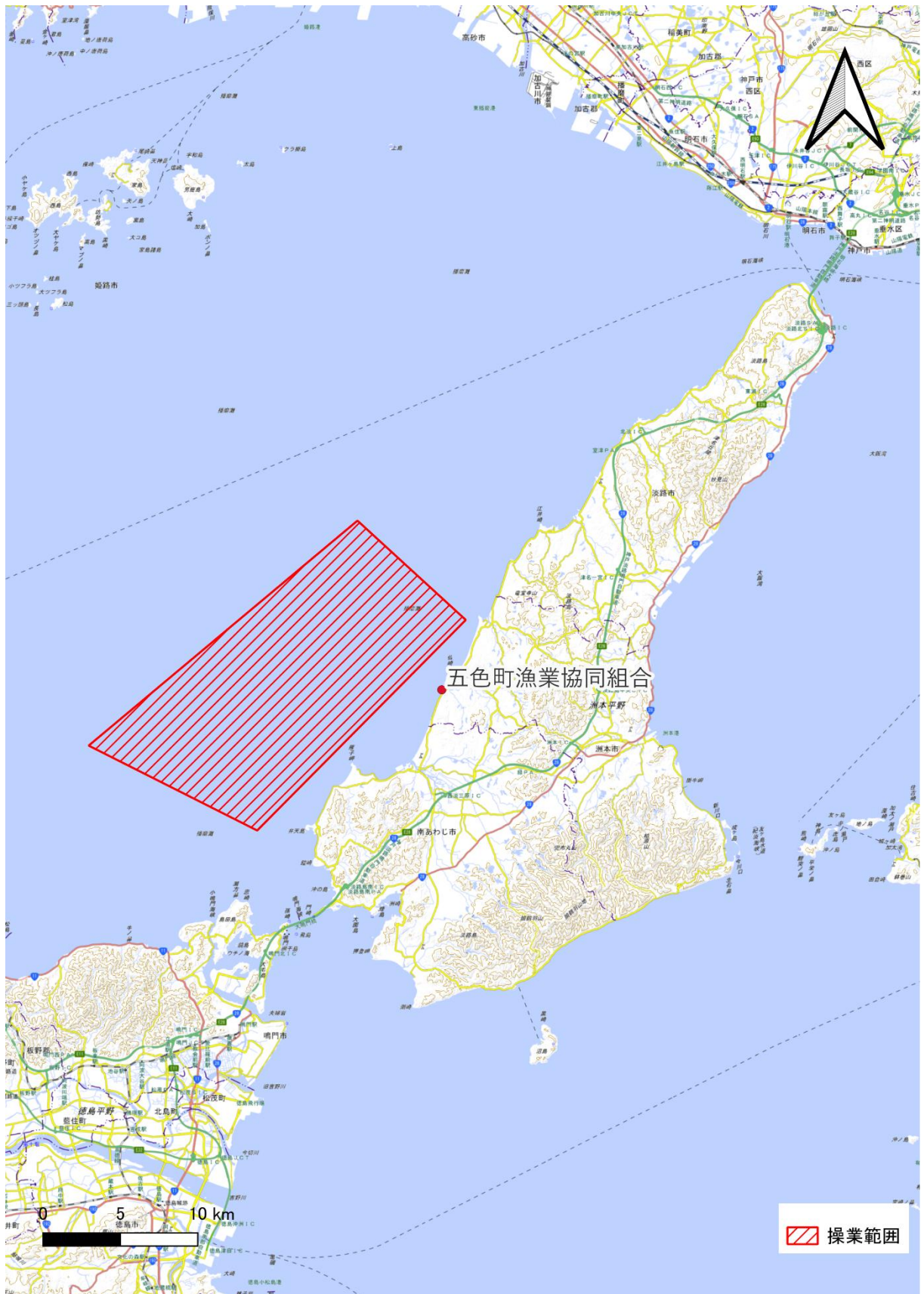


図 III.2.2-4 操業範囲(播磨灘(東))

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 2-5 に示す。



図 III. 2. 2-5 回収・分別状況（播磨灘（東））

2) 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は、表 III. 2. 2-3 及び図 III. 2. 2-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

これによると、個数、及び容積密度において、プラスチックが半分以上を占めていた。大きな金属のワイヤーが回収されたため重量では金属の割合が高くなった。

表 III. 2. 2-3 海底ごみの実測結果（播磨灘（東））

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	248.0	-	80.0	-	4.0	10.0	76.0	6.0	-	-	424.0
割合(%)	58.5%	-	18.9%	-	0.9%	2.4%	17.9%	1.4%	-	-	100%
重量(kg)	22.2	-	11.5	-	14.5	1.3	1.8	0.3	-	-	51.7
割合(%)	43.0%	-	22.3%	-	28.1%	2.5%	3.5%	0.6%	-	-	100%
容積(L)	326.9	-	56.4	-	2.0	9.2	24.5	3.1	-	-	422.1
割合(%)	77.4%	-	13.4%	-	0.5%	2.2%	5.8%	0.7%	-	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

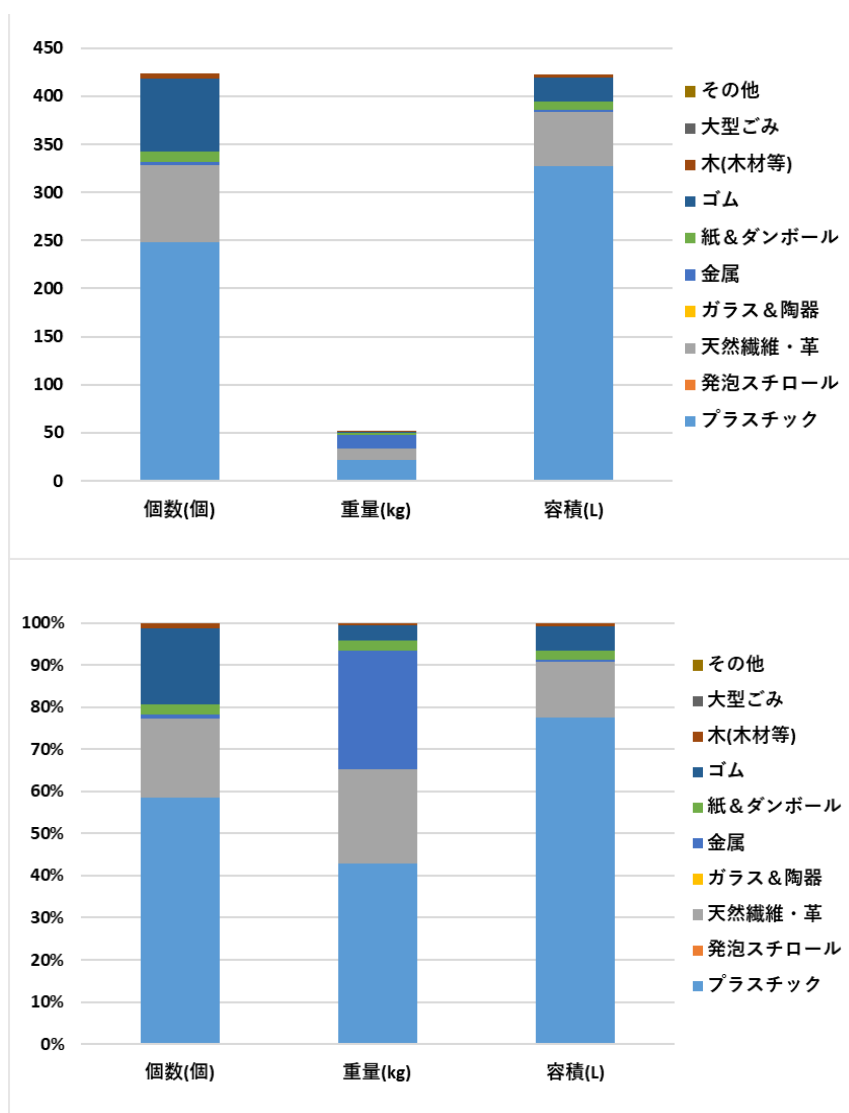


図 III. 2. 2-6 海底ごみの実測結果（上：計測値、下：割合）

2) 個数・重量・容積（密度）

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 2-4 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した結果は、表 III. 2. 2-5 及び図 III. 2. 2-7 に示す。個数密度、容積密度では「破片類」が約 4 割を占めており、重量密度では、「破片類」が約 7 割を占めていた。

表 III. 2. 2-4 海底ごみの密度（播磨灘（東））

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	69.5	-	22.4	-	1.1	2.8	21.3	1.7	-	-	118.9
割合(%)	58.5%	-	18.9%	-	0.9%	2.4%	17.9%	1.4%	-	-	100%
重量密度(kg/km ²)	6.2	-	3.2	-	4.1	0.4	0.5	0.1	-	-	14.5
割合(%)	43.0%	-	22.3%	-	28.1%	2.5%	3.5%	0.6%	-	-	100%
容積(L)	91.7	-	15.8	-	0.6	2.6	6.9	0.9	-	-	118.4
割合(%)	77.4%	-	13.4%	-	0.5%	2.2%	5.8%	0.7%	-	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 2-5 プラスチック類の密度（播磨灘（東））

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	18.8	9.5	2.8	3.4	1.1	1.7	30.6	1.7
重量密度(kg/km ²)	0.3	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	4.7	0.2
容積密度(L/km ²)	17.2	9.7	2.9	1.6	1.6	7.5	40.2	11.0

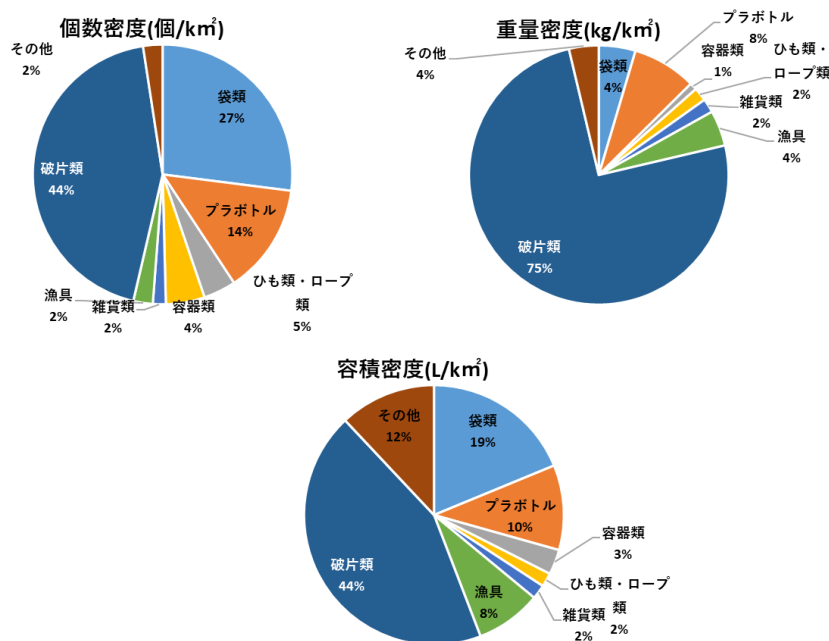


図 III. 2. 2-7 プラスチック類の密度（播磨灘（東））

4) 賞味（消費）期限及び言語表記

① 賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III.2.2-6、図 III.2.2-8 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III.2-9 に示す。

期限が判別できるものはアルミ製飲料缶 1 個、スチール製飲料缶 1 個と缶はほとんど回収されなかった。ペットボトルは 24 個と回収量が多く、2026 年、2025 年と直近のものが多く確認された。最も古いものは 2013 年のお菓子の袋であった。

表 III.2.2-6 飲料缶の賞味（消費）期限（播磨灘（東））

品目	2026	2025	2024	2019	2013	合計
アルミの飲料缶	-	-	1	-	-	1
スチール製飲料用缶	1	-	-	-	-	1
飲料用（ペットボトル）≤600ml	19	4	1	-	-	24
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	1	-	3	1	-	5
お菓子の袋	-	8	1	-	1	10
合計	21	12	6	1	1	41

※表中の「-」は、該当する数値(回収されたごみ)が存在しないことを示す。

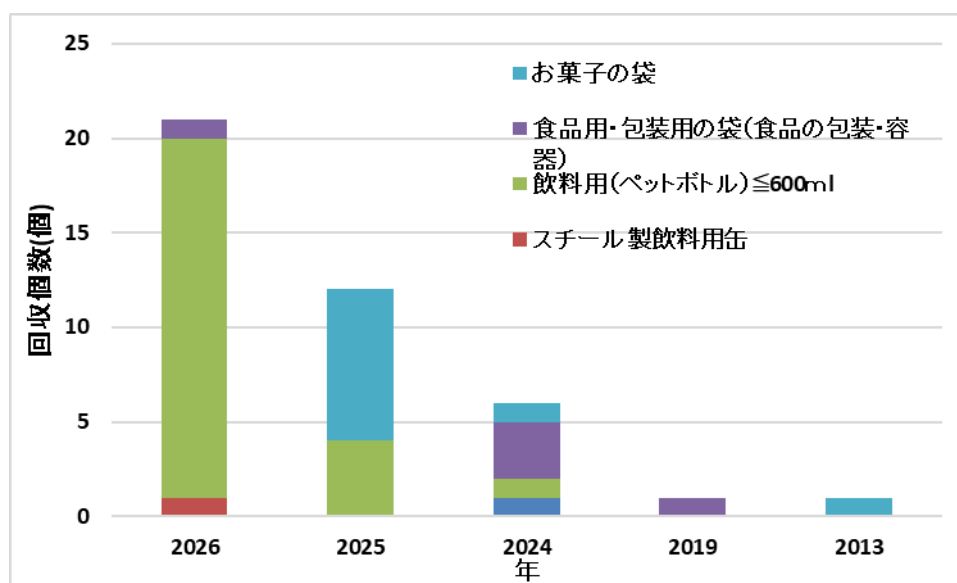


図 III.2.2-8 飲料缶等の賞味（消費）期限（播磨灘（東））



図 III.2.2-9 ペットボトルの状態（播磨灘（東））

② 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

回収されたごみの品目ごとの言語表記の結果を表 III. 2. 2-7、図 III. 2. 2-10 に示す。播磨灘（東）で回収されたごみは、日本語表記のみであった。

表 III. 2. 2-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（播磨灘（東））

品目	日本語
アルミの飲料缶	1
スチール製飲料用缶	1
飲料用（ペットボトル） $\leq 600\text{ml}$	24
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	5
お菓子の袋	10
合計	41

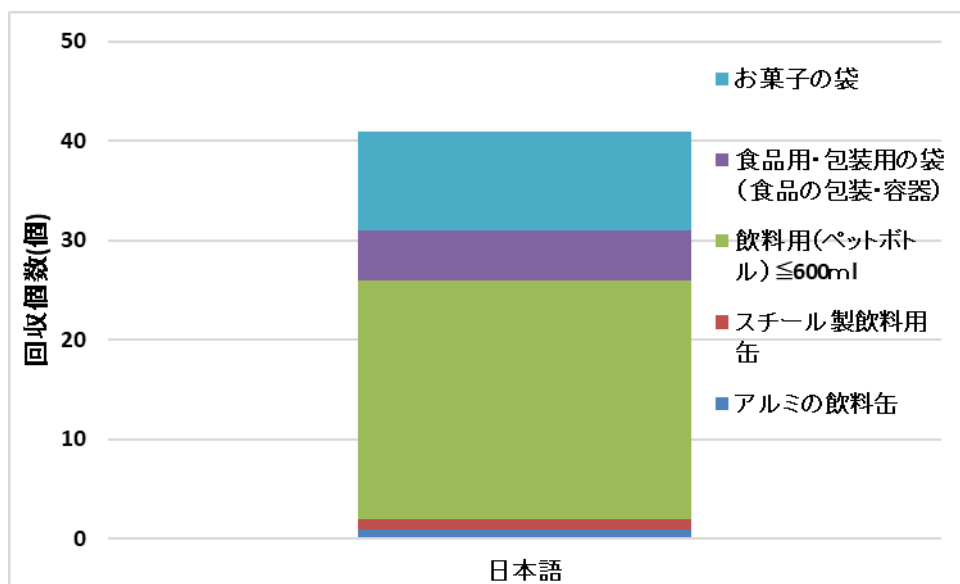


図 III. 2. 2-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（播磨灘（東））

(3) 過年度調査結果との比較

播磨灘（東）では令和2、3年度に海底ごみ現地調査を五色町漁協にて本年度同様実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III. 2. 2-8、図 III. 2. 2-11 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した表を表 III. 2. 2-9 に図 III. 2. 2-12 に示す。

ごみの総量は減少傾向にあった。プラスチック類も同様に減少傾向が見られた。用途別中分類ではひも・ロープ類や漁具類の割合が減少し、破片類の割合が増加した。

表 III. 2. 2-8 海底ごみの分類別結果比較(播磨灘（東）)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
R2_個数密度	332.8	1.2	41.0	0.8	18.4	1.6	7.0	9.4	-	1.6	413.9
組成(%)	80.4%	0.3%	9.9%	0.2%	4.5%	0.4%	1.7%	2.3%	-	0.4%	100%
R3_個数密度	243.3	5.8	19.1	0.4	8.2	7.5	8.2	0.9	-	0.2	293.7
組成(%)	82.8%	2.0%	6.5%	0.1%	2.8%	2.6%	2.8%	0.3%	-	0.1%	100%
R7_個数密度	69.5	-	22.4	-	1.1	2.8	21.3	1.7	-	-	118.9
組成(%)	58.5%	-	18.9%	-	0.9%	2.4%	17.9%	1.4%	-	-	100%
R2_重量密度	47.5	1.5	5.2	0.1	6.9	0.1	6.8	1.1	-	1.2	70.3
組成(%)	67.6%	2.1%	7.4%	0.1%	9.9%	0.1%	9.6%	1.6%	-	1.7%	100%
R3_重量密度	14.1	0.3	4.9	0.1	0.5	0.3	2.2	0.4	-	0.0	22.7
組成(%)	61.9%	1.2%	21.4%	0.3%	2.0%	1.5%	9.9%	1.6%	-	0.1%	100%
R7_重量密度	6.2	-	3.2	-	4.1	0.4	0.5	0.1	-	-	14.5
組成(%)	43.0%	-	22.3%	-	28.1%	2.5%	3.5%	0.6%	-	-	100%
R2_容積密度	633.7	109.0	52.0	0.2	63.1	1.7	73.9	23.0	-	36.9	993.5
組成(%)	63.8%	11.0%	5.2%	0.0%	6.4%	0.2%	7.4%	2.3%	-	3.7%	100%
R3_容積密度	166.8	7.8	32.1	0.1	4.7	7.5	15.1	1.2	-	0.8	236.0
組成(%)	70.7%	3.3%	13.6%	0.0%	2.0%	3.2%	6.4%	0.5%	-	0.4%	100%
R7_容積密度	91.7	-	15.8	-	0.6	2.6	6.9	0.9	-	-	118.4
組成(%)	77.4%	-	13.4%	-	0.5%	2.2%	5.8%	0.7%	-	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

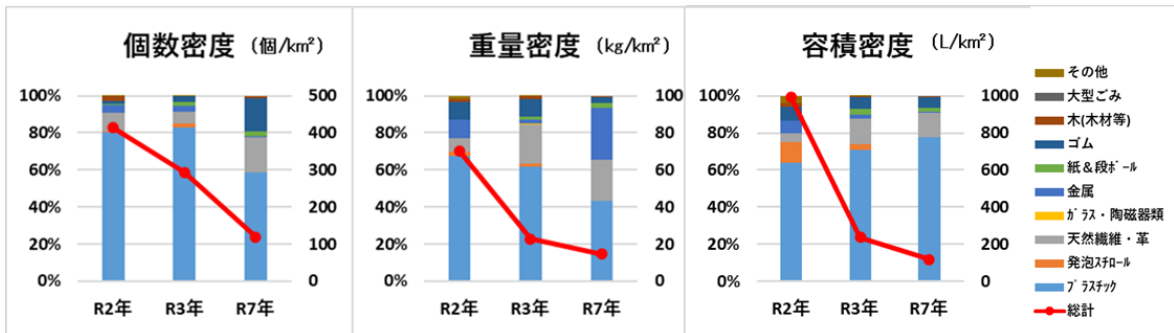


図 III. 2. 2-11 海底ごみの分類別結果比較(播磨灘（東）)

表 III. 2. -9 プラスチックごみの分類別結果比較(播磨灘(東))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
R2_個数密度	130.7	16.4	7.0	127.0	-	42.2	-	10.7	334.0
組成(%)	39.1%	4.9%	2.1%	38.0%	-	12.6%	-	3.2%	100%
R3_個数密度	64.6	12.9	9.7	26.4	-	7.5	114.1	13.9	249.1
組成(%)	25.9%	5.2%	3.9%	10.6%	-	3.0%	45.8%	5.6%	100%
R7_個数密度	18.8	9.5	2.8	3.4	1.1	1.7	30.6	1.7	69.5
組成(%)	27.0%	13.7%	4.0%	4.8%	1.6%	2.4%	44.0%	2.4%	100%
R2_重量密度	4.6	2.2	0.3	27.6	-	10.0	-	4.4	49.0
組成(%)	9.5%	4.4%	0.6%	56.2%	-	20.3%	-	8.9%	100%
R3_重量密度	2.1	1.0	0.1	2.2	-	5.6	1.8	1.6	14.4
組成(%)	14.8%	6.7%	0.8%	15.3%	-	38.7%	12.6%	11.0%	100%
R7_重量密度	0.3	0.5	0.1	0.1	0.1	0.3	4.7	0.2	6.2
組成(%)	4.6%	8.0%	0.9%	1.7%	1.7%	4.4%	75.0%	3.7%	100%
R2_容積密度	71.2	31.2	9.0	262.2	-	146.2	-	222.9	742.7
組成(%)	9.6%	4.2%	1.2%	35.3%	-	19.7%	-	30.0%	100%
R3_容積密度	38.8	19.8	7.9	17.9	-	33.6	31.6	25.0	174.5
組成(%)	22.2%	11.3%	4.5%	10.3%	-	19.2%	18.1%	14.4%	100%
R7_容積密度	17.2	9.7	2.9	1.6	1.6	7.5	40.2	11.0	91.7
組成(%)	18.8%	10.6%	3.1%	1.7%	1.8%	8.2%	43.8%	12.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

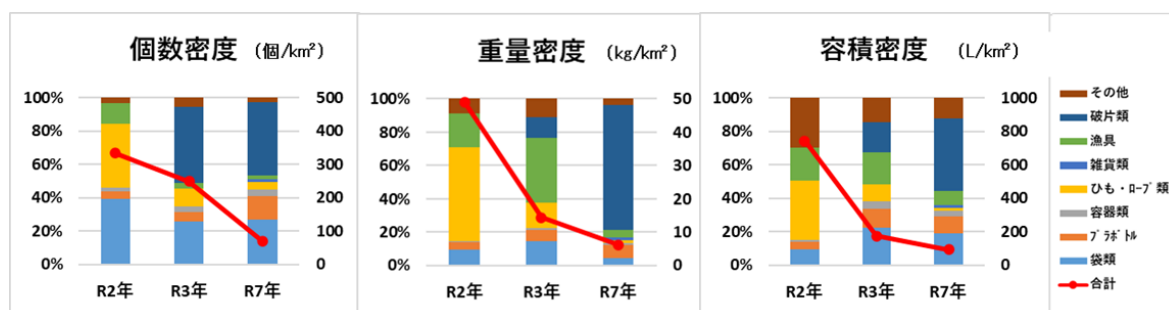


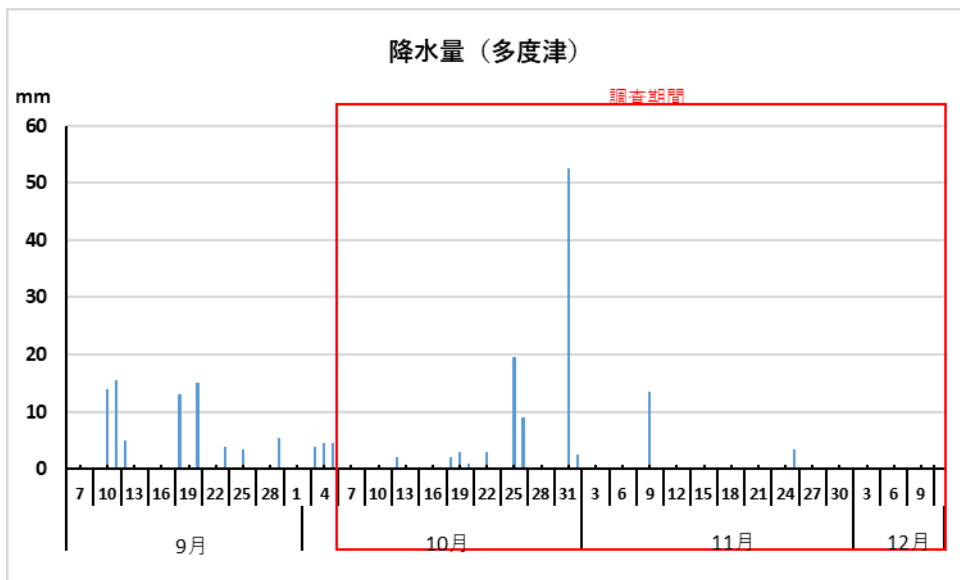
図 III. 2. 2-12 プラスチックごみの分類別結果比較(播磨灘(東))

III. 2. 3 備讃瀬戸（西）

(1) 現地の状況

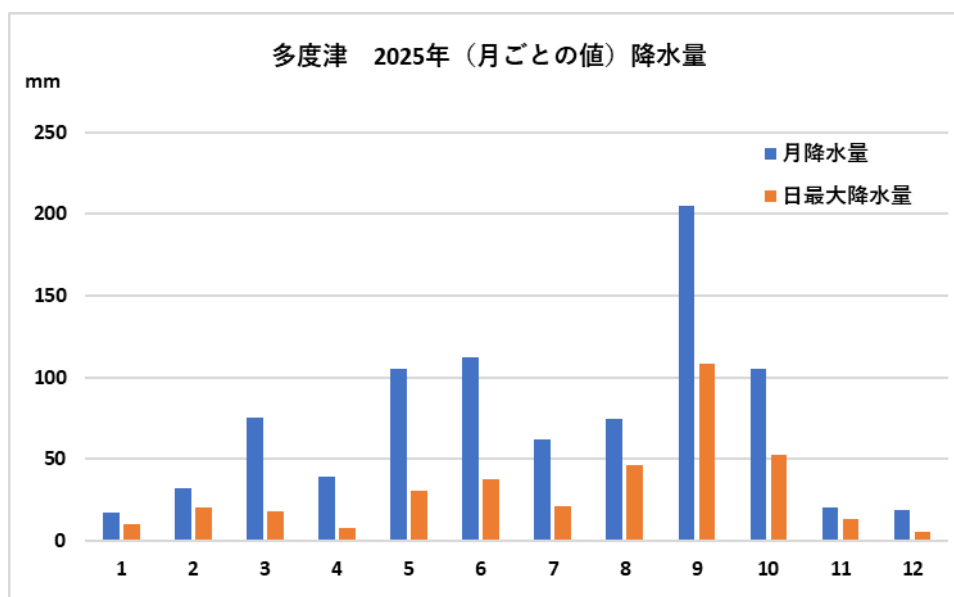
1) 降水量

気象庁のホームページより確認した、調査期間1ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 3-1 に、令和7年における月ごとの降水量を図 III. 2. 3-2 に示す。備讃瀬戸(西)の場合は、多度津観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 (気象庁 HP : <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧) より作成

図 III. 2. 3-1 調査期間の降水量（備讃瀬戸(西)：多度津）



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 (気象庁 HP : <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧) より作成

図 III. 2. 3-2 月別降水量（備讃瀬戸（西）：多度津_令和7年）

2) 漁業情報等

中讃西部漁業協同組合丸亀支所における漁業情報について聞き取りを行った結果は表 III. 2. 3-1 に示す。

表 III. 2. 3-1 漁業情報及びごみの回収情報（備讃瀬戸（西））

漁期	1月1日～12月31日
操業状況	<ul style="list-style-type: none"> ・エビ、カニ、カレイ、シタビラメ、タコ類を対象 ・漁獲減少等、様々な理由からあまり頻繁には漁に出していない。
海洋ごみ回収状況	漁港に設置したコンテナに漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは丸亀市にて処分を実施。

3) 調査状況

備讃瀬戸（西）では、小型機船底びき網漁業に従事する4隻で、20隻日で調査を行った。回収されたごみは、漁協事務所前の車両・コンテナに集積された。

調査で使用された漁具等の仕様及び写真は、表 III. 2. 3-2 と図 III. 2. 3-3 に示す。

表 III. 2. 3-2 漁具等の仕様（備讃瀬戸（西））

小型機船底びき網漁業	手繰り第2種
網口横幅	16.1m
網の目合い	2.7～4.3cm
曳網距離	359km/20隻日
換算掃海面積	5.8km ²

※換算掃海面積は「曳網距離×網口横幅」より算出している。



図 III. 2. 3-3 使用漁具等（備讃瀬戸（西））

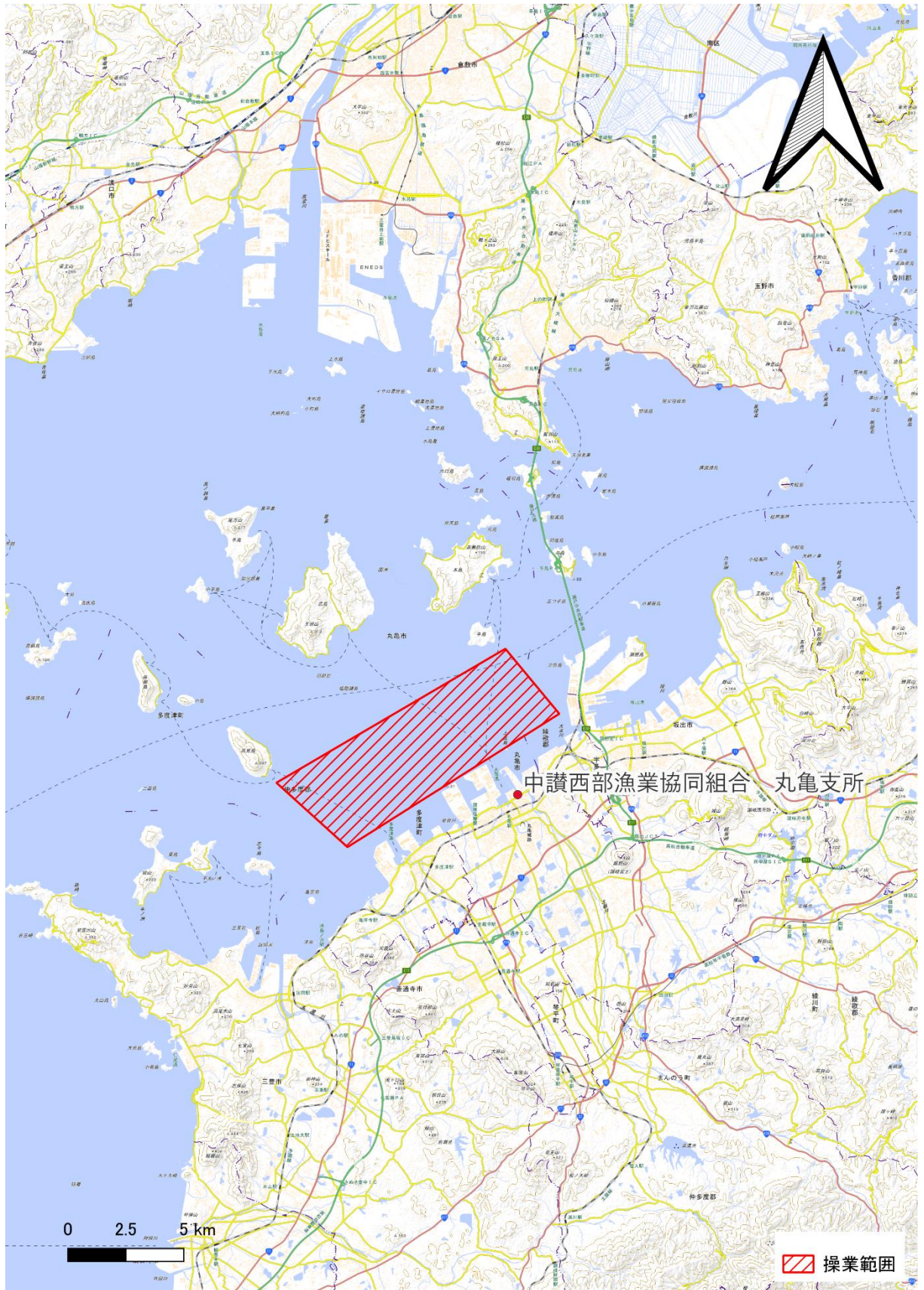


図 III. 2.3-4 操業範囲(備讃瀬戸(西))

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況等

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 3-5 に示す。



図 III. 2. 3-5 回収・分別状況 (備讃瀬戸(西))

2) 個数・重量・容積(実数)

海底ごみの個数、重量及び容積の計測結果は表 III. 2. 2-3 及び図 III. 2. 3-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

これによると、個数、及び容積密度において、プラスチックが半分以上を占めていた。大きな金属のワイヤーが回収されたため重量では金属の割合が高くなった。

表 III. 2. 3-3 海底ごみの実測結果（備讃瀬戸(西)）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	25	-	-	-	3	1	-	-	2	-	31
割合(%)	80.6%	-	-	-	9.7%	3.2%	-	-	6.5%	-	100%
重量(kg)	9.2	-	-	-	0.0	0.0	-	-	8.6	-	17.9
割合(%)	51.5%	-	-	-	0.2%	0.1%	-	-	48.2%	-	100%
容積(L)	111.1	-	-	-	1.8	0.0	-	-	108.5	-	221.4
割合(%)	50.2%	-	-	-	0.8%	0.0%	-	-	49.0%	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

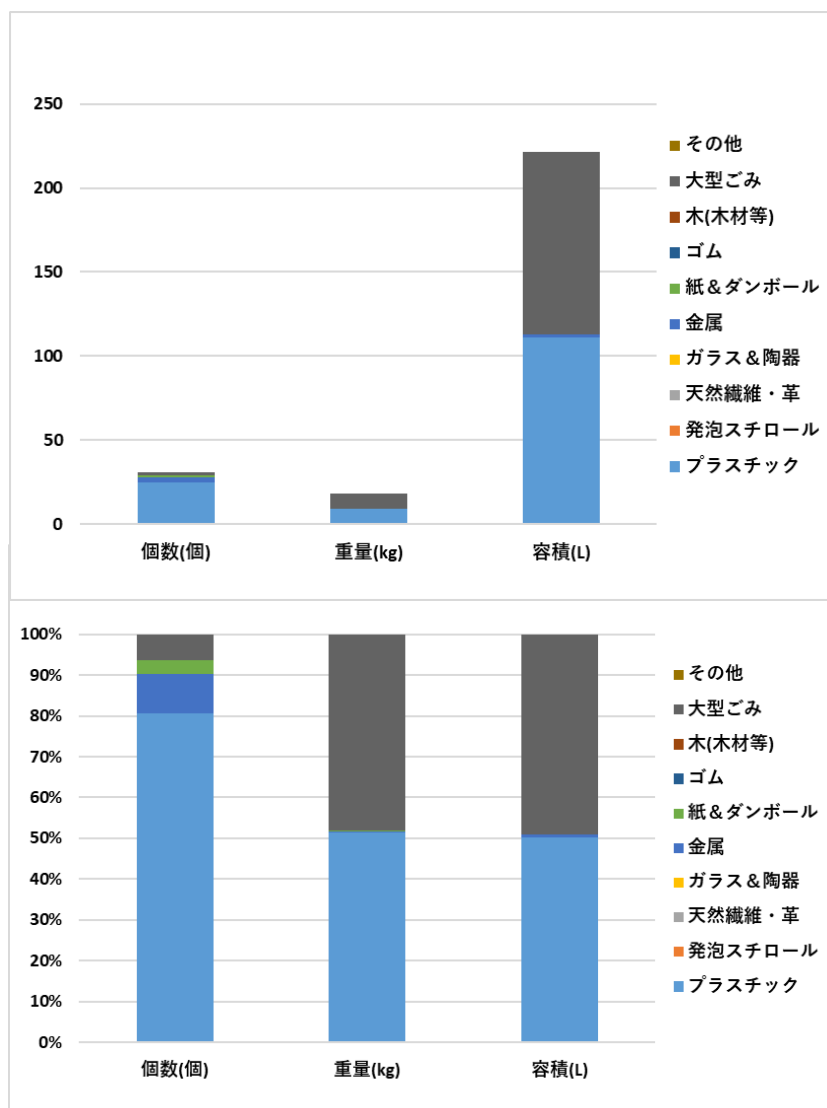


図 III. 2. 3-6 海底ごみの実測結果（上：計測値、下：割合）

3) 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 3-4 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した。結果は表 III. 2. 3-5 及び図 III. 2. 3-7 に示す。全体的なごみの量が少なかったため、重量密度においては 1 個当たりの重量が大きなバックが分類された「雑貨類」の割合が 9 割、容積では 5 割になった。個数では「袋類」が 4 割、「ペットボトル」や「容器類」が 2 割であった。

表 III. 2. 3-4 海底ごみの密度（備讃瀬戸（西））

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	4.3	-	-	-	0.5	0.2	-	-	0.3	-	5.4
割合(%)	80.6%	-	-	-	9.7%	3.2%	-	-	6.5%	-	100%
重量密度(kg/km ²)	1.6	-	-	-	0.0	0.0	-	-	1.5	-	3.1
割合(%)	51.5%	-	-	-	0.2%	0.1%	-	-	48.2%	-	100%
容積密度(L/km ²)	19.2	-	-	-	0.3	0.0	-	-	18.8	-	38.3
割合(%)	50.2%	-	-	-	0.8%	0.0%	-	-	49.0%	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 3-5 プラスチック類の密度（備讃瀬戸（西））

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	1.9	0.9	1.0	-	0.2	-	0.3	-
重量密度(kg/km ²)	0.1	0.0	0.0	-	1.5	-	0.0	-
容積密度(L/km ²)	5.6	1.1	1.4	-	10.7	-	0.4	-

※表中「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

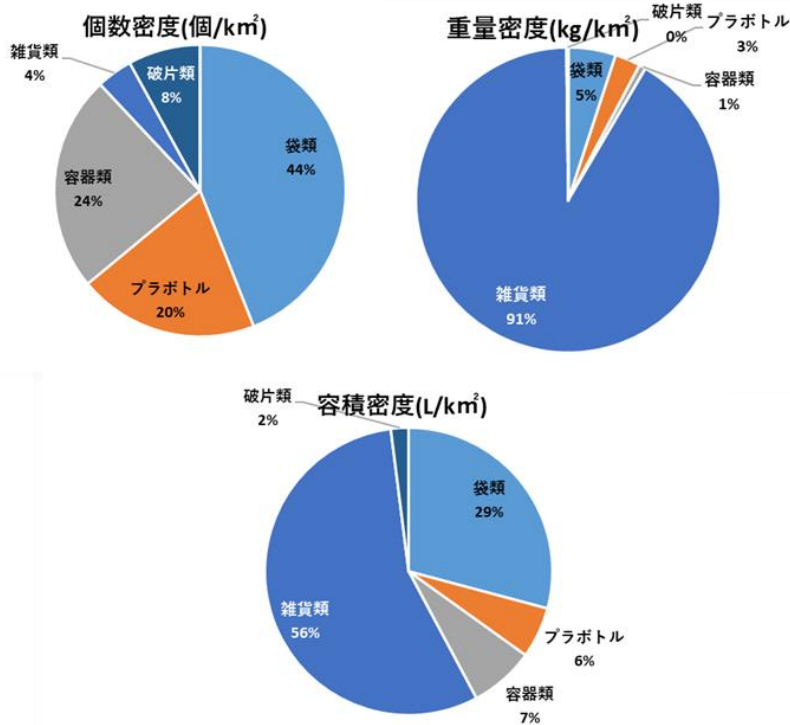


図 III. 2. 3-7 プラスチック類の密度（備讃瀬戸（西））

4) 賞味（消費）期限及び言語表記

① 賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III. 2. 3-6、図 III. 2. 3-8 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III. 2. 3-9 に示す。

期限が判別できるものは全てで7個とあまり多くなく、2026年、2025年と直近のものが確認された。

表 III. 2. 3-6 飲料缶等の賞味（消費）期限（備讃瀬戸（西））

品目	2026	2025	合計
飲料用（ペットボトル）≤600ml	1	-	1
アルミの飲料缶	-	2	2
食品トレイ	-	1	1
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	1	-	1
お菓子の袋	2	-	2
合計	4	3	7

※表中の「-」は、該当する数値(回収されたごみ)が存在しないことを示す

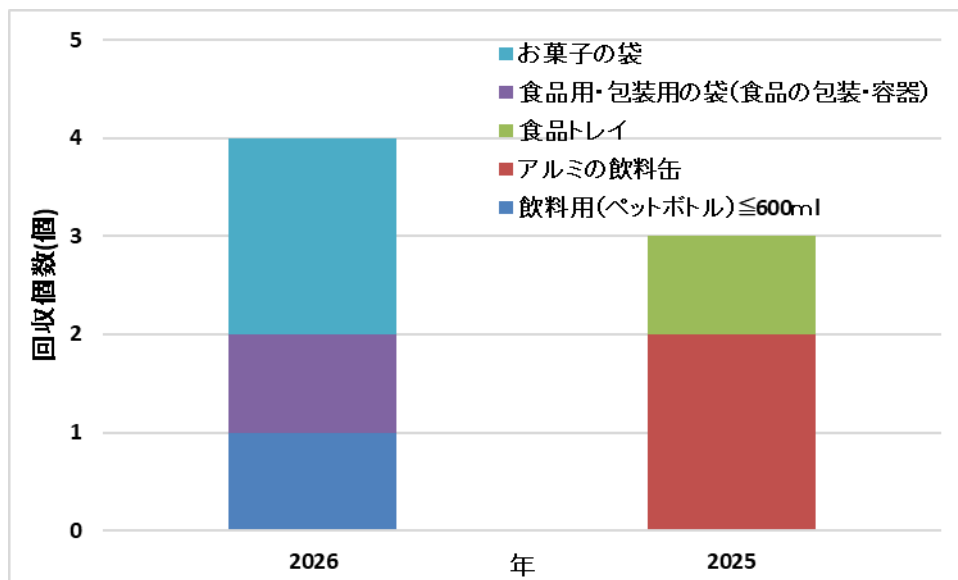


図 III. 2. 3-8 飲料缶等の賞味（消費）期限（備讃瀬戸（西））

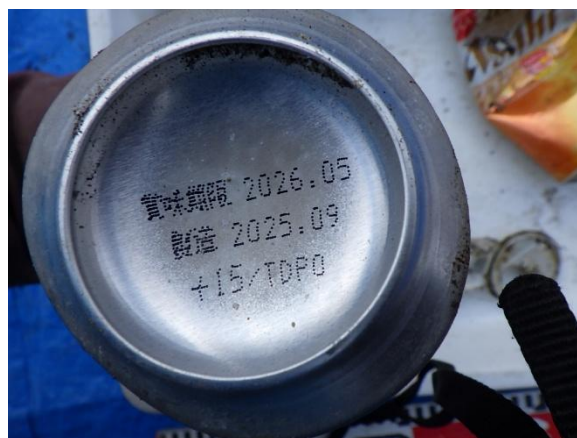


図 III. 2. 3-9 飲料缶の期限記載状況（備讃瀬戸（西））

② 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

備讃瀬戸(西)で回収されたごみのうち、表記された言語、バーコードの判別結果は表 III. 2. 3-7、図 III. 2. 3-10 に示す。

備讃瀬戸(西)で確認されたものは日本語表記のみであった。

表 III. 2. 3-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備讃瀬戸(西)）

品目	日本語
飲料用（ペットボトル） ≤600ml	1
アルミの飲料缶	2
食品トレイ	1
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	1
お菓子の袋	2
合計	7

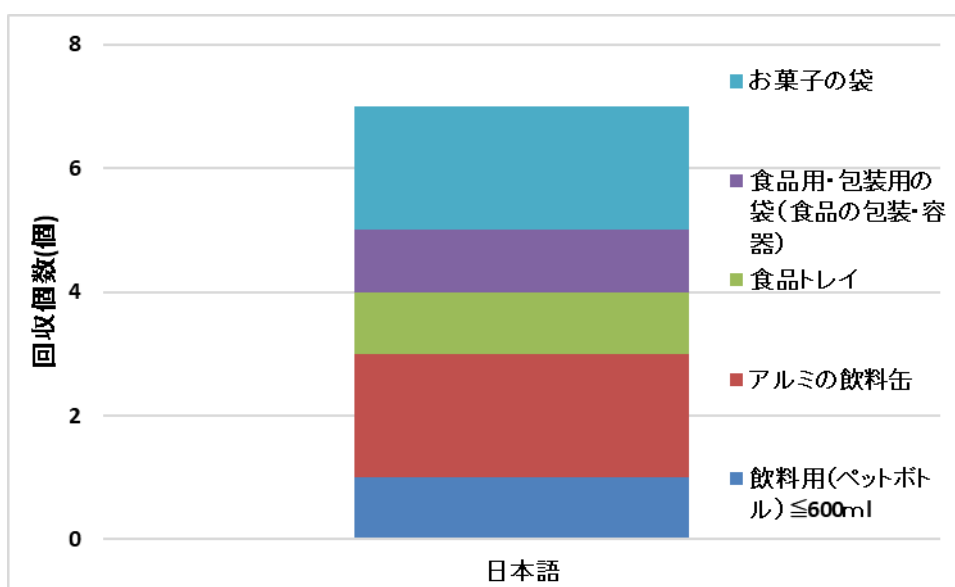


図 III. 2. 3-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備讃瀬戸(西)）

(3) 過年度調査結果との比較

備讃瀬戸(西)では平成 26 年度に海底ごみ現地調査を丸亀市漁協(現:中讃西部漁協丸亀支所)にて本年度同様実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III. 2. 3-8、図 III. 2. 3-11 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した表を表 III. 2. 3-9 に図 III. 2. 3-12 に示す。

ごみの総量は減少傾向にあった。個数では大幅に減少し、容積も減少した。一方、一つあたりの重量の大きなごみが複数確認されたため、重量密度は過年度と同程度となった。プラスチック類では旅行バッグ等の影響により雑貨類の組成が重量密度や容積密度で増加した。

表 III. 2. 3-8 海底ごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(西))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
H26_個数密度	39.0	0.1	0.9	0.8	5.9	0.7	0.5	-	-	-	47.8
組成(%)	81.5%	0.2%	2.0%	1.6%	12.3%	1.4%	1.1%	-	-	-	100%
R7_個数密度	4.3	-	-	-	0.5	0.2	-	-	0.3	-	5.4
組成(%)	80.6%	-	-	-	9.7%	3.2%	-	-	6.5%	-	100%
H26_重量密度	1.5	0.0	0.1	0.1	0.7	0.0	0.1	-	-	-	2.7
組成(%)	58.1%	0.3%	5.4%	4.2%	26.8%	1.0%	4.2%	-	-	-	100%
R7_重量密度	1.6	-	-	-	0.0	0.0	-	-	1.5	-	3.1
組成(%)	51.5%	-	-	-	0.2%	0.1%	-	-	48.2%	-	100%
H26_容積密度	38.7	0.1	1.0	0.5	6.8	0.4	1.0	-	-	-	48.5
組成(%)	79.7%	0.2%	2.1%	0.9%	14.1%	0.9%	2.1%	-	-	-	100%
R7_容積密度	19.2	-	-	-	0.3	0.0	-	-	18.8	-	38.3
組成(%)	50.2%	-	-	-	0.8%	0.0%	-	-	49.0%	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

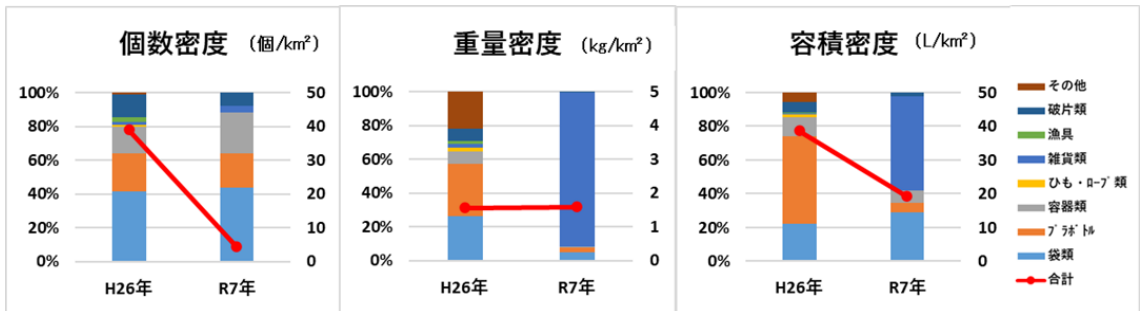


図 III. 2. 3-11 海底ごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(西))

表 III. 2. 3-9 プラスチックごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(西))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
H26_個数密度	16.2	8.7	6.2	0.3	0.7	1.1	5.3	0.3	39.0
組成(%)	41.6%	22.4%	15.9%	0.9%	1.7%	2.8%	13.7%	0.9%	100%
R7_個数密度	1.9	0.9	1.0	-	0.2	-	0.3	-	4.3
組成(%)	44.0%	20.0%	24.0%	-	4.0%	-	8.0%	-	100%
H26_重量密度	0.4	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	1.6
組成(%)	26.6%	31.0%	7.1%	2.2%	2.2%	2.2%	7.1%	21.7%	100%
R7_重量密度	0.1	0.0	0.0	-	1.5	-	0.0	-	1.6
組成(%)	5.0%	2.7%	0.7%	-	91.4%	-	0.2%	-	100%
H26_容積密度	8.5	20.2	4.3	0.8	0.1	0.3	2.3	2.3	38.7
組成(%)	22.0%	52.2%	11.0%	2.1%	0.2%	0.8%	5.9%	5.9%	100%
R7_容積密度	5.6	1.1	1.4	-	10.7	-	0.4	-	19.2
組成(%)	29.2%	5.7%	7.3%	-	55.8%	-	2.0%	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

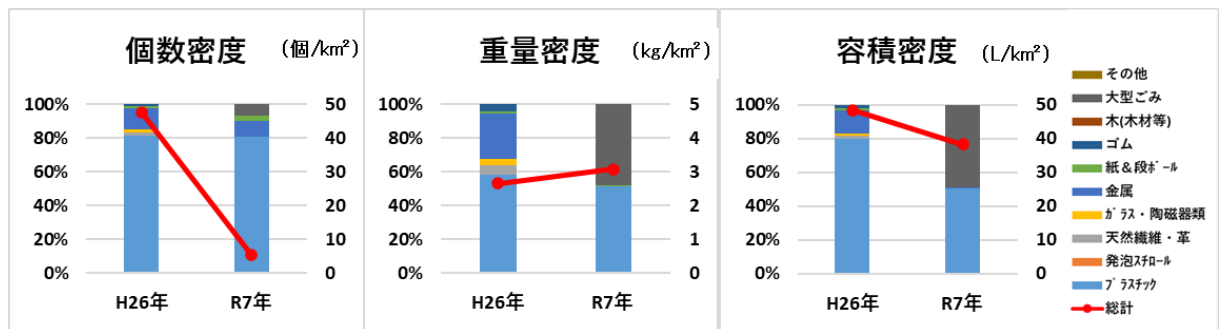


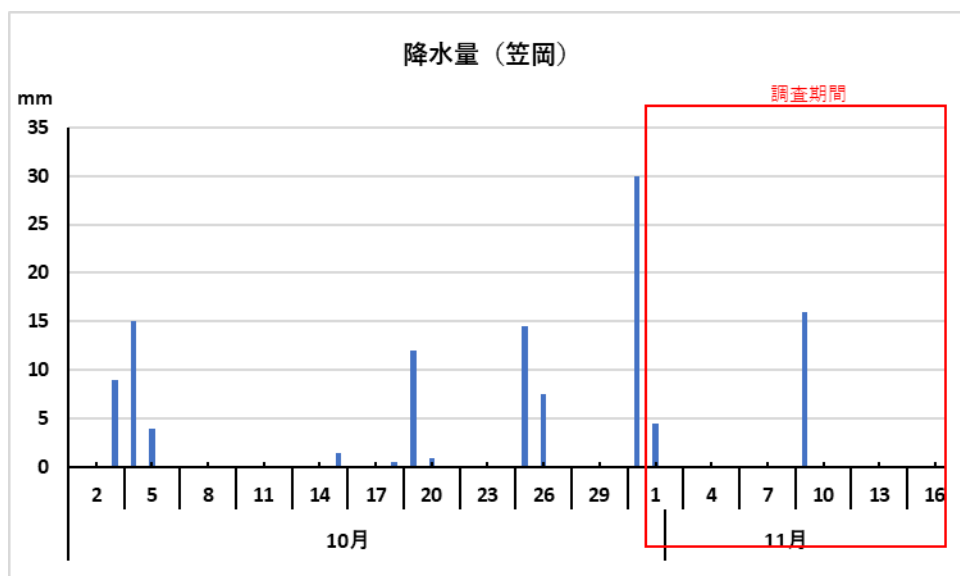
図 III. 2. 3-12 プラスチックごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(西))

III. 2. 4 備讃瀬戸（水島灘）

(1) 現地の状況

1) 降水量

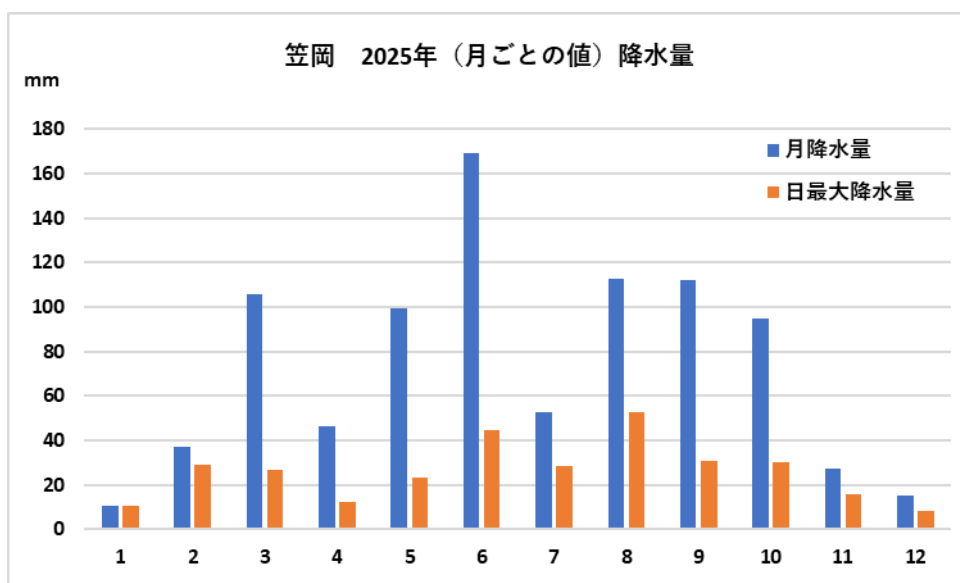
気象庁のホームページより確認した、調査期間1ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 4-1 に、令和 7 年における月別降水量を図 III. 2. 4-2 に示す。備讃瀬戸（水島灘）の場合は、笠岡観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

（気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧）より作成

図 III. 2. 4-1 調査期間の降水量（備讃瀬戸（水島灘）：笠岡）



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

（気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧）より作成

図 III. 2. 4-2 月別降水量（備讃瀬戸（水島灘）：笠岡_令和7年）

2) 漁業情報等

寄島町漁業協同組合における漁業情報について聞き取りを行った結果は、表 III. 2. 4-1 に示す。

表 III. 2. 4-1 漁業情報及びごみの回収情報（備讃瀬戸（水島灘））

漁期	11/1～3/31
操業状況	・エビ、カニ、シャコ類を対象
海洋ごみ回収状況	・漁港に設置した海底ごみステーション(小屋)に漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは浅口市にて処分を実施。 ・調査に協力の漁業者は操業中に混獲されたごみについては網にかかったものも含めて回収を実施。

(2) 調査状況等

備讃瀬戸(水島灘)では、小型機船底びき網漁業に従事する隻で、20 隻日で調査を行った。

操業位置を図 III. 2. 4-4 に示す。回収されたごみは、漁協所定の場所（海ごみ回収ステーション）に集積された。

調査で使用された漁具等の仕様及び写真は、及び図 III. 2. 4-3 に示す。

表 III. 2. 4-2 漁具等の仕様（備讃瀬戸（水島灘））

小型機船底びき網漁業	手繰り第3種
桁網幅	2.6m
網の目合い	4cm
曳網距離	617km/20 隻日
換算掃海面積	1.6km ²

※換算掃海面積は「曳網距離×桁網幅」より算出している。



図 III. 2. 4-3 使用漁具等（備讃瀬戸（水島灘））

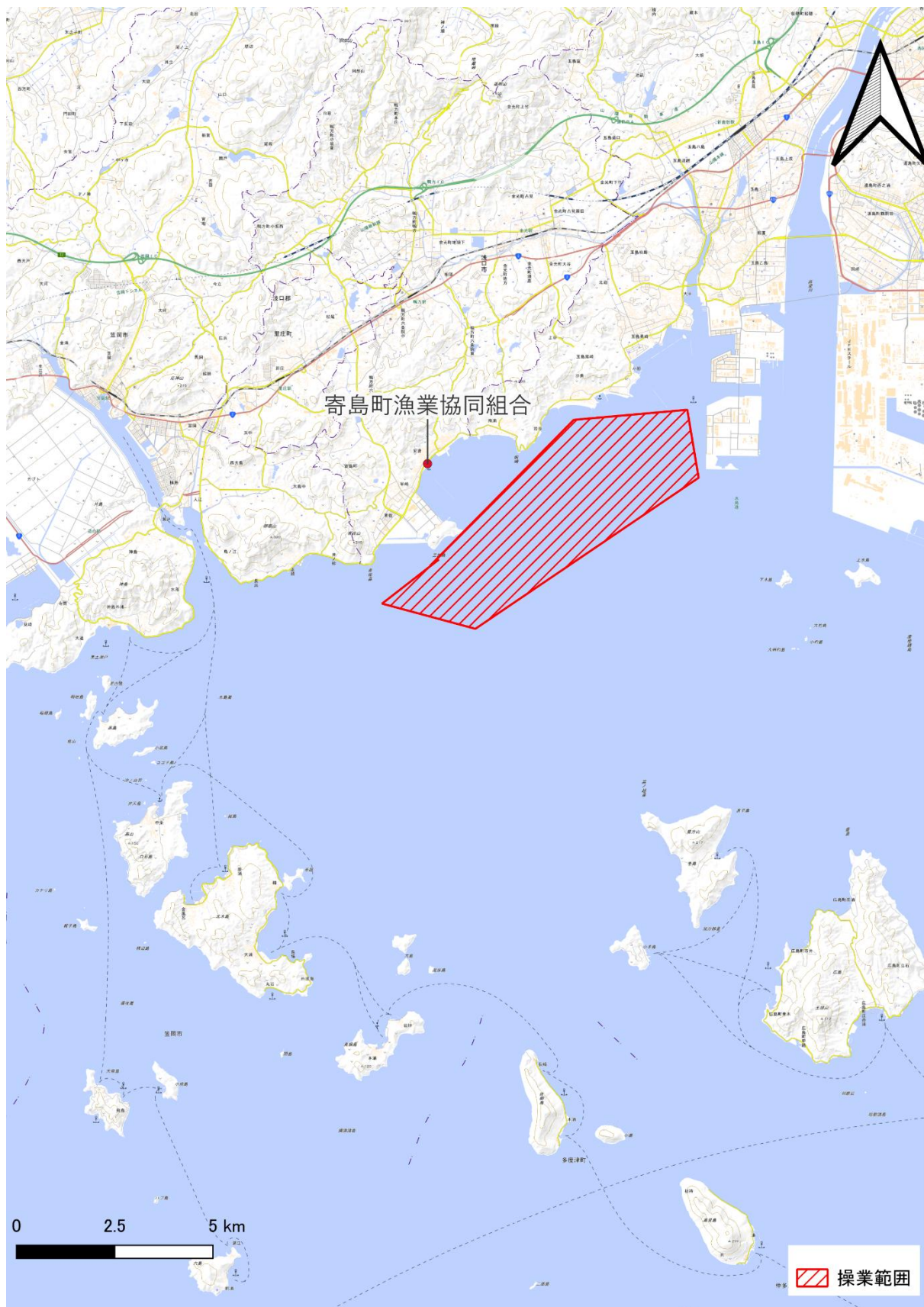


図 III. 2. 4-4 操業範囲(備讀瀬戸(水島灘))

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況

回収された海底ごみの状況等を図 2.4-5 に示す。



図 III. 2.4-5 回収・分別状況（備讃瀬戸(水島灘)）

2) 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は表 III. 2. 4-3 及び図 III. 2. 4-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

個数、重量、容積密度すべてで、プラスチックが半分以上を占めていた。個数や容積では8割を以上であった。他には金属が個数、重量、容積で約1割であった。

表 III. 2. 4-3 海底ごみの実測結果（備讃瀬戸(水島灘)）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	3544	-	134	58	381	7	34	1	-	12	4171
割合(%)	85.0%	-	3.2%	1.4%	9.1%	0.2%	0.8%	0.0%	-	0.3%	100%
重量(kg)	33.2	-	12.6	5.7	11.1	1.7	1.5	0.0	-	0.0	65.8
割合(%)	50.4%	-	19.2%	8.7%	16.9%	2.6%	2.2%	0.0%	-	0.0%	100%
容積(L)	927.4	-	37.0	12.7	115.1	2.2	11.4	0.0	-	0.1	1105.9
割合(%)	83.9%	-	3.3%	1.1%	10.4%	0.2%	1.0%	0.0%	-	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

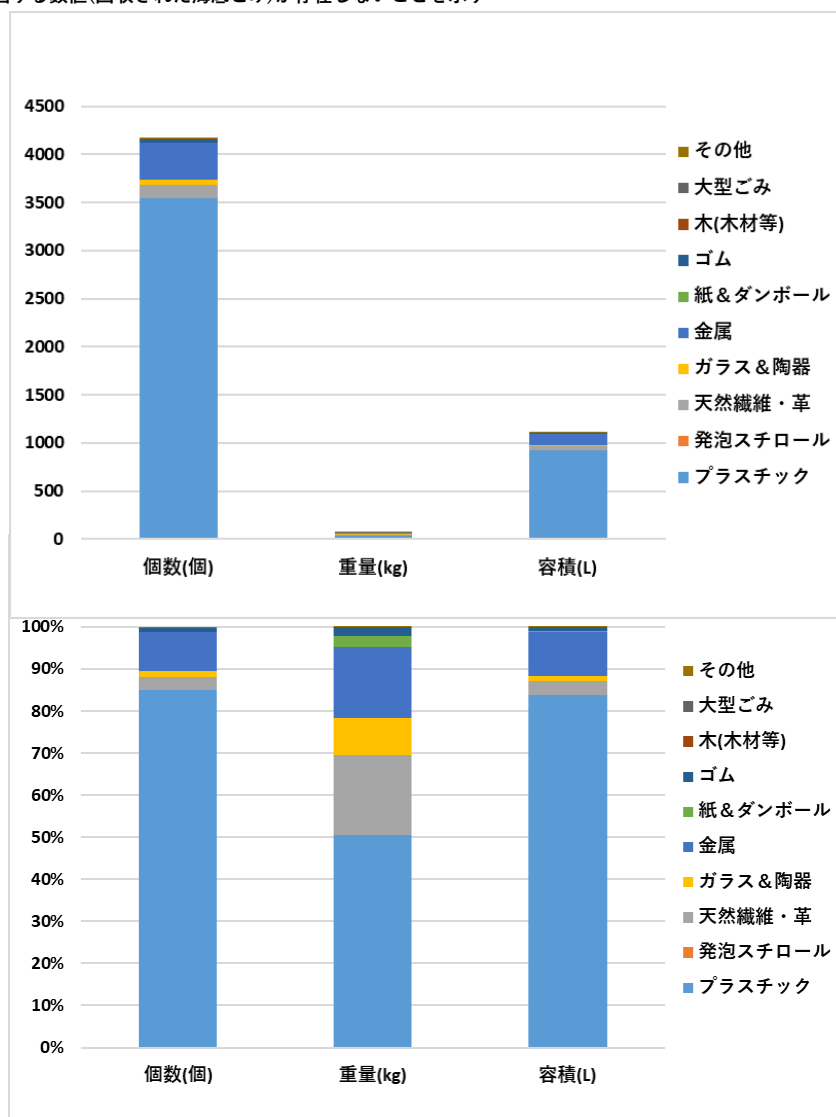


図 III. 2. 4-6 海底ごみの個数・重量・容積の計測結果（上：計測値、下：割合）

3) 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 4-4 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した。結果は表 III. 2. 4-5 及び図 III. 2. 4-7 に示す。

個数、重量、容積すべて「破片類」が多く、個数では6割、容積では4割以上を占めていた。他にも「袋類」や「容器」類が多い結果となった。重量では「ひも・ロープ類」が4分の1を占めていた。

表 III. 2. 4-4 海底ごみの密度（備讃瀬戸(水島灘)）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	2210.5	-	83.6	36.2	237.6	4.4	21.2	0.6	-	7.5	2601.6
割合(%)	85.0%	-	3.2%	1.4%	9.1%	0.2%	0.8%	0.0%	-	0.3%	100%
重量密度(kg/km ²)	20.7	-	7.9	3.6	6.9	1.1	0.9	0.0	-	0.0	41.0
割合(%)	50.4%	-	19.2%	8.7%	16.9%	2.6%	2.2%	0.0%	-	0.0%	100%
容積密度(L/km ²)	578.4	-	23.1	7.9	71.8	1.4	7.1	0.0	-	0.1	689.8
割合(%)	83.9%	-	3.3%	1.1%	10.4%	0.2%	1.0%	0.0%	-	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 4-5 プラスチック類の密度（備讃瀬戸(水島灘)）

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	446.6	54.3	169.0	90.4	29.3	3.1	1412.1	5.6
重量密度(kg/km ²)	3.3	1.7	3.4	5.2	0.7	0.2	5.9	0.3
容積密度(L/km ²)	120.2	42.3	74.6	34.6	6.5	22.7	271.1	6.4

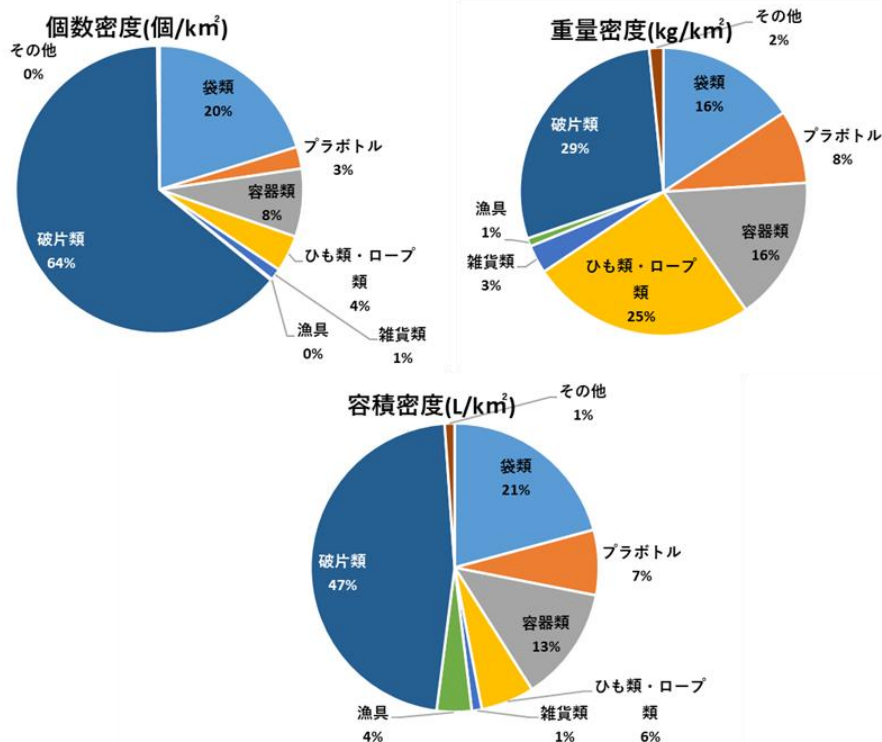


図 III. 2. 4-7 プラスチック類の個数・重量・容積密度（備讃瀬戸(水島灘)）

4) 賞味（消費）期限及び言語表記

① 賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III. 2. 4-6、図 III. 2. 4-8 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III. 2. 4-9 に示す。

全品目で2026年、2025年と言った直近のものが多く確認され、アルミの飲料缶では幅広い年代のものが確認された。最も古いものは1998年のアルミの飲料缶であった。

表 III. 2. 4-6 賞味（消費）期限（備讃瀬戸(水島灘)）

品目	2027	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2011	2006	2005	2002	2000	1998	合計
アルミの飲料缶	1	39	15	5	1	1	5	2	6	2	2	1	1	2	1	1	-	1	1	3	1	91
スチール製飲料用缶	-	19	21	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
飲料用(ペットボトル)≤600ml	-	11	10	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
その他のプラボトル600ml<V<2L	-	2	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
その他のプラボトル≤600ml	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
食品の容器	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
お菓子の袋	-	5	12	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
食品用・包装用の袋(食品の包装・容器)	1	3	19	1	5	1	3	1	1	2	1	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	41
合計	2	80	81	8	9	4	11	5	8	5	4	2	1	2	1	1	2	2	1	3	1	233

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

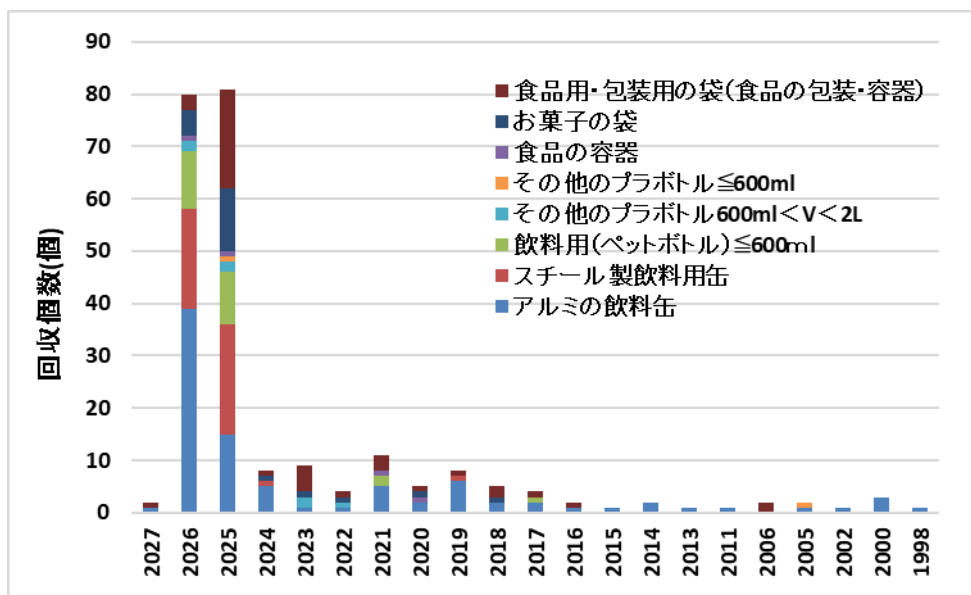


図 III. 2. 4-8 賞味（消費）期限（備讃瀬戸(水島灘)）



図 III. 2. 4-9 海底ごみの状態（備讃瀬戸(水島灘)）

② 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

備讃瀬戸(水島灘)で回収されたごみのうち、表記された言語、バーコードの判別結果は表 III. 2. 4-7、図 III. 2. 4-10 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III. 2. 4-11 に示す。

備讃瀬戸(水島灘)ではおおむね日本語表記であったが、食品用の袋で中国語と韓国語の表記が確認された。

表 III. 2. 4-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備讃瀬戸(水島灘)）

品目	日本語	中国語	韓国語	合計
アルミの飲料缶	91	-	-	91
スチール製飲料用缶	41	-	-	41
飲料用(ペットボトル) ≤600ml	5	-	-	5
その他のプラボトル600ml < V < 2L	8	-	-	8
その他のプラボトル ≤600ml	1	-	-	1
食品の容器	4	-	-	4
お菓子の袋	6	-	-	6
食品用・包装用の袋(食品の包装・容器)	33	1	1	35
合計	189	1	1	191

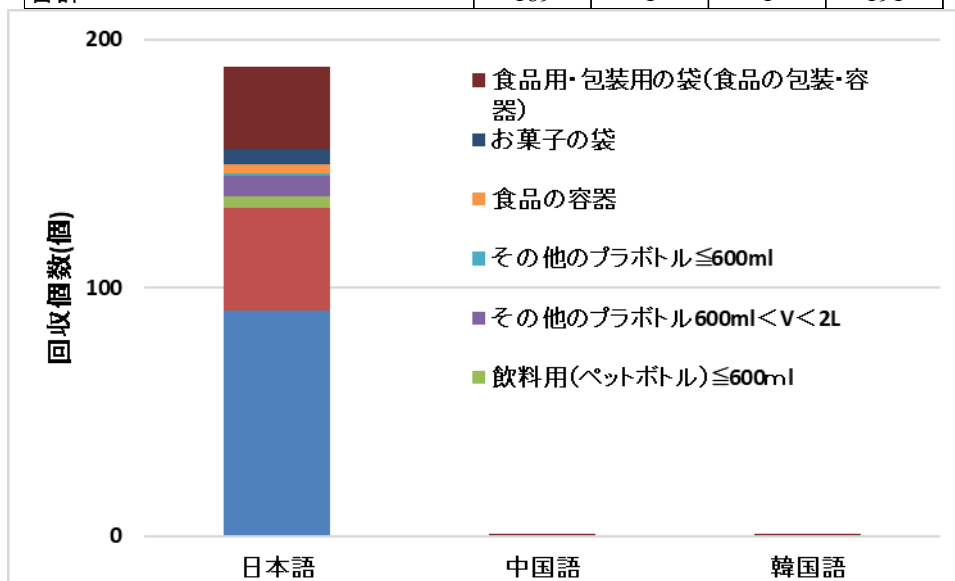


図 III. 2. 4-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備讃瀬戸(水島灘)）



図 III. 2. 4-11 海底ごみの言語表記状況（備讃瀬戸(水島灘)）

(3) 過年度調査結果との比較

備讃瀬戸(水島灘)では平成26年度に海底ごみ現地調査を寄島町漁業協同組合にて本年度同様実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III. 2. 4-8、図 III. 2. 4-12 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した表を表 III. 2. 4-9 に図 III. 2. 4-13 に示す。

ごみの総量は減少傾向にあった。個数はわずかに減少し、重量や容積は大きく減少した。プラスチック類では旅行バッグ等の影響により雑貨類の組成が重量密度や容積密度で増加した。

表 III. 2. 4-8 海底ごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(水島灘))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
H26_個数密度	1596.9	-	379.2	69.8	651.0	64.6	58.3	-	-	12.5	2832.3
組成(%)	56.4%	-	13.4%	2.5%	23.0%	2.3%	2.1%	-	-	0.4%	100%
R7_個数密度	2210.5	-	83.6	36.2	237.6	4.4	21.2	0.6	-	7.5	2601.6
組成(%)	85.0%	-	3.2%	1.4%	9.1%	0.2%	0.8%	0.0%	-	0.3%	100%
H26_重量密度	101.6	-	32.8	14.4	43.6	4.3	12.4	-	-	2.2	211.3
組成(%)	48.1%	-	15.5%	6.8%	20.7%	2.0%	5.9%	-	-	1.0%	100%
R7_重量密度	20.7	-	7.9	3.6	6.9	1.1	0.9	0.0	-	0.0	41.0
組成(%)	50.4%	-	19.2%	8.7%	16.9%	2.6%	2.2%	0.0%	-	0.0%	100%
H26_容積密度	548.5	-	92.8	24.0	633.5	16.0	46.4	-	-	16.0	1377.3
組成(%)	39.8%	-	6.7%	1.7%	46.0%	1.2%	3.4%	-	-	1.2%	100%
R7_容積密度	578.4	-	23.1	7.9	71.8	1.4	7.1	0.0	-	0.1	689.8
組成(%)	83.9%	-	3.3%	1.1%	10.4%	0.2%	1.0%	0.0%	-	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

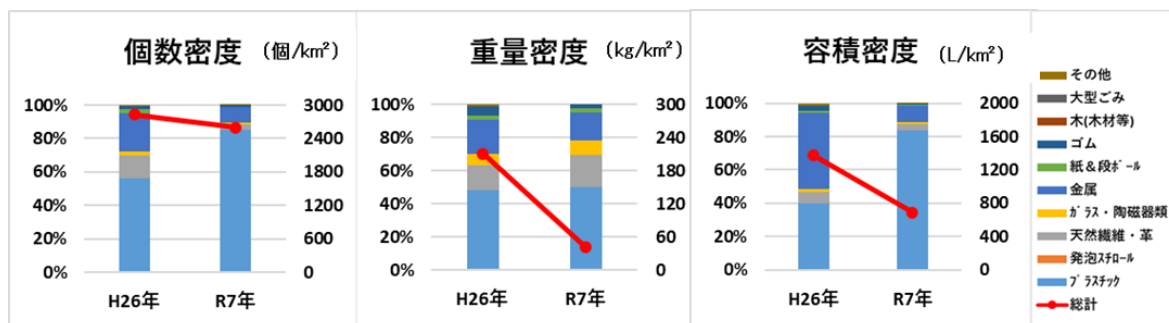


図 III. 2. 4-12 海底ごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(水島灘))

表 III. 2. 4-9 プラスチックごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(水島灘))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
H26_個数密度	685.4	90.6	345.8	44.8	4.2	11.5	414.6	-	1596.9
組成(%)	42.9%	5.7%	21.7%	2.8%	0.3%	0.7%	26.0%	-	100%
R7_個数密度	446.6	54.3	169.0	90.4	29.3	3.1	1,412.1	5.6	2210.5
組成(%)	20.2%	2.5%	7.6%	4.1%	1.3%	0.1%	63.9%	0.3%	100%
H26_重量密度	27.7	2.6	3.8	26.3	0.1	11.5	29.7	-	101.6
組成(%)	27.3%	2.6%	3.7%	25.8%	0.1%	11.3%	29.2%	-	100%
R7_重量密度	3.3	1.7	3.4	5.2	0.7	0.2	5.9	0.3	20.7
組成(%)	15.7%	8.3%	16.3%	25.4%	3.2%	0.9%	28.7%	1.6%	100%
H26_容積密度	105.6	88.0	148.2	92.8	8.3	48.0	57.6	-	548.5
組成(%)	19.3%	16.0%	27.0%	16.9%	1.5%	8.8%	10.5%	-	100%
R7_容積密度	120.2	42.3	74.6	34.6	6.5	22.7	271.1	6.4	578.4
組成(%)	20.8%	7.3%	12.9%	6.0%	1.1%	3.9%	46.9%	1.1%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

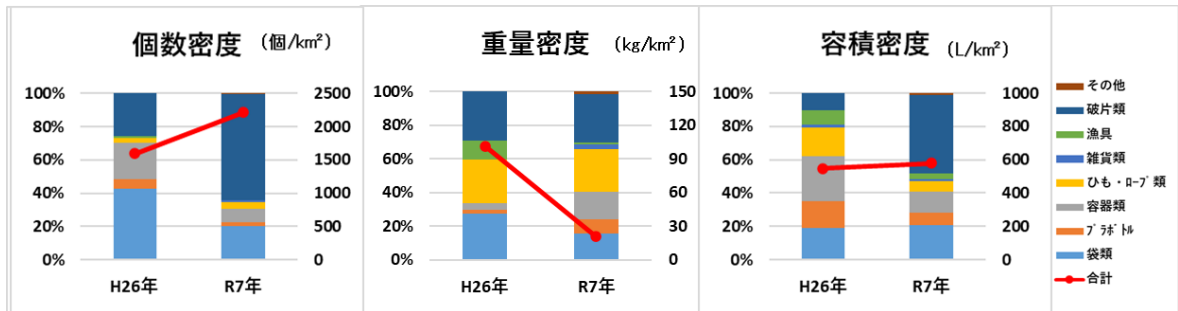


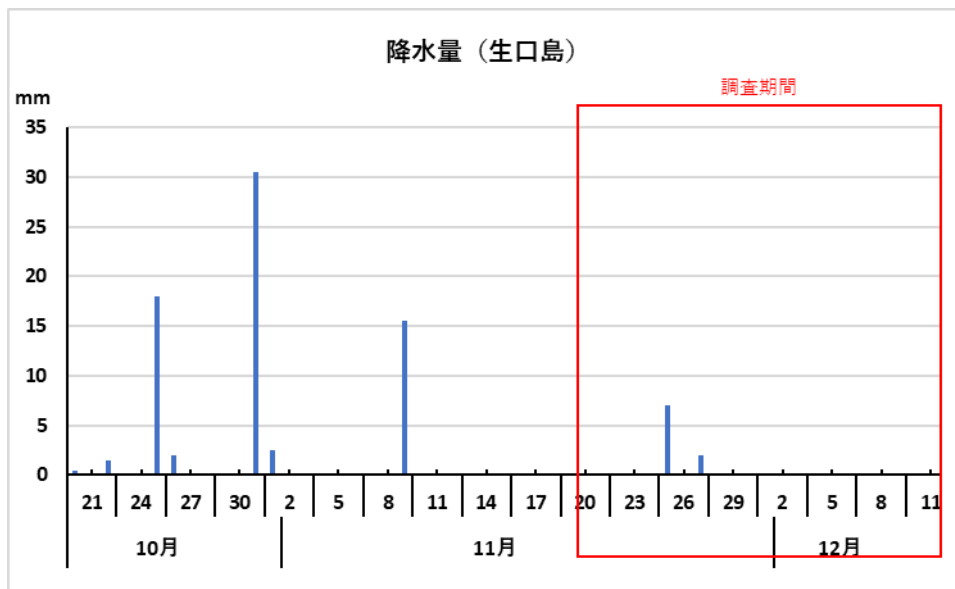
図 III. 2. 4-13 プラスチックごみの分類別結果比較(備讃瀬戸(水島灘))

III. 2. 5 備後灘

(1) 現地の状況

1) 降水量

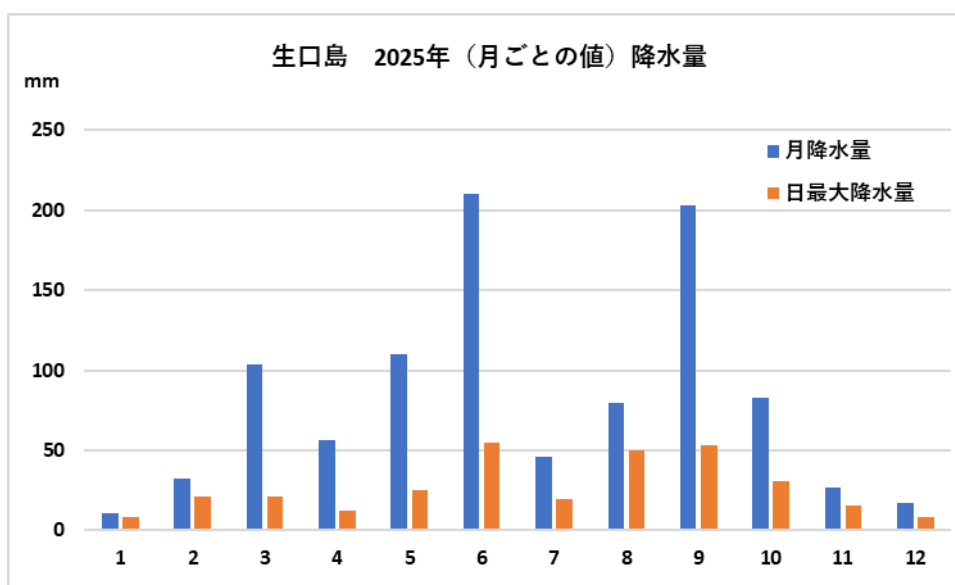
気象庁のホームページより確認した、調査期間1ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 5-1 に、令和7年における月別降水量を図 III. 2. 5-2 に示す。備後灘の場合は、生口島観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

(気象庁 HP：http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php 2026年3月10日閲覧) より作成

図 III. 2. 5-1 調査期間の降水量 (備後灘：生口島)



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

(気象庁 HP：http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php 2026年3月10日閲覧) より作成

図 III. 2. 5-2 月別降水量 (備後灘：生口島_令和7年)

2) 漁業情報等

因島市漁業協同組合における漁業情報について聞き取りを行った結果は、表 III. 2. 5-1 に示す。

表 III. 2. 5-1 漁業情報及びごみの回収情報（備後灘）

漁期	手繰り第3種：11/1～3/31 手繰り第2種：1/1～12/31
操業状況	・手繰り第3種：カニ、エビ類を対象 ・手繰り第2種：カレイ、シタビラメ、タコ、タイ類を対象
海洋ごみ回収状況	・漁業者が海洋ごみを回収し、回収したごみは島のクリーンセンターに漁業者が搬入。搬入したごみは尾道市で処理、処理費用は市が負担。 ・島内での処理が困難な大型ごみは対象外。 ・島内に海洋ごみステーションはあるが、老朽化のため使用していない。

(2) 調査状況等

備後灘では、小型機船底びき網漁業に従事する3隻の26隻日で調査を行った。そのうち、手繰り第2種が2隻18隻日、手繰り第3種が1隻の8隻日であった。

操業範囲を図 III. 2. 5-4 に示す。

回収されたごみは、漁業種別に漁港背後の空き地スペースに集積された。

調査で使用された漁具等の仕様及び写真は、表 III. 2. 5-2 及び図 III. 2. 5-3 に示す。

表 III. 2. 5-2 漁具等の仕様（備後灘）

小型機船底びき網漁業	手繰り第3種	手繰り第2種
桁網・網口幅	1.8m×2	14m
網の目合い	3.3cm	2.7cm
曳網距離	365km/8隻日	374km/18隻日
換算掃海面積	1.1km ²	5.2km ²

※換算掃海面積は「曳網距離×網口横幅」より算出している。



図 III. 2. 5-3 使用漁具等(備後灘)

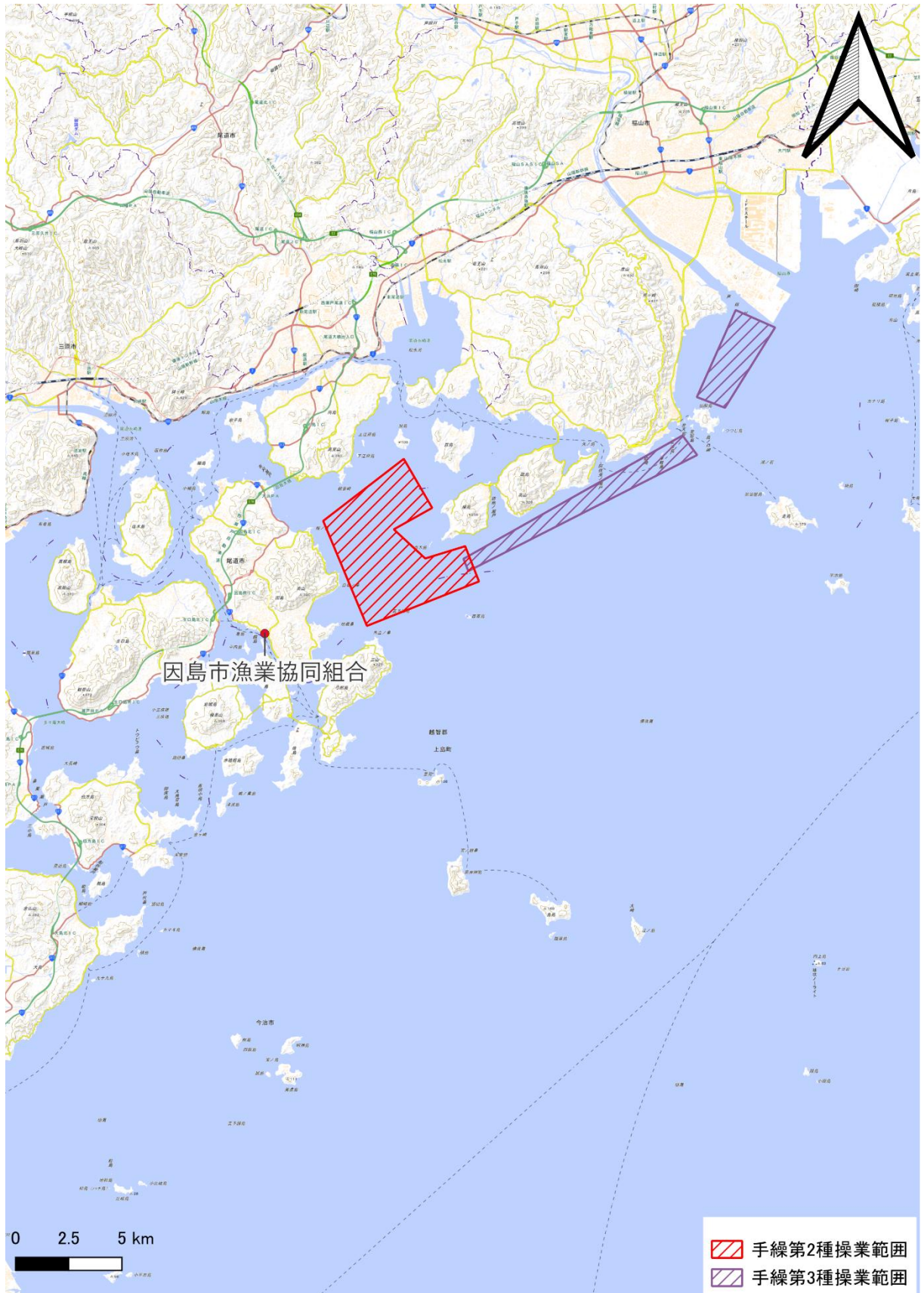


図 III.2.5-4 操業範囲(備後灘)

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況等

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 5-5 に示す。

	
海底ごみの回収状況	回収ごみ全体量
	
シートや袋の破片	アルミの缶飲料
	
飲料用ビン	軍手

図 III. 2. 5-5 (1) 回収・分別状況 (備後灘・手繰り第3種)



図 III. 2. 5-(2) 回収・分別状況(備後灘・手繰り第2種)

備後灘では手繰り第3種、第2種それぞれで調査、計測を実施したため、調査結果をそれぞれ示す。

1) 手繰り第3種

① 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は表 III. 2. 5-3 及び図 III. 2. 5-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

「プラスチック」が個数で7割。容積では約5割、重量で約3割とそれぞれ最も多かった。重量、容積では大型のごみが多く確認されたため「その他」で多く、他には天然繊維・革が個数、重量で多い結果となった。

表 III. 2. 5-3 海底ごみの実測結果（備後灘・手繰り第3種）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	658	3	115	16	41	2	11	7	-	2	855
割合(%)	77.0%	0.4%	13.5%	1.9%	4.8%	0.2%	1.3%	0.8%	-	0.2%	100%
重量(kg)	24.9	0.0	15.2	4.2	10.0	1.1	7.2	0.8	-	15.0	78
割合(%)	31.8%	0.0%	19.3%	5.3%	12.8%	1.5%	9.2%	1.0%	-	19.2%	100%
容積(L)	597.6	0.9	82.3	7.8	94.7	6.1	43.4	5.8	-	396.2	1235
割合(%)	48.4%	0.1%	6.7%	0.6%	7.7%	0.5%	3.5%	0.5%	-	32.1%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

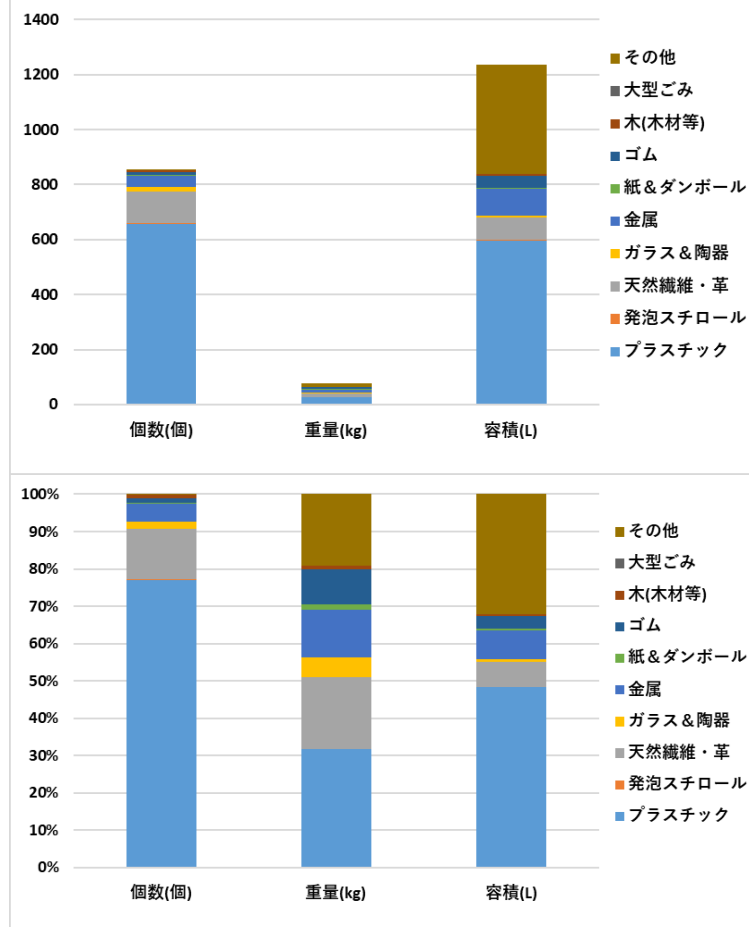


図 III. 2. 5-6 海底ごみの実測結果（上：計測値、下：割合）

② 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 5-4 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した。結果は表 III. 2. 5-5 及び図 III. 2. 5-7 に示す。

個数では「破片類」が多く約 5 割、重量では「ひも類・ロープ類」が多く約 4 割、容積では「容器類」が多く 4 割となっていた。

表 III. 2. 5-4 海底ごみの密度（備後灘・手繰り第 3 種）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	500.1	2.3	87.4	12.2	31.2	1.5	8.4	5.3	-	1.5	649.9
割合(%)	77.0%	0.4%	13.5%	1.9%	4.8%	0.2%	1.3%	0.8%	-	0.2%	100%
重量密度(kg/km ²)	19.0	0.0	11.5	3.2	7.6	0.9	5.5	0.6	-	11.4	59.6
割合(%)	31.8%	0.0%	19.3%	5.3%	12.8%	1.5%	9.2%	1.0%	-	19.2%	100%
容積密度(L/km ²)	454.2	0.7	62.6	5.9	72.0	4.7	33.0	4.4	-	301.1	938.7
割合(%)	48.4%	0.1%	6.7%	0.6%	7.7%	0.5%	3.5%	0.5%	-	32.1%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 5-5 プラスチック類の密度（備後灘・手繰り第 3 種）

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	88.9	32.7	95.8	22.8	14.4	12.2	232.6	0.8
重量密度(kg/km ²)	1.4	3.8	1.1	6.8	1.0	2.2	2.5	0.1
容積密度(L/km ²)	52.9	41.9	192.6	55.8	17.0	30.1	62.5	1.3

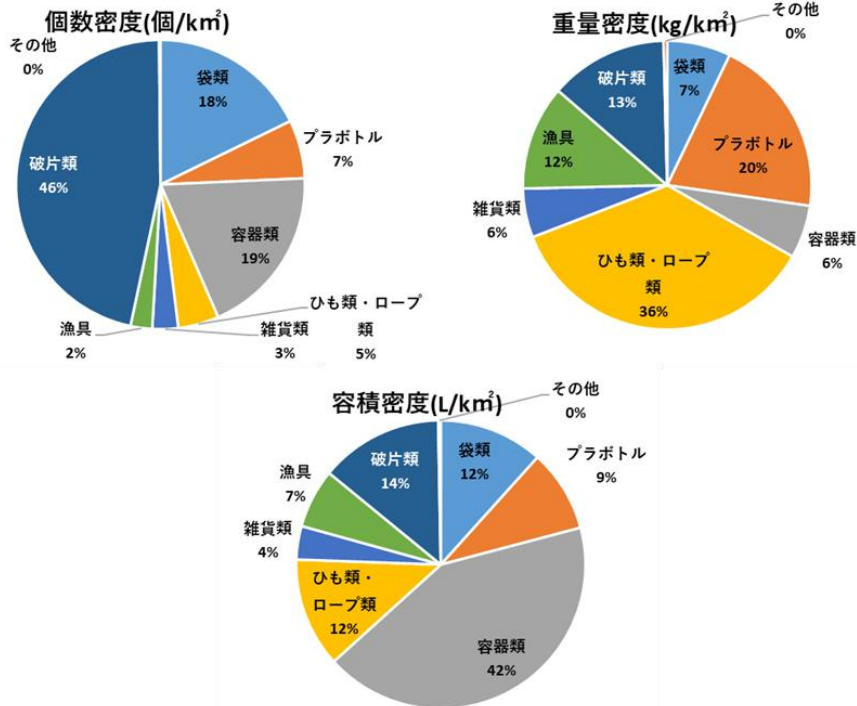


図 III. 2. 5-7 プラスチック類の用途別個数・重量・容積密度（備後灘・手繰り第 3 種）

③ 賞味（消費）期限及び言語表記

a. 賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III.2.5-6、図 III.2.5-8 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III.2.5-9 に示す。

全品目で2026年、2025年と言った直近のものが多く確認され、アルミの飲料缶では幅広い年代のものが確認された。最も古いものは2002年のスチール製飲料缶であった。

表 III.2.5-6 飲料缶等の賞味（消費）期限（備後灘・手繰り第3種）

品目	2027	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2018	2017	2016	2010	2005	2002	合計
アルミの飲料缶	-	6	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	11
スチール製飲料用缶	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	5
お菓子の袋	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	-	2	5	2	1	1	1	-	2	-	1	-	-	-	15
飲料用（ペットボトル）≤600ml	1	1	7	4	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	16
合計	1	12	18	6	1	2	1	3	2	1	1	1	1	1	51

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

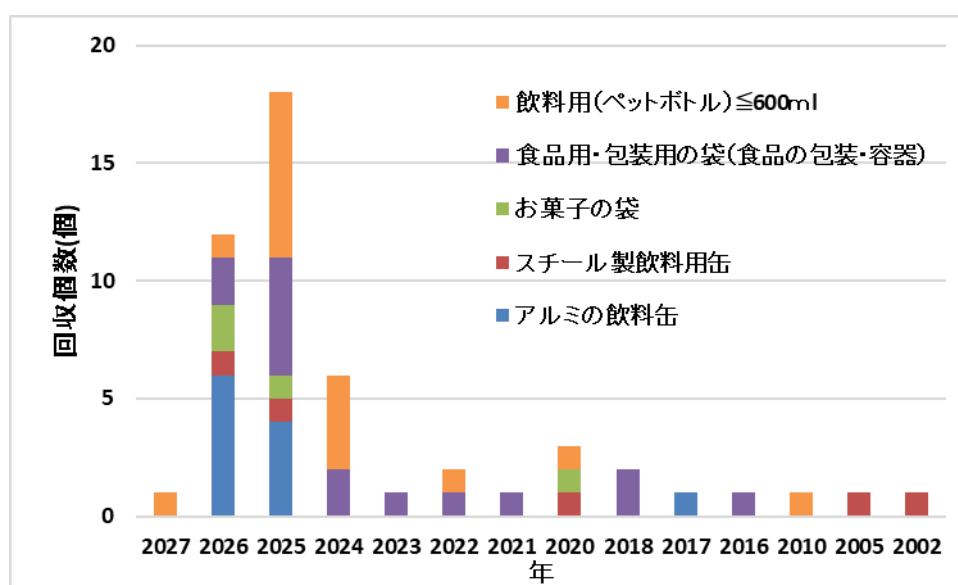


図 III.2.5-8 飲料缶等の賞味（消費）期限（備後灘・手繰り第3種）

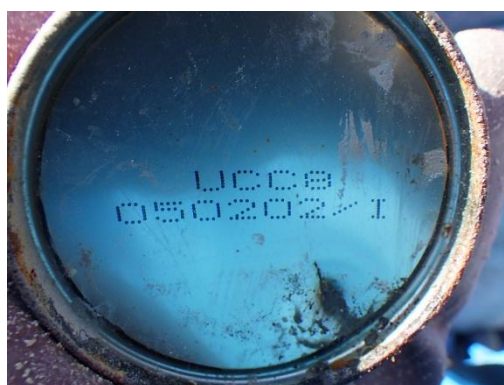


図 III.2.5-9 海底ごみの状態（備後灘・手繰り第3種）

b. 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

備後灘で回収されたごみのうち、表記された言語、バーコードの判別結果は表 III. 2. 5-7、図 III. 2. 5-10 に示す。回収されたごみの状態は図 III. 2. 5-11 に示す。

備後灘ではおおむね日本語表記であったが、食品用の袋で中国語の表記が確認された。

表 III. 2. 5-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備後灘・手繰り第3種）

品目	日本語	中国語	合計
お菓子の袋	6	-	6
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	24	2	26
その他の袋	1	-	1
スチール製飲料用缶	5	-	5
アルミの飲料缶	14	-	14
飲料用（ペットボトル）≤600ml	16	-	16
合計	66	2	68

※表中の「-」は該当する数値（回収された海底ごみ）が存在しないことを示す

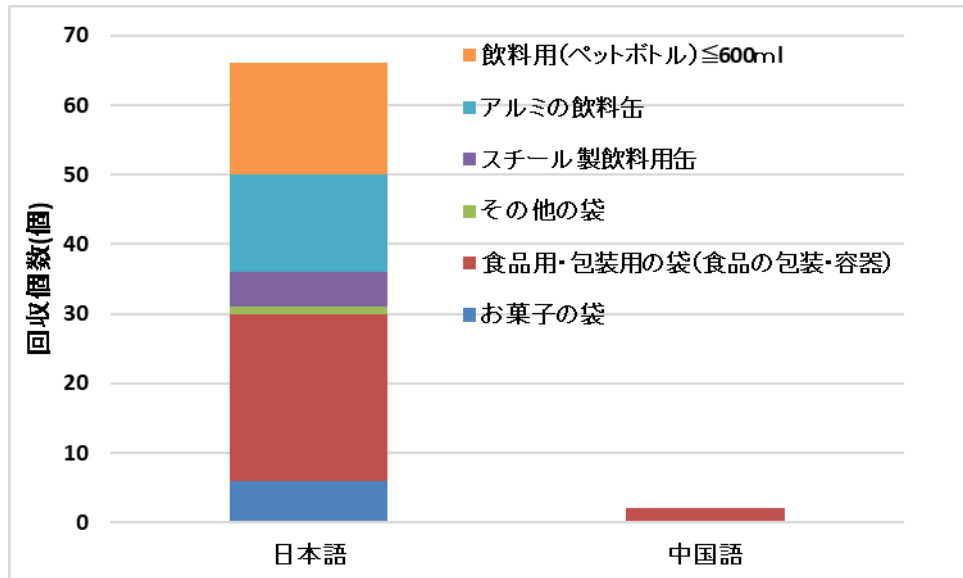


図 III. 2. 5-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備後灘・手繰り第3種）



図 III. 2. 5-11 海底ごみの言語表記状況（備後灘・手繰り第3種）

④ 過年度調査結果との比較

備後灘では平成 26 年度に海底ごみ現地調査を吉和漁業協同組合にて手繰り第 3 種の漁業者を対象に実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III. 2. 5-8、図 III. 2. 5-12 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した表を表 III. 2. 5-9 に図 III. 2. 5-13 に示す。なお、漁業協同組合が異なるため、漁具と操業海域が同一ではない点には留意が必要である。

ごみの総量は本年度が少ない結果となり、ごみの組成に大きな差異は見られなかった。プラスチック類では個数では「プラスチックの破片類」、重量では「ひも・ロープ類」、容積では「容器類」の割合が大きい結果となった。

表 III. 2. 5-8 海底ごみの分類別結果比較(備後灘・手繰り第 3 種)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
H26_個数密度	1252.0	0.6	3.4	30.5	196.0	2.8	14.7	-	-	5.1	1505.1
組成(%)	83.2%	0.0%	0.2%	2.0%	13.0%	0.2%	1.0%	-	-	0.3%	100%
R7_個数密度	500.1	2.3	87.4	12.2	31.2	1.5	8.4	5.3	-	1.5	649.9
組成(%)	77.0%	0.4%	13.5%	1.9%	4.8%	0.2%	1.3%	0.8%	-	0.2%	100%
H26_重量密度	31.0	0.0	7.2	8.4	12.5	0.1	10.0	-	-	16.9	86.2
組成(%)	35.9%	0.0%	8.4%	9.8%	14.5%	0.1%	11.6%	-	-	19.7%	100%
R7_重量密度	19.0	0.0	11.5	3.2	7.6	0.9	5.5	0.6	-	11.4	59.6
組成(%)	31.8%	0.0%	19.3%	5.3%	12.8%	1.5%	9.2%	1.0%	-	19.2%	100%
H26_容積密度	634.3	0.2	13.4	28.0	177.0	1.8	116.6	-	-	635.6	1606.8
組成(%)	39.5%	0.0%	0.8%	1.7%	11.0%	0.1%	7.3%	-	-	39.6%	100%
R7_容積密度	454.2	0.7	62.6	5.9	72.0	4.7	33.0	4.4	-	301.1	938.7
組成(%)	48.4%	0.1%	6.7%	0.6%	7.7%	0.5%	3.5%	0.5%	-	32.1%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

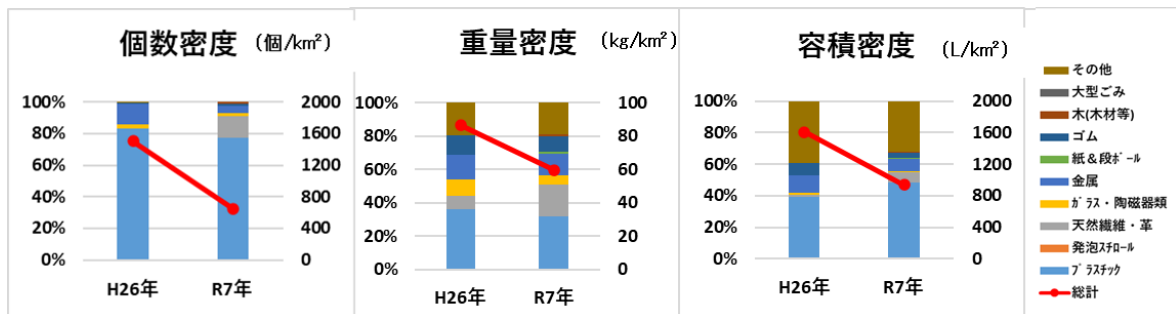


図 III. 2. 5-12 海底ごみの分類別結果比較(備後灘・手繰り第 3 種)

表 III. 2. 5-9 プラスチックごみの分類別結果比較(備後灘・手繰り第3種)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
H26_個数密度	612.4	60.5	131.6	10.7	6.2	6.2	422.6	1.7	1252.0
組成(%)	48.9%	4.8%	10.5%	0.9%	0.5%	0.5%	33.8%	0.1%	100%
R7_個数密度	88.9	32.7	95.8	22.8	14.4	12.2	232.6	0.8	500.1
組成(%)	17.8%	6.5%	19.1%	4.6%	2.9%	2.4%	46.5%	0.2%	100%
H26_重量密度	11.6	2.7	2.5	1.0	1.8	0.7	9.9	1.0	31.2
組成(%)	37.3%	8.5%	8.2%	3.3%	5.6%	2.4%	31.7%	3.1%	100%
R7_重量密度	1.4	3.8	1.1	6.8	1.0	2.2	2.5	0.1	19.0
組成(%)	7.1%	20.2%	6.0%	35.9%	5.5%	11.7%	13.2%	0.4%	100%
H26_容積密度	199.1	86.3	121.4	30.5	28.2	30.5	134.2	4.0	634.3
組成(%)	31.4%	13.6%	19.1%	4.8%	4.4%	4.8%	21.2%	0.6%	100%
R7_容積密度	52.9	41.9	192.6	55.8	17.0	30.1	62.5	1.3	454.2
組成(%)	11.7%	9.2%	42.4%	12.3%	3.8%	6.6%	13.8%	0.3%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

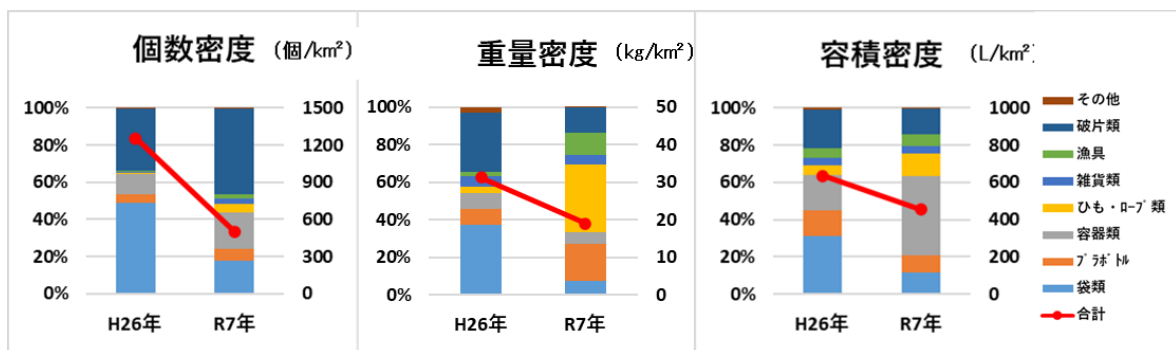


図 III. 2. 5-13 プラスチックごみの分類別結果比較(備後灘・手繰り第3種)

2) 手繰り第2種

① 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は表 III. 2. 5-10 及び図 III. 2. 5-14 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

「プラスチック」が個数で9割。容積では約5割、重量で約4割と多かった。重量、容積では大型のごみが多く確認されたため「大型ごみ」で多く、重量では半分以上が大型ごみであった。

表 III. 2. 5-10 海底ごみの実測結果（備後灘・手繰り第2種）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	2797.0	-	52.0	5.0	57.0	19.0	20.0	3.0	9.0	3.0	2965.0
割合(%)	94.3%	-	1.8%	0.2%	1.9%	0.6%	0.7%	0.1%	0.3%	0.1%	100%
重量(kg)	51.6	-	6.4	1.9	2.4	0.2	2.8	0.8	66.7	0.2	133.0
割合(%)	38.8%	-	4.8%	1.4%	1.8%	0.2%	2.1%	0.6%	50.2%	0.1%	100%
容積(L)	1583.8	-	46.2	3.4	37.8	10.7	16.6	1.2	1268.8	6.2	2974.6
割合(%)	53.2%	-	1.6%	0.1%	1.3%	0.4%	0.6%	0.0%	42.7%	0.2%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

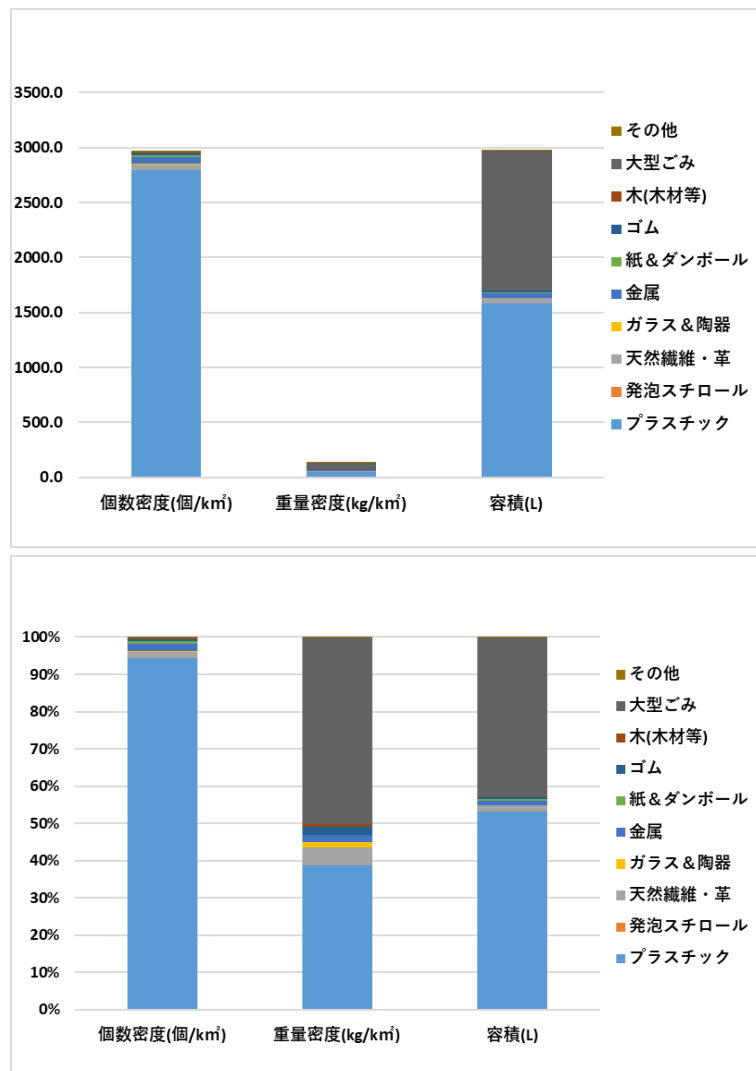


図 III. 2. 5-14 海底ごみの実測結果（上：計測値、下：割合）

② 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 5-11 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した。結果は表 III. 2. 5-12 及び図 III. 2. 5-15 に示す。

個数、容積で「破片類」が約 5 割と、重量では「袋類」が約 4 割と多い結果となった。

表 III. 2. 5-11 海底ごみの密度（備後灘・手繰り第 3 種）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	534.0	-	9.9	1.0	10.9	3.6	3.8	0.6	1.7	0.6	566.1
割合(%)	94.3%	-	1.8%	0.2%	1.9%	0.6%	0.7%	0.1%	0.3%	0.1%	100%
重量密度(kg/km ²)	9.8	-	1.2	0.4	0.5	0.0	0.5	0.2	12.7	0.0	25.4
割合(%)	38.8%	-	4.8%	1.4%	1.8%	0.2%	2.1%	0.6%	50.2%	0.1%	100%
容積密度(L/km ²)	302.4	-	8.8	0.6	7.2	2.0	3.2	0.2	242.3	1.2	568.0
割合(%)	53.2%	-	1.6%	0.1%	1.3%	0.4%	0.6%	0.0%	42.7%	0.2%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 5-12 プラスチック類の密度（備後灘・手繰り第 3 種）

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	195.9	15.1	41.6	18.7	6.3	5.2	249.2	2.1
重量密度(kg/km ²)	2.9	0.6	0.5	1.6	0.5	2.2	1.3	0.3
容積密度(L/km ²)	56.0	24.7	28.6	10.2	3.8	26.5	150.6	2.0

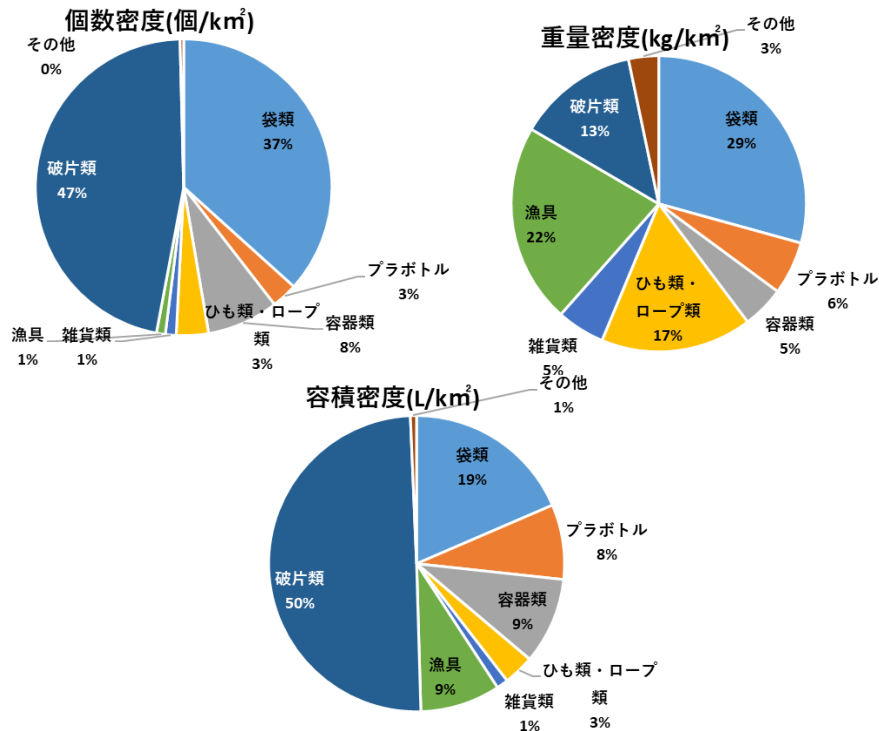


図 III. 2. 5-15 プラスチック類の個数・重量・容積密度（備後灘・手繰り第 3 種）

③ 賞味（消費）期限及び言語表記

a. 賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III. 2. 5-13、図 III. 2. 5-16 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III. 2. 5-17 に示す。

全品目で2026年、2025年と言った直近のものが多く確認された。最も古いものは1983年の食品・包装用の袋であった。

表 III. 2. 5-13 賞味（消費）期限（備後灘・手繰り第2種）

品目	2027	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2018	2016	2015	2013	2008	2007	2006	1989	1983	合計
アルミの飲料缶	1	20	3	3	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	31
スチール製飲料用缶	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
食品用缶	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
飲料用（ペットボトル）≤600ml	4	21	6	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
飲料用紙パック	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
飲料用（ペットボトル）600<V<2L	1	7	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
食品の容器	-	-	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
お菓子の袋	1	12	17	3	1	1	2	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	41
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	3	20	32	2	-	2	1	1	-	1	1	-	1	-	1	-	1	66
その他の袋	3	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
合計	13	84	68	13	4	3	4	3	1	2	1	1	2	1	1	1	1	203

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

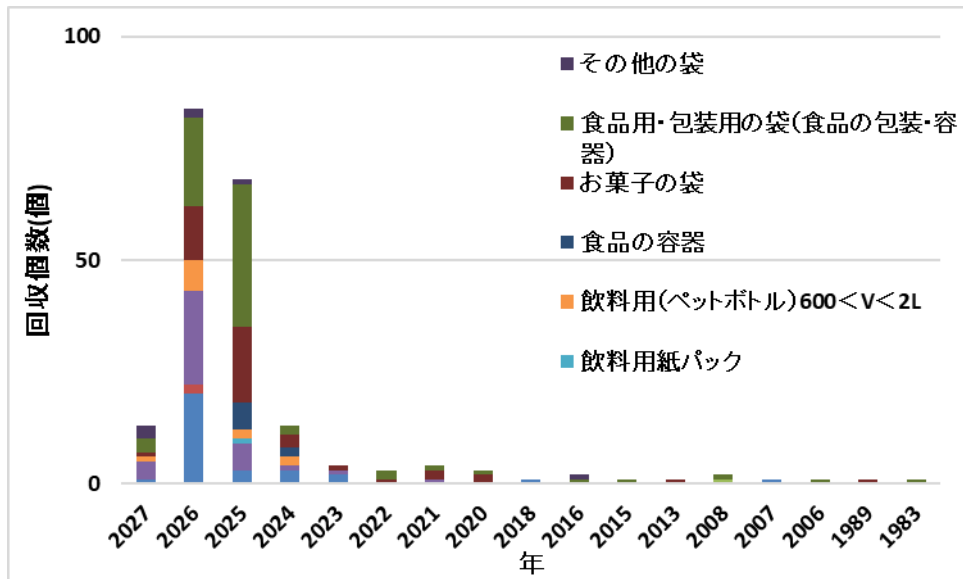


図 III. 2. 5-16 賞味（消費）期限（備後灘・手繰り第2種）



図 III. 2. 5-17 海底ごみの言語表記状況（備後灘・手繰り第2種）

b. 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

備後灘で回収されたごみのうち、表記された言語、バーコードの判別結果は表 III. 2. 5-15、図 III. 2. 5-18 に示す。

備後灘の手繰り 2 種ではすべて日本語表記であった。

表 III. 2. 5-14 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備後灘・手繰り第 3 種）

品目	日本語
アルミの飲料缶	31
スチール製飲料用缶	2
食品用缶	1
アルミの飲料缶	31
飲料用（ペットボトル） $\leq 600\text{ml}$	34
飲料用紙パック	1
飲料用（ペットボトル） $\leq 600\text{ml}$	34
飲料用（ペットボトル） $600 < V < 2\text{L}$	12
食品の容器	8
お菓子の袋	41
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	67
その他の袋	7
合計	269

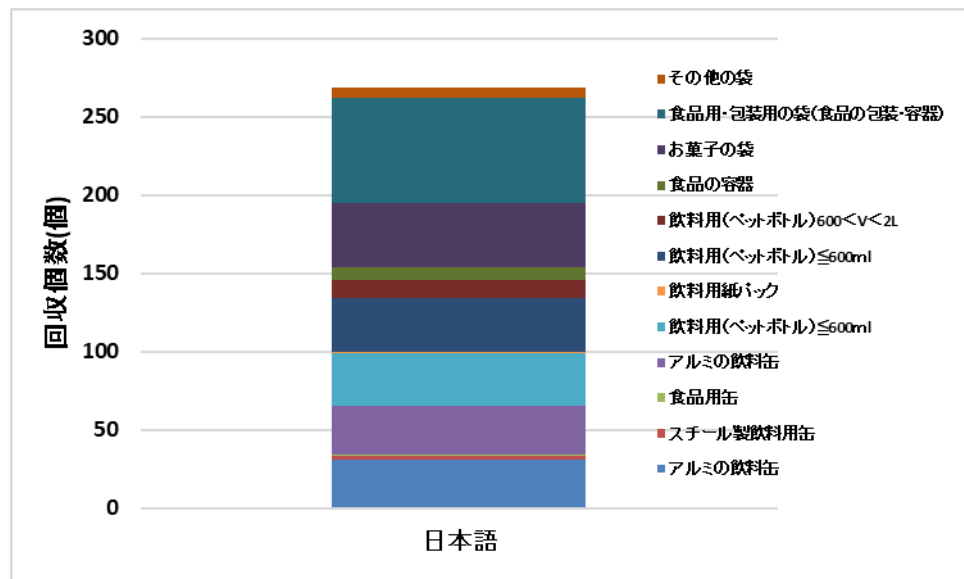


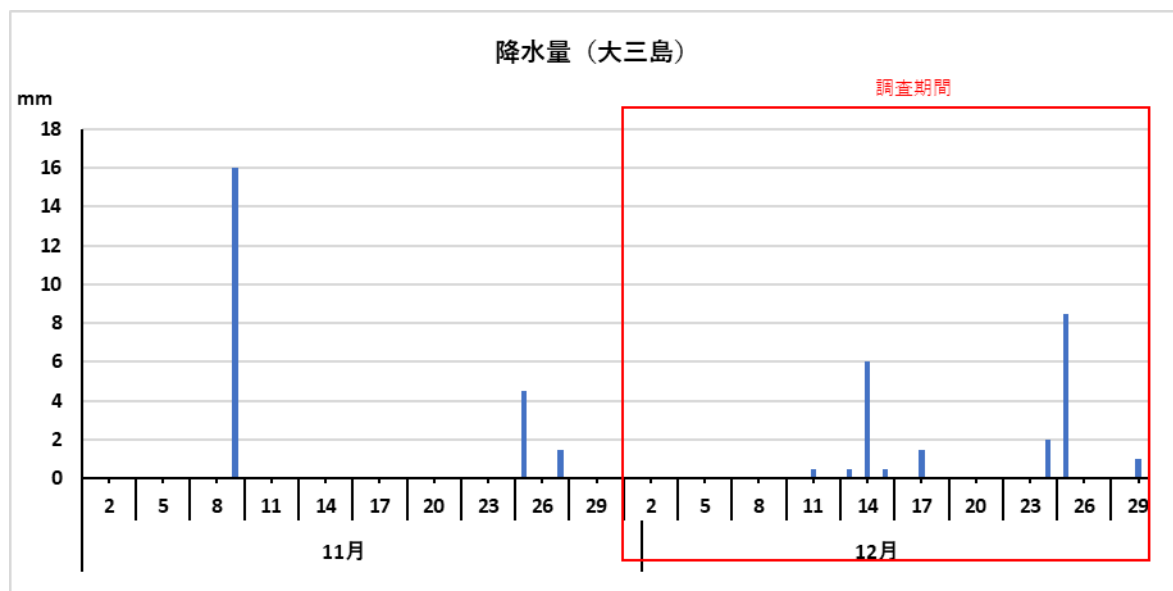
図 III. 2-14 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（備後灘・手繰り第 2 種）

III. 2. 6 燧灘（西）

(1) 現地の状況

1) 降水量

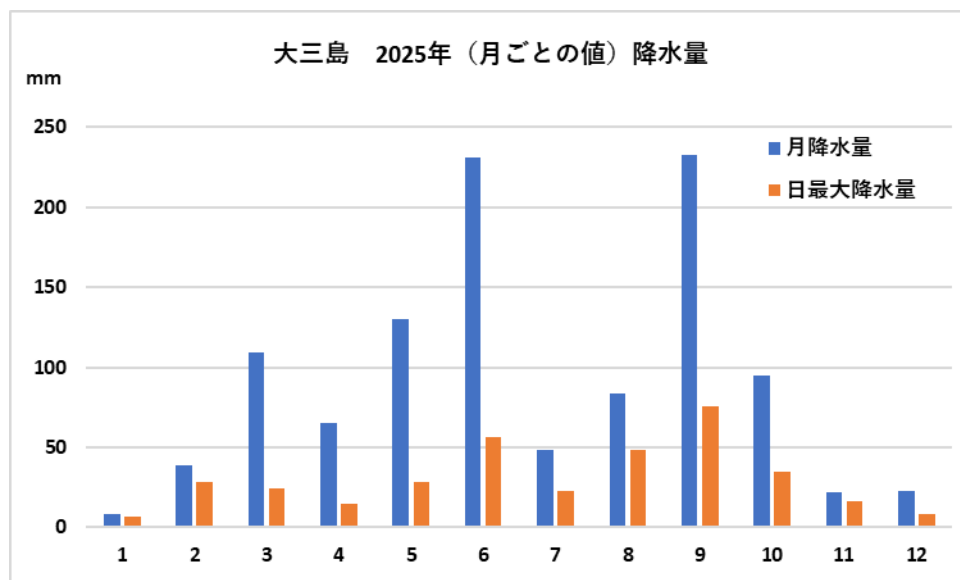
気象庁のホームページより確認した、調査期間1ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 6-1 に、令和7年における月別降水量を図 III. 2. 6-2 に示す。燧灘（西）の場合は、大三島観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

（気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧）より作成

図 III. 2. 6-1 調査期間の降水量（燧灘（西）：大三島）



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」

（気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月10日閲覧）より作成

図 III. 2. 6-2 月別降水量（燧灘（西）：大三島_令和7年）

2) 漁業情報等

愛媛県漁業協同組合宮窪支所における漁業情報について聞き取りを行った結果を表 III. 2. 6-1 に示す。

表 III. 2. 6-1 漁業情報及びごみの回収情報（燧灘（西））

漁期	12/1～3/31
操業状況	・エビ、イカ、エソ、チヌ、スズキ等を対象
海洋ごみ回収状況	漁業者が回収した海洋ごみは、今治市配布のごみ袋に入れ、船着き場周辺に保管。回収されたごみは今治市が漁業者からの連絡を受け回収、処分。

3) 調査状況等

燧灘（西）では、小型機船底びき網漁業に従事する 1 隻で、20 隻日で調査を行った。操業位置は図 III. 2. 6-4 に示す。回収されたごみは、漁港の空スペースに集積した。調査で使用された漁具等の仕様及び写真は、表 III. 2. 6-2 と図 III. 2. 6-3 に示す。

表 III. 2. 6-2 漁具等の仕様（燧灘（西））

小型機船底びき網漁業	手繰り第 2 種
桁網幅	3.46m
網の目合い	4.3cm
曳網距離	1056km/20 隻日
換算掃海面積	3.7km ²

※換算掃海面積は「曳網距離×網口横幅」より算出している。

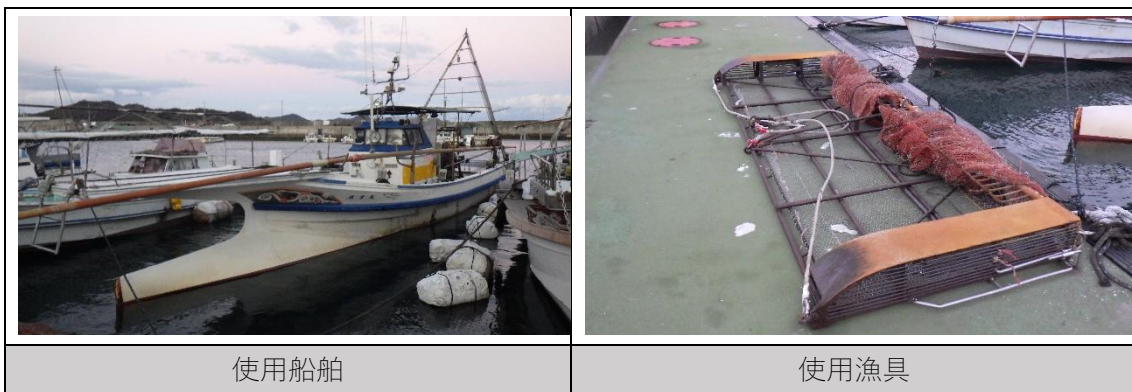


図 III. 2. 6-3 使用漁具等（燧灘（西））

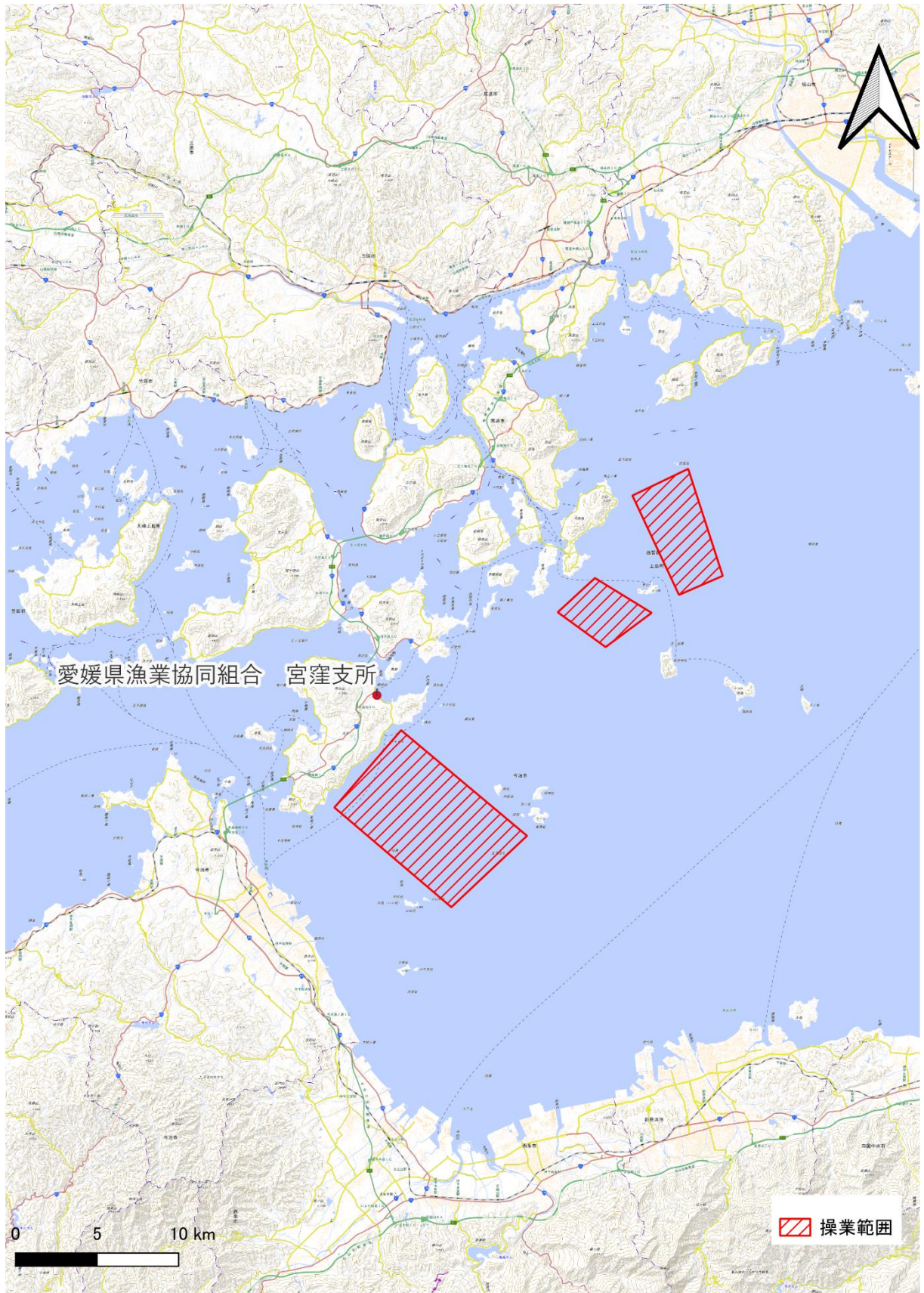


図 III.2.6-4 操業範囲(燧灘(西))

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況等

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 6-5 に示す。



図 III. 2. 6-5 回収・分別状況（燧灘（西））

2) 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は表 III. 2. 6-3 及び図 III. 2. 6-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

個数、容積では、プラスチックが半分近くを占めており、重量ではおよそ4分の1と多く確認された。他には金属や天然繊維・革が多く確認された。

表 III. 2. 6-3 海底ごみの実測結果（燧灘（西））

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	974	-	214	85	410	33	46	6	1	1	1770
割合(%)	55.0%	-	12.1%	4.8%	23.2%	1.9%	2.6%	0.3%	0.1%	0.1%	100%
重量(kg)	31.9	-	27.1	18.4	40.6	1.5	5.7	0.5	4.1	0.0	129.7
割合(%)	24.6%	-	20.9%	14.2%	31.3%	1.2%	4.4%	0.4%	3.2%	0.0%	100%
容積(L)	555.2	-	61.8	58.0	332.0	7.1	83.2	1.5	29.4	0.1	1128.3
割合(%)	49.2%	-	5.5%	5.1%	29.4%	0.6%	7.4%	0.1%	2.6%	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

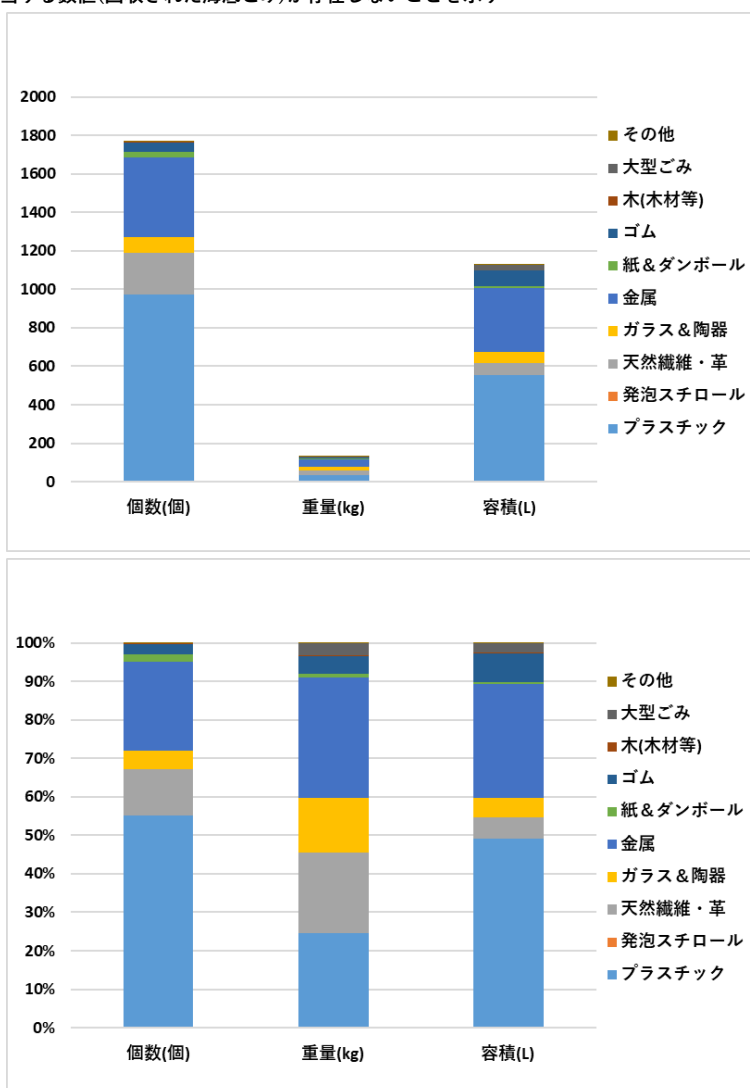


図 III. 2. 6-6 海底ごみの実測結果（上：計測値、下：割合）

2) 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 6-4 に示す。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した。結果は表 III. 2. 6-5 及び図 III. 2. 6-7 に示す。

個数、重量、容積すべてで「袋類が」4 分の 1 近くを占めていた。個数では他に「破片類」、「容器類」、重量では「漁具」、「破片類」、容積では「容器類」、「プラボトル」が多い結果となった。

表 III. 2. 6-4 海底ごみの密度（燧灘（西））

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数密度(個/km ²)	263.6	-	57.9	23.0	111.0	8.9	12.5	1.6	0.3	0.3	479.1
割合(%)	55.0%	-	12.1%	4.8%	23.2%	1.9%	2.6%	0.3%	0.1%	0.1%	100%
重量密度(kg/km ²)	8.6	-	7.3	5.0	11.0	0.4	1.5	0.1	1.1	0.0	35.1
割合(%)	24.6%	-	20.9%	14.2%	31.3%	1.2%	4.4%	0.4%	3.2%	0.0%	100%
容積密度(L/km ²)	150.3	-	16.7	15.7	89.9	1.9	22.5	0.4	8.0	0.0	305.4
割合(%)	49.2%	-	5.5%	5.1%	29.4%	0.6%	7.4%	0.1%	2.6%	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 6-5 プラスチック類の密度（燧灘（西））

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・シート類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	71.5	21.1	53.3	20.6	7.8	6.2	75.2	7.8
重量密度(kg/km ²)	2.0	0.8	0.8	0.7	0.3	2.0	1.2	0.9
容積密度(L/km ²)	35.5	21.0	43.5	7.2	3.3	10.5	15.1	14.3

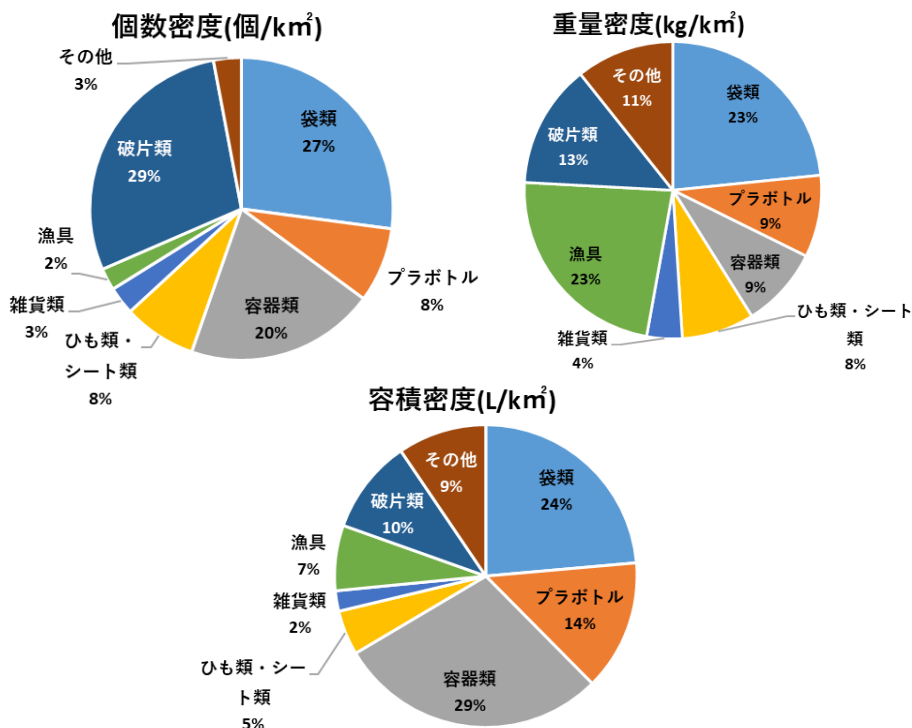


図 III. 2. 6-7 プラスチック類の密度（燧灘（西））

4) 賞味（消費）期限及び言語表記

①賞味（消費）期限

回収されたごみの品目ごとの賞味(消費)期限表記を以下の表 III.2.6-6、図 III.2.6-8 に示す。また、回収されたごみの状態は、図 III.2.6-9 に示す。

全品目で2026年、2025年と言った直近のものが多く確認され、アルミの飲料缶では幅広い年代のものが確認された。最も古いものは2014年のアルミのお菓子の袋であった。

表 III.2.6-6 賞味（消費）期限（燧灘（西））

品目	2027	2026	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2014	合計
スチール製飲料用缶	-	53	19	6	4	3	-	3	-	-	-	-	-	88
アルミの飲料缶	1	20	26	9	9	8	5	3	1	1	1	-	-	84
飲料用（ペットボトル）≤600ml	1	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
食品の容器	-	-	2	1	4	-	-	-	-	-	-	1	-	8
お菓子の袋	1	6	13	-	-	2	-	1	-	-	-	-	1	24
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	2	14	34	2	4	3	2	1	1	-	-	-	-	63
合計	5	94	98	19	21	16	7	8	2	1	1	1	1	274

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

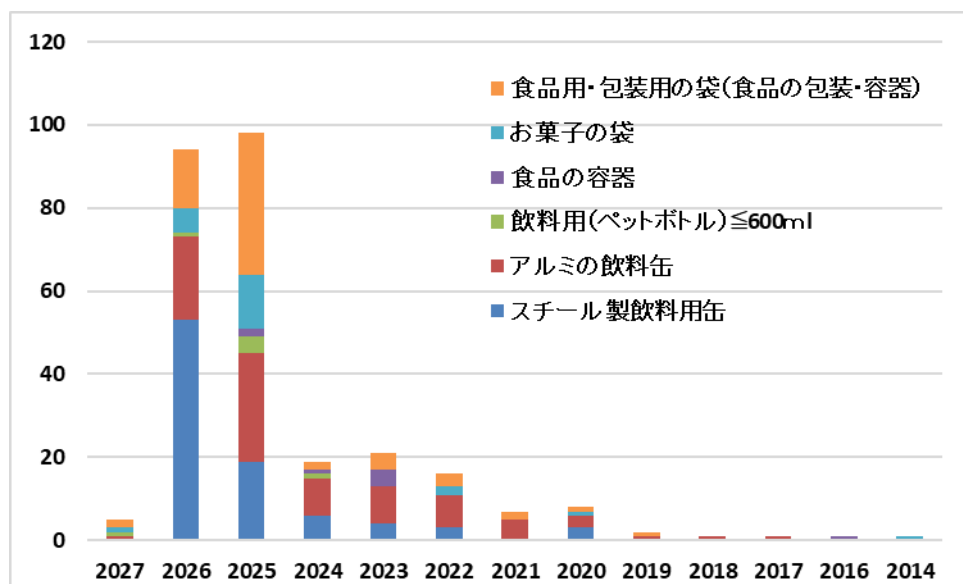


図 III.2.6-8 賞味（消費）期限（燧灘（西））



図 III.2.6-9 海底ごみの状態（燧灘（西））

②食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記

燧灘（西）で回収されたごみのうち、表記された言語、バーコードの判別結果は表 III. 2. 6-7、図 III. 2. 6-10 に示す。回収されたごみの状態は図 III. 2. 6-11 に示す。

燧灘（西）ではおおむね日本語表記であったが、中国語表記が 8 個、韓国語表記が 5 個、インドネシア表記が 1 個確認された。

表 III. 2. 6-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（燧灘（西））

品目	日本語	韓国語	中国語	インドネシア	合計
スチール製飲料用缶	116	-	-	-	116
アルミの飲料缶	107	3	-	-	110
食品用缶	10	1	-	-	11
飲料用（ペットボトル）600<V<2L	2	-	-	-	2
ボトルのキャップ、ふた	1	-	-	-	1
飲料用（ペットボトル）2L≤	12	-	-	-	12
飲料用（ペットボトル）≤600ml	43	-	1	-	44
食品の容器	8	-	-	-	8
お菓子の袋	29	1	1	1	32
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	78	-	6	-	84
釣りえさ袋・容器	10	-	-	-	10
合計	416	5	8	1	430

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

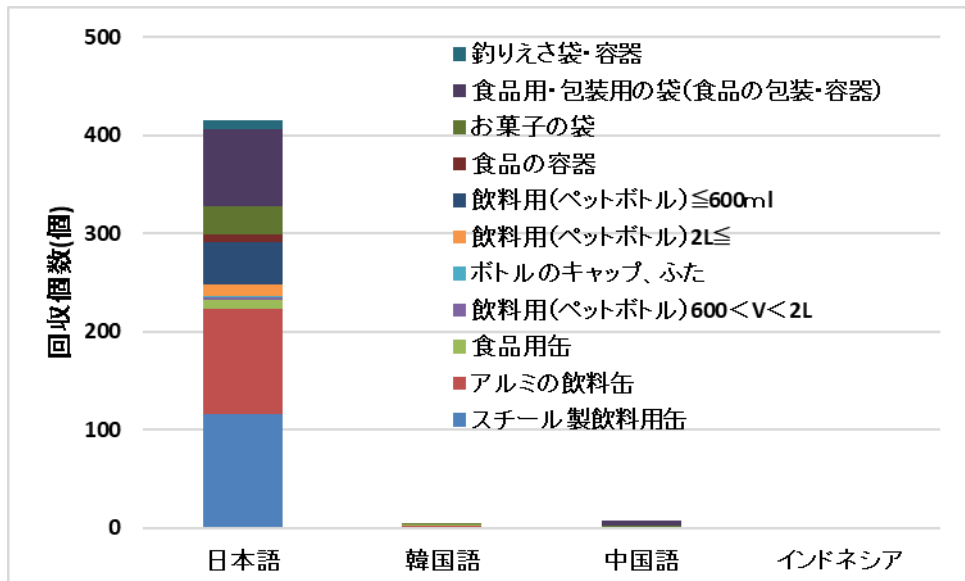


図 III. 2. 6-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（燧灘（西））



図 III. 2. 6-11 海底ごみの表記状態（燧灘（西））

(3) 過年度調査結果との比較

燧灘（西）では平成26年度に海底ごみ現地調査を愛媛県漁協桜井支所にて本年度同様実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III.2.6-8、図 III.2.6-12 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した結果を表 III.2.6-9 に図 III.2.6-13 に示す。なお、漁業協同組合が異なるため、漁具と操業海域が同一ではない点には留意が必要である。

ごみの総量は本年度が少なかった。プラスチックの割合も本年度が少ない結果となった。プラスチック類では本年度では袋類や破片類の割合が少なく、容器類や漁具類は多かった。

表 III.2.6-8 海底ごみの分類別結果比較(燧灘(西))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
H26_個数密度	1,136.4	-	46.5	13.1	137.8	14.9	12.4	-	-	2.9	1,364.0
組成(%)	83.3%	-	3.4%	1.0%	10.1%	1.1%	0.9%	-	-	0.2%	100%
R7_個数密度	263.6	-	57.9	23.0	111.0	8.9	12.5	1.6	0.3	0.3	479.1
組成(%)	55.0%	-	12.1%	4.8%	23.2%	1.9%	2.6%	0.3%	0.1%	0.1%	100%
H26_重量密度	49.4	-	8.7	2.7	11.9	1.8	5.6	-	-	0.3	80.5
組成(%)	61.4%	-	10.8%	3.4%	14.8%	2.3%	7.0%	-	-	0.4%	100%
R7_重量密度	8.6	-	7.3	5.0	11.0	0.4	1.5	0.1	1.1	0.0	35.1
組成(%)	24.6%	-	20.9%	14.2%	31.3%	1.2%	4.4%	0.4%	3.2%	0.0%	100%
H26_容積密度	435.1	-	17.6	7.6	67.6	7.6	32.3	-	-	2.9	570.9
組成(%)	76.2%	-	3.1%	1.3%	11.8%	1.3%	5.7%	-	-	0.5%	100%
R7_容積密度	150.3	-	16.7	15.7	89.9	1.9	22.5	0.4	8.0	0.0	305.4
組成(%)	49.2%	-	5.5%	5.1%	29.4%	0.6%	7.4%	0.1%	2.6%	0.0%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

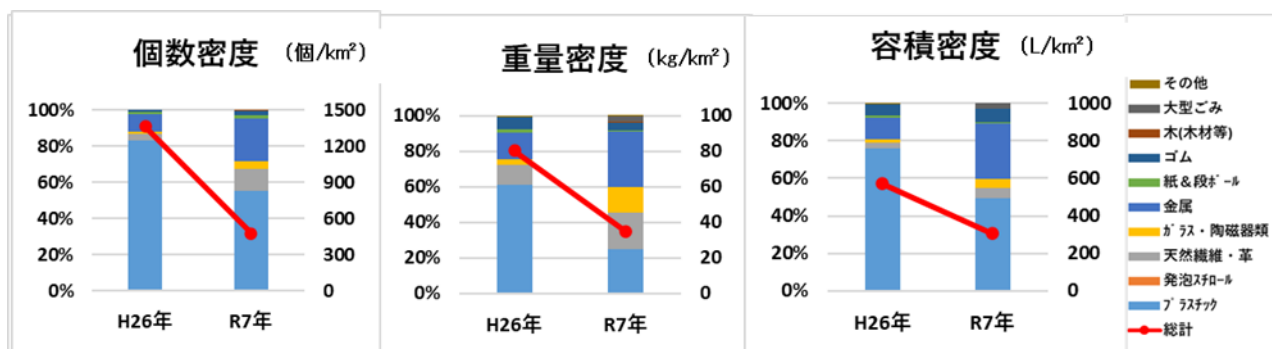


図 III.2.6-12 海底ごみの分類別結果比較(燧灘(西))

表 III. 2. 6-9 プラスチックごみの分類結果比較(燧灘 (西))

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
H26_個数密度	344.0	67.6	102.9	25.1	9.8	15.3	571.6	-	1,136.4
組成(%)	30.3%	6.0%	9.1%	2.2%	0.9%	1.3%	50.3%	-	100%
R7_個数密度	71.5	21.1	53.3	20.6	7.8	6.2	75.2	7.8	263.6
組成(%)	27.1%	8.0%	20.2%	7.8%	3.0%	2.4%	28.5%	3.0%	100%
H26_重量密度	17.1	6.1	2.5	6.7	0.6	2.2	14.4	-	49.6
組成(%)	34.5%	12.2%	5.1%	13.5%	1.2%	4.4%	29.0%	-	100%
R7_重量密度	2.0	0.8	0.8	0.7	0.3	2.0	1.2	0.9	8.6
組成(%)	23.4%	8.9%	8.8%	7.9%	3.9%	23.0%	13.5%	10.7%	100%
H26_容積密度	114.7	75.2	70.1	41.5	8.5	13.5	111.7	-	435.1
組成(%)	26.4%	17.3%	16.1%	9.5%	2.0%	3.1%	25.7%	-	100%
R7_容積密度	35.5	21.0	43.5	7.2	3.3	10.5	15.1	14.3	150.3
組成(%)	23.6%	14.0%	28.9%	4.8%	2.2%	7.0%	10.1%	9.5%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

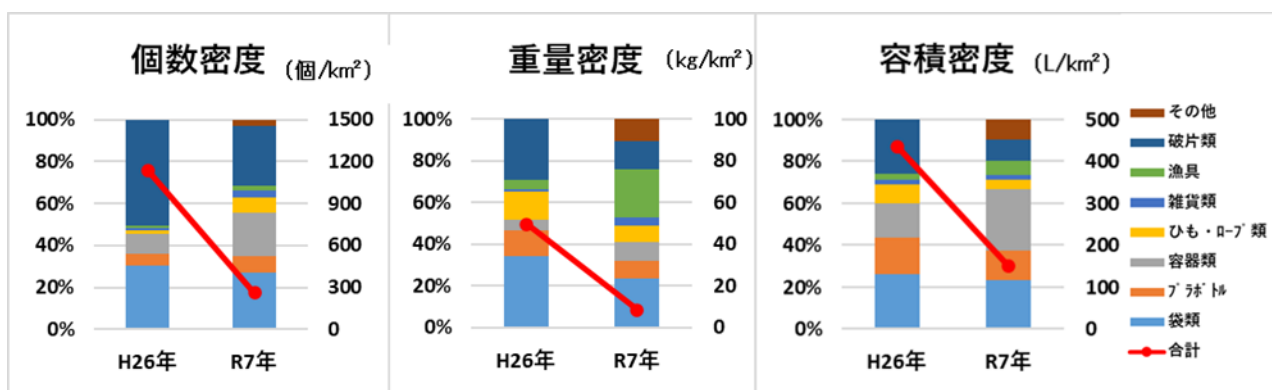


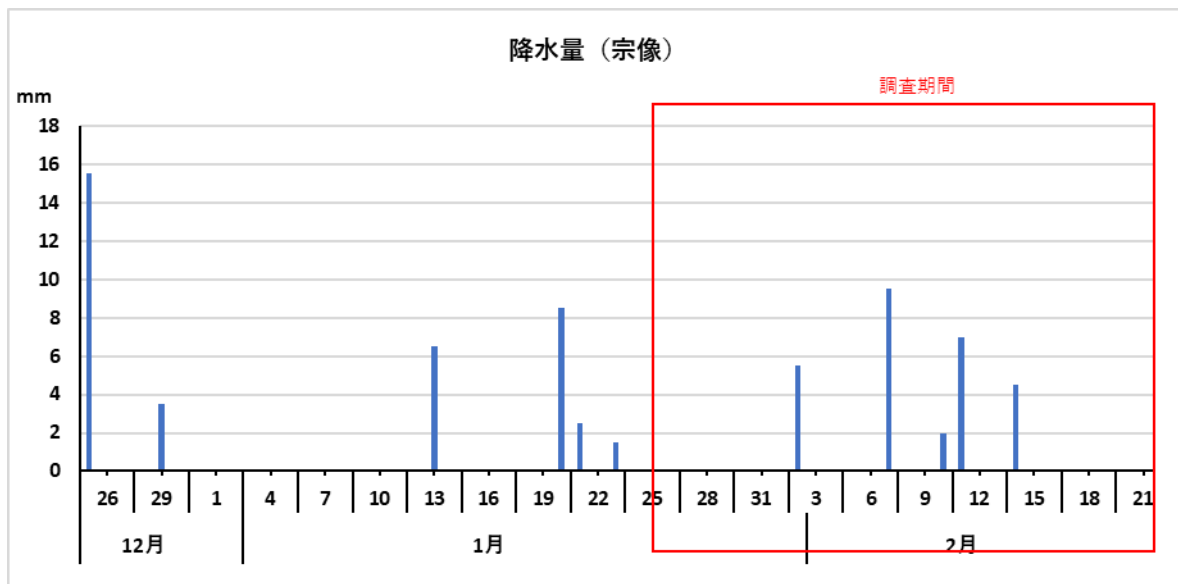
図 III. 2. 6-13 プラスチックごみの分類結果比較(燧灘 (西))

III. 2. 7 宗像市沿岸域

(1) 現地の状況

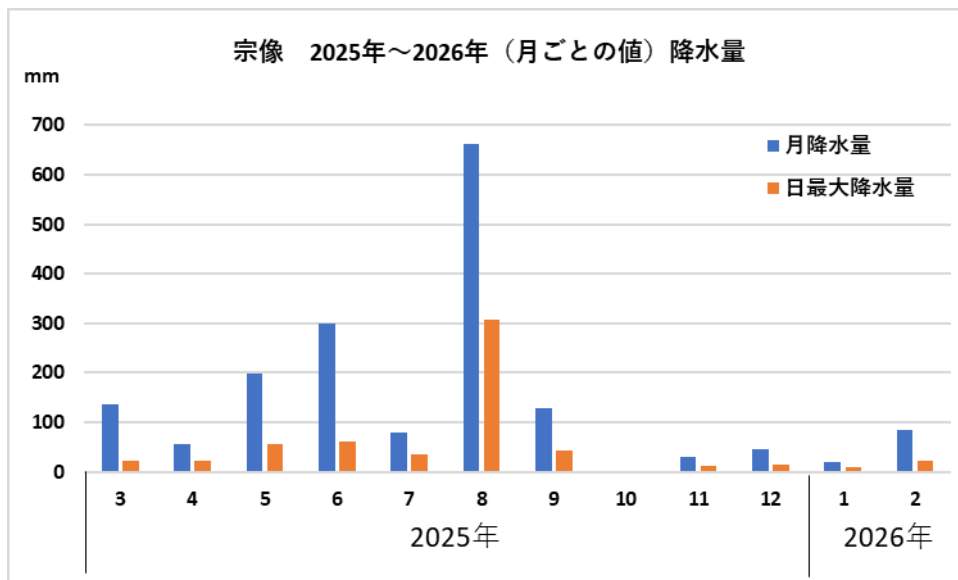
1) 降水量

気象庁のホームページより確認した、調査期間 1 ヶ月前からの降水量を図 III. 2. 7-1 に、令和 7 年 3 月～令和 8 年 2 月における月別降水量を 図 III. 2. 7-2 に示す。宗像市沿岸域の場合は、宗像観測所のデータを用いた。



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 (気象庁 HP : <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月11日閲覧) より作成

図 III. 2. 7-1 調査期間の降水量 (宗像市沿岸域 : 宗像)



出典：「各種データ・資料 過去の気象データ」
 (気象庁 HP : <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture00.php> 2026年3月11日閲覧)

図 III. 2. 7-2 月別降水量 (宗像市沿岸域 : 宗像_令和 7 年 3 月～令和 8 年 2 月)

2) 漁業情報等

宗像市漁業協同組合大島支所における漁業情報について聞き取りを行った結果は、表 2.7-1 に示す。

表 III. 2. 7-1 漁業情報及びごみの回収情報（宗像市沿岸域）

漁期	1月15日頃～3月17日までの約2か月（刺し網）
操業状況	<ul style="list-style-type: none"> ・固定式刺し網の対象魚種は、雑魚・カレイ・ヒラメ。 ・大島沖10km付近の水深60～70mの海域で操業（D区域）。 ・その他にフグはえ縄、巻網、イカ釣等を実施している。
海洋ごみの回収状況	・漁業者が回収したごみは市指定の袋に入れ、一般ごみとして焼却処分。

(2) 調査状況等

宗像市沖の固定刺し網漁が操業可能な漁場（D区域）においてカレイ刺し網を一昼夜敷設し、揚網時に網に絡んだごみを回収した。固定式底刺し網漁に従事する4隻で、24隻日の調査を行った。

操業範囲は図 III. 2. 7-4 に示す。回収された海底ごみは、漁業者の船溜まり背後の空きスペースに集積された。

調査で使用された船舶・漁具等の仕様及び写真は、表 III. 2. 7-2 及び図 III. 2. 7-3 に示す。

表 III. 2. 7-2 漁具等の仕様（宗像市沿岸域）

底刺し網漁業	カレイ用3枚網
網地・網目	外網20寸、内（中）網2.8寸
網丈	150cm
敷設距離	48.1km/24隻日
敷設面積	0.072 km ²

※換算掃海面積は「敷設距離×網丈」より算出している。



図 III. 2. 7-3 使用漁具等（宗像市沿岸域）

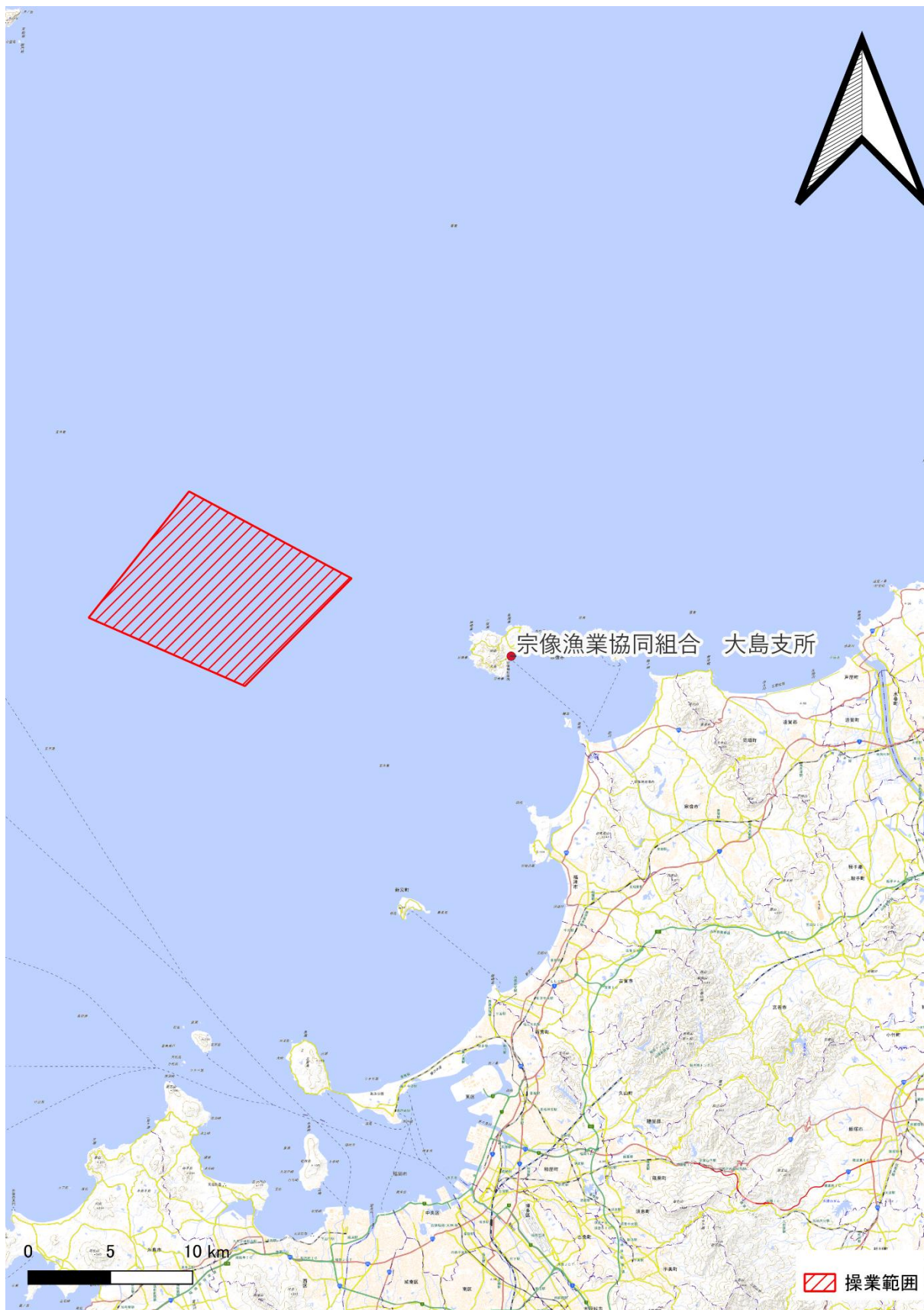


図 III. 2. 7-4 作業範囲(宗像市沿岸域)

地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して作成

(2) 調査結果

1) 海底ごみの状況等

回収された海底ごみの状況等を図 III. 2. 7-5 に示す。







	
<p>ごみの回収状況</p>	<p>回収ごみ全体量</p>
	
<p>アナゴ筒</p>	<p>お菓子の袋</p>
	
<p>靴</p>	<p>日本語以外の言語表記のある食品包装</p>

図 III. 2. 7-5 回収・分別状況（宗像市沿岸域）

2) 個数・重量・容積(実数)

回収されたごみの個数、重量及び容積の計測結果は、表 III. 2. 7-3 及び図 III. 2. 7-6 に示す。組成比の大きいものから順に、濃い橙色で色別した。

個数、重量、容積のすべてにおいて、プラスチックが9割近くを占めた。

表 III. 2. 7-3 海底ごみの実測結果 (宗像市沿岸域)

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	930	1	2	-	19	2	9	-	-	-	963
割合(%)	96.6%	0.1%	0.2%	-	2.0%	0.2%	0.9%	-	-	-	100%
重量(kg)	12.8	0.0	0.0	-	1.4	0.1	0.3	-	-	-	14.7
割合(%)	87.3%	0.0%	0.3%	-	9.6%	0.9%	2.0%	-	-	-	100%
容積(L)	472.4	0.0	0.5	-	36.1	0.5	5.7	-	-	-	515.2
割合(%)	91.7%	0.0%	0.1%	-	7.0%	0.1%	1.1%	-	-	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

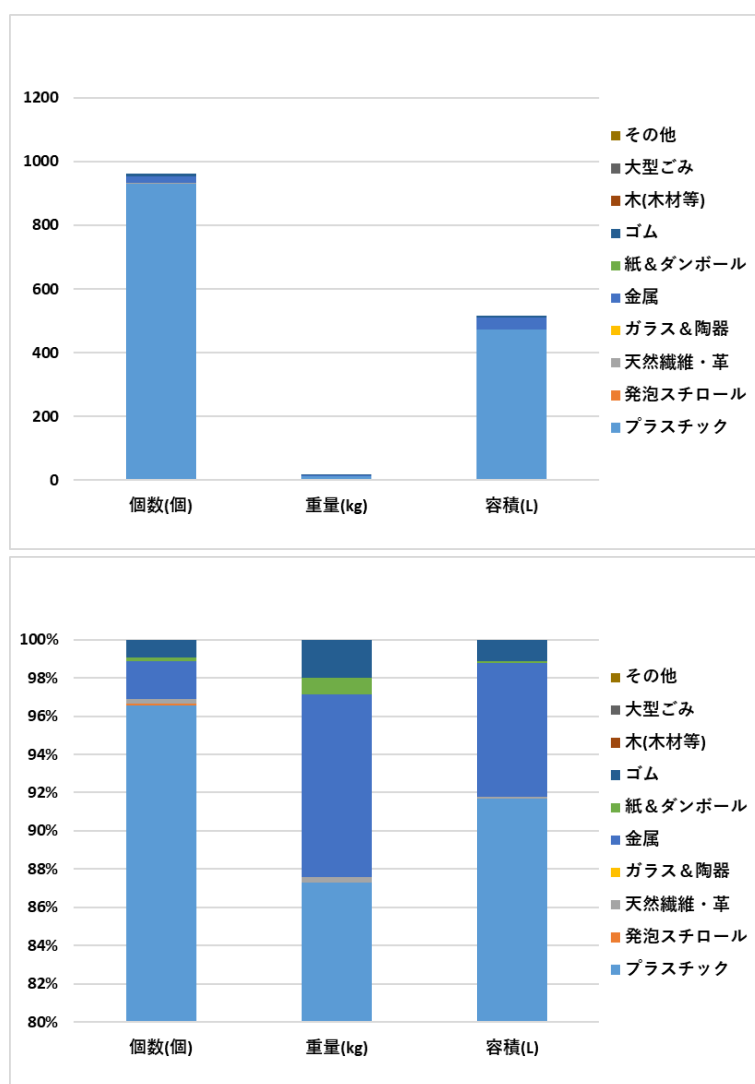


図 III. 2. 7-6 海底ごみの実測結果 (上段：計測値、下段：割合)

2) 個数・重量・容積(密度)

回収されたごみの計測結果を基に、密度（計測結果/換算掃海面積）を算出した。結果は表 III. 2. 7-4 に示す。

底びき網を使用した場合は、曳網距離と網口（又は桁幅）から掃海面積を推計し、全体量とは別に密度を換算して海底ごみの目安としている。固定式刺し網では便宜上、敷設距離と網丈か敷設面積を算出して、密度換算を行った。

また、「平成 29 年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書」（環境省、平成 30 年）に掲載されている分類表を参考に、プラスチックを用途別中分類に分けて整理した結果は、表 III. 2. 7-5、図 III. 2. 7-7 に示す。

個数密度では「破片類」が、重量密度及び容積密度では「袋類」がプラスチックの中でも多くを占めた。

表 III. 2. 7-4 海底ごみの密度（宗像市沿岸域）

	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス&陶器	金属	紙&ダンボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	合計
個数(個)	12902.5	13.9	27.7	-	263.6	27.7	124.9	-	-	-	13360.3
割合(%)	96.6%	0.1%	0.2%	-	2.0%	0.2%	0.9%	-	-	-	100%
重量(kg)	178.0	0.0	0.6	-	19.6	1.8	4.0	-	-	-	203.9
割合(%)	87.3%	0.0%	0.3%	-	9.6%	0.9%	2.0%	-	-	-	100%
容積(L)	6554.3	0.5	6.9	-	500.3	6.9	79.0	-	-	-	7148.0
割合(%)	91.7%	0.0%	0.1%	-	7.0%	0.1%	1.1%	-	-	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

表 III. 2. 7-5 プラスチック類の密度（宗像市沿岸域）

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・シート類	雑貨類	漁具	破片類	その他
個数密度(個/km ²)	5396.9	194.2	735.3	1165.4	263.6	180.4	4633.8	333.0
重量密度(kg/km ²)	64.2	8.6	8.4	13.3	1.9	41.8	19.6	20.1
容積密度(L/km ²)	2996.7	278.4	562.1	435.1	168.8	551.0	978.9	583.4

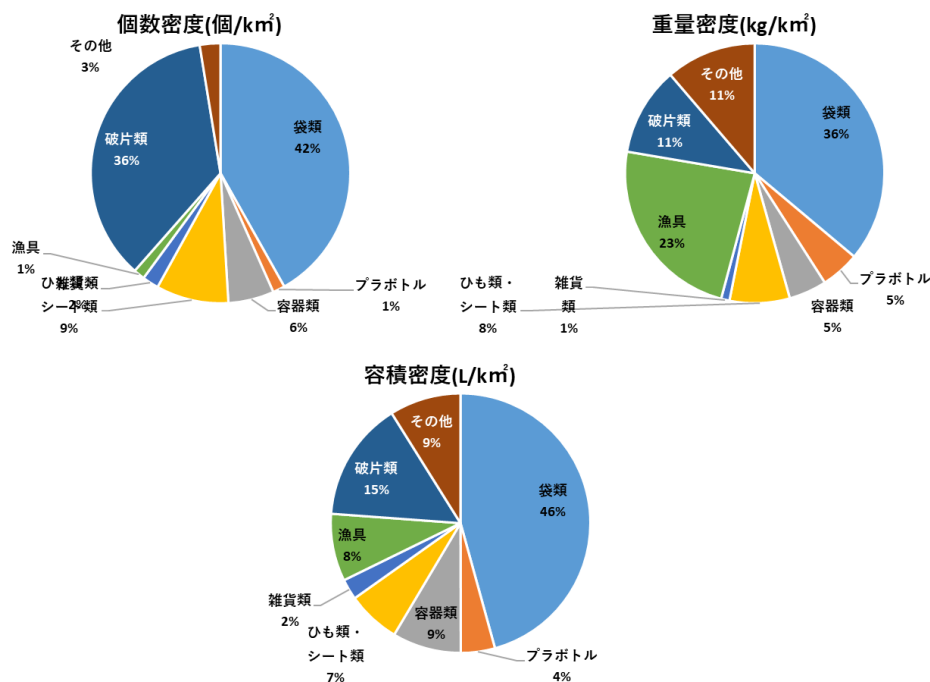


図 III. 2. 7-7 プラスチック類の密度（宗像市沿岸域）

4) 賞味（消費）期限及び言語表記

①賞味（消費）期限

アルミ製飲料缶とスチール製飲料缶に分類して、種類、年代ごとの数量は、表 III. 2. 7-6 及び図 III. 2. 7-8 に示す。また、回収された飲料缶の状態は、図 III. 2. 7-9 に示す。

2026 年、2025 年と最近の物が多く、最も古いものは 2017 年のアルミの飲料缶であった。

表 III. 2. 7-6 飲料缶の賞味（消費）期限（宗像市沿岸域）

	2026	2025	2024	2017	合計
アルミの飲料缶	-	-	-	1	1
その他の袋	-	-	1	-	1
その他の袋	-	-	1	-	1
お菓子の袋	1	4	-	-	5
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	6	9	1	-	16
合計	7	13	3	1	24

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

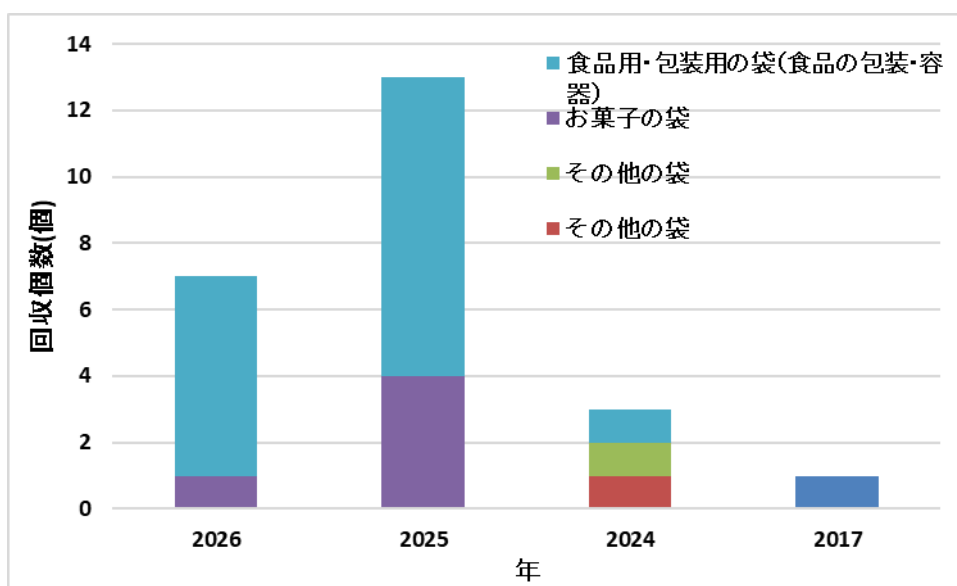


図 III. 2. 7-8 賞味（消費）期限（宗像市沿岸域）

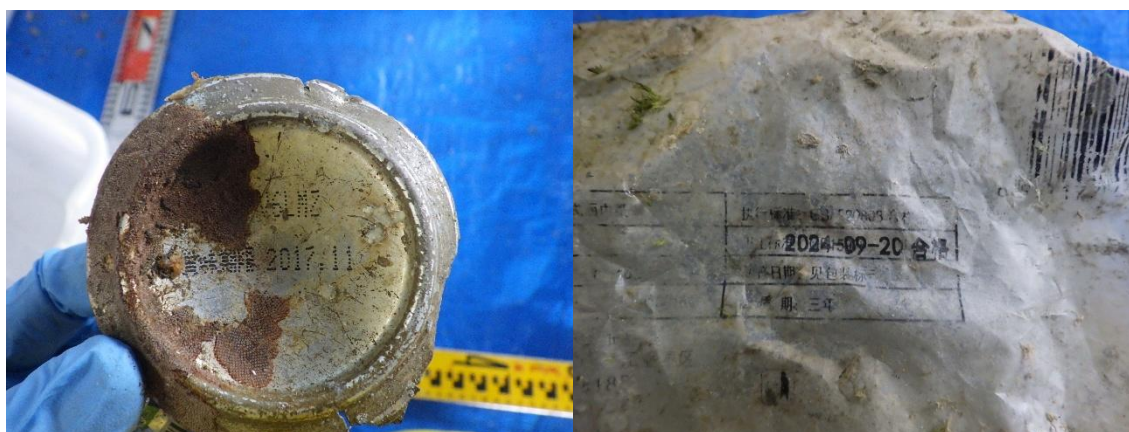


図 III. 2. 7-9 海底ごみの状態(宗像市沿岸域)

③食品容器・包装・ペットボトル等の言語表記

文字表記が確認できる場合は、表記された言語を判別した。品目ごとに数量を記録した結果を表 III. 2. 7-7 及び図 III. 2. 7-10 に示す。また、回収されたごみの言語表記の状態は、図 III. 2. 7-11 に示す。

回収されたごみの言語表記は、日本語表記が 63 個と多かったが、中国語表記（23 個）や韓国語表記（16 個）のごみも確認された。

表 III. 2. 7-7 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（宗像市沿岸域）

品目	日本語	中国	韓国	フィリピン	インド	英語	台湾	合計
アルミの飲料缶	3	-	-	-	-	-	-	3
その他の袋	6	8	9	1	-	-	1	25
釣りえさ袋・容器	5	-	-	-	-	-	-	5
その他の袋	6	8	9	1	-	-	1	25
お菓子の袋	15	-	5	-	1	-	-	21
スーパー、コンビニの袋	3	-	-	-	-	-	-	3
食品用・包装用の袋（食品の包装・容器）	22	33	16	-	-	1	-	72
飲料用（ペットボトル）2L≤	-	1	-	-	-	-	-	1
飲料用紙パック	-	-	1	-	-	-	-	1
合計	60	50	40	2	1	1	2	156

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

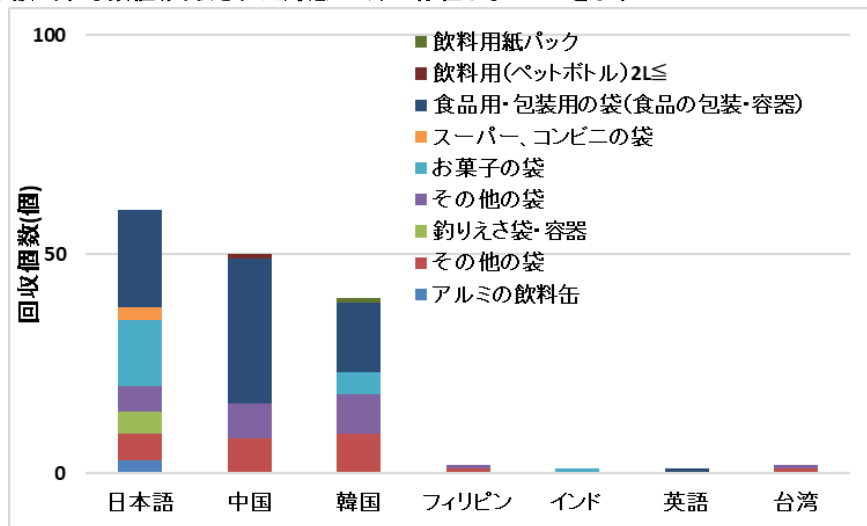


図 III. 2. 7-10 食品容器・包装、ペットボトル等の言語表記（宗像市沿岸域）

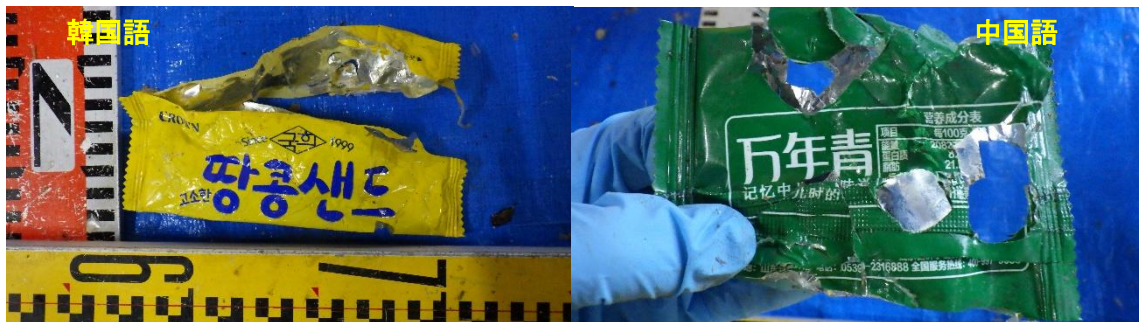


図 III. 2. 7-11 海底ごみの言語表記状況（宗像市沿岸域）

(3) 過年度調査結果との比較

宗像市沿岸域では令和2、3年度に海底ごみ現地調査を宗像漁業協同組合大島支所、鐘崎支所にて本年度同様実施している。過年度の調査結果と本年度の調査結果の比較を行った。海底ごみ全体で比較した結果を表 III. 2. 7-8、図 III. 2. 7-12 に示す。プラスチックの用途別中分類で比較した表を表 III. 2. 7-9 に図 III. 2. 7-13 に示す。なお、過年度は大島支所と鐘崎本所の2か所で実施しているが、操業場所、漁具は2か所で同一なため、2箇所での計測結果を合計して記載した。

能動的に曳網する底びき網と異なり、底刺し網漁は受動的な漁法である。密度は、計測結果（実数）を敷設距離と網丈から算出した面積で除算して推計した。

密度換算のため大きな影響はないが、資源保護・管理のため、令和7年1月より福岡県漁業調整規則が変更され、網長が過年度3000mから2000mへと変更され、替え網禁止が廃止されたことで揚網後にそのまま再投網が可能となり操業状況も一部変化している。ごみの総量は本年度は過年度に比べてやや少なく、プラスチック類の割合も少ない結果となった。この一因として操業時の漁場環境が図 III. 2. 7-14 に示すように通常と異なったためと考えられる。漁場にプラスチック類では本年度では袋類や破片類の割合が少なく、容器類や漁具類は多かった。

表 III. 2. 7-8 海底ごみの分類別結果比較(宗像市沿岸域)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
R2_個数密度	14876.3	13.2	50.0	2.6	115.8	165.8	152.6	-	152.6	-	15528.9
組成(%)	96%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	-	1%	-	100%
R3_個数密度	17313.8	18.5	70.4	11.1	88.9	285.2	103.7	3.7	103.7	-	17999.1
組成(%)	96%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	0%	1%	-	100%
R7_個数密度	12902.5	13.9	27.7	-	263.6	27.7	124.9	-	124.9	-	13485.2
組成(%)	96%	0%	0%	-	2%	0%	1%	-	1%	-	100%
R2_重量密度	265.5	0.0	6.9	0.1	1.9	9.0	10.4	-	10.4	-	304.3
組成(%)	87%	0%	2%	0%	1%	3%	3%	-	3%	-	100%
R3_重量密度	361.0	0.3	18.8	1.5	1.8	10.7	6.8	1.7	6.8	-	409.4
組成(%)	88%	0%	5%	0%	0%	3%	2%	0%	2%	-	100%
R7_重量密度	178.0	0.0	0.6	-	19.6	1.8	4.0	-	4.0	-	207.9
組成(%)	86%	0%	0%	-	9%	1%	2%	-	2%	-	100%
R2_容積密度	5831.2	3.3	42.2	0.5	58.1	81.8	133.5	-	133.5	-	6284.3
組成(%)	93%	0%	1%	0%	1%	1%	2%	-	2%	-	100%
R3_容積密度	6480.6	11.5	131.2	2.9	27.0	137.0	68.1	1.8	68.1	-	6928.1
組成(%)	94%	0%	2%	0%	0%	2%	1%	0%	1%	-	100%
R7_容積密度	6554.3	0.5	6.9	-	500.3	6.9	79.0	-	79.0	-	7227.1
組成(%)	91%	0%	0%	-	7%	0%	1%	-	1%	-	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

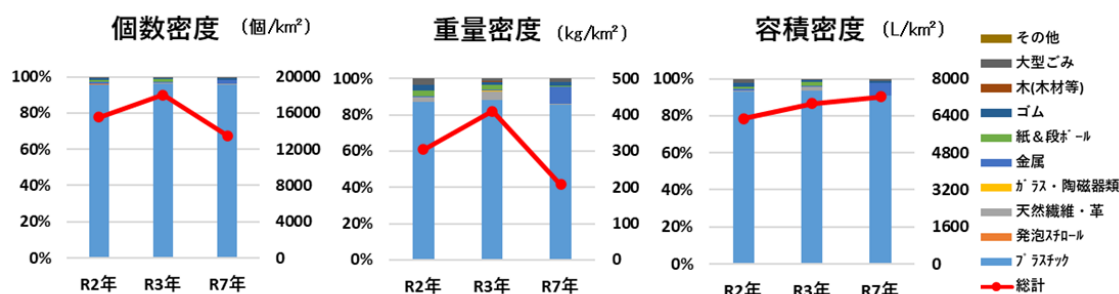


図 III. 2. 7-12 海底ごみの分類別結果比較(宗像市沿岸域)

表 III. 2. 7-9 プラスチックごみの分類別結果比較(宗像市沿岸域)

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

項目	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
R2_個数密度	4747.4	236.8	939.5	773.7	-	184.2	7534.2	473.7	14889.5
組成(%)	31.9%	1.6%	6.3%	5.2%	-	1.2%	50.6%	3.2%	100%
R3_個数密度	6167.6	196.3	1015.0	896.4	-	307.5	8364.3	385.2	17332.3
組成(%)	35.6%	1.1%	5.9%	5.2%	-	1.8%	48.3%	2.2%	100%
R7_個数密度	5396.9	194.2	735.3	1165.4	263.6	180.4	4633.8	333.0	12902.5
組成(%)	41.8%	1.5%	5.7%	9.0%	2.0%	1.4%	35.9%	2.6%	100%
R2_重量密度	94.6	10.5	7.9	39.1	-	29.9	63.7	19.8	265.5
組成(%)	35.6%	4.0%	3.0%	14.7%	-	11.3%	24.0%	7.5%	100%
R3_重量密度	70.1	19.2	15.7	106.4	-	18.7	92.1	39.2	361.3
組成(%)	19.4%	5.3%	4.4%	29.4%	-	5.2%	25.5%	10.8%	100%
R7_重量密度	64.2	8.6	8.4	13.3	1.9	41.8	19.6	20.1	178.0
組成(%)	36.1%	4.8%	4.7%	7.5%	1.0%	23.5%	11.0%	11.3%	100%
R2_容積密度	2163.4	436.5	402.6	413.4	-	623.3	1300.3	495.0	5834.5
組成(%)	37.1%	7.5%	6.9%	7.1%	-	10.7%	22.3%	8.5%	100%
R3_容積密度	1469.3	344.4	606.1	1460.8	-	307.2	1424.5	880.0	6492.1
組成(%)	22.6%	5.3%	9.3%	22.5%	-	4.7%	21.9%	13.6%	100%
R7_容積密度	2996.7	278.4	562.1	435.1	168.8	551.0	978.9	583.4	6554.3
組成(%)	45.7%	4.2%	8.6%	6.6%	2.6%	8.4%	14.9%	8.9%	100%

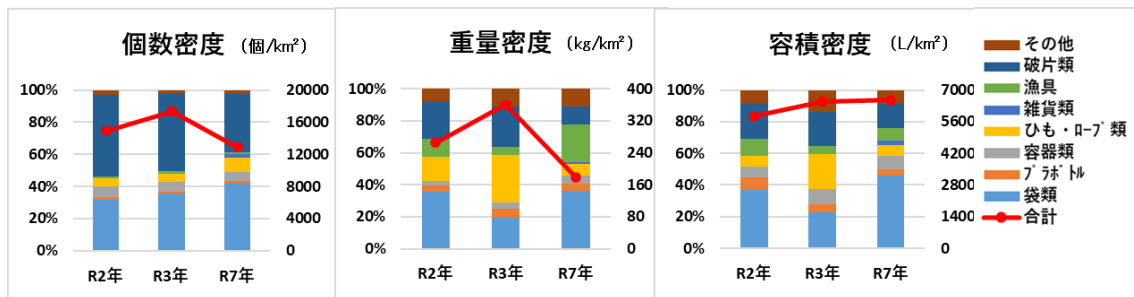


図 III. 2. 7-13 プラスチックごみの分類別結果比較(宗像市沿岸域)



図 III. 2. 7-14 アメフラシの卵塊混獲状況 (宗像漁協大島支所提供)

III. 2. 8 現地調査結果の整理

海底ごみを回収する漁具漁法や操業日数等が異なるため、単純に結果を比較することはできないが、調査を実施した7海域の海底ごみの個数、重量及び容積の計測結果並びにそれらの密度を整理した。また、備後灘では同一海域で2種の漁具を用いて、宗像市沿岸域では、回収されたごみを船、日ごとに集積して調査を行ったため、それぞれの結果も整理した。

(1) 個数、重量及び容積(実数)

調査海域において、回収したごみの計測結果は、表 III. 2. 8-1 及び図 III. 2. 8-1 に示す。なお、海域により調査日数が異なったため、合計値を稼働隻数で除し、隻日平均を算出した。

隻日平均の個数は、備後灘の2種が最も多く、次いで備讃瀬戸(水島灘)、燧灘(西)であり、備讃瀬戸(西)では少ない結果となった。

隻日平均の重量は、備後灘の2種が最も大きく、次いで燧灘(西)となった。備後灘の2種では「その他」での大きなごみ、燧灘(西)では金属の重量に起因した結果となった。

隻日平均の容積は、プラスチックに起因し、燧灘(西) 371. 8L と他の海域と比較して多かった。

底刺し網漁業で海底ごみの回収を行った宗像市沿岸域では、重量物のごみは少なかったが、底びき網漁業と同等又はそれ以上にプラスチックが多く回収された。

表 III. 2. 8-1 海底ごみの計測結果（実数）

計測結果：個数(個)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計	実績日	隻日平均
加賀市沿岸域	350.0	1.0	13.0	-	33.0	4.0	13.0	43.0	-	3.0	460.0	22	20.9
淡路島沿岸域	248.0	-	80.0	-	4.0	10.0	76.0	6.0	-	-	424.0	27.0	15.7
備讃瀬戸(西)	25.0	-	-	-	3.0	1.0	-	-	2.0	-	31.0	20	1.6
備讃瀬戸(水島灘)	3544.0	-	134.0	58.0	381.0	7.0	34.0	1.0	-	12.0	4171.0	20	208.6
備後灘・3種	658.0	3.0	115.0	16.0	41.0	2.0	11.0	7.0	-	2.0	855.0	18	47.5
備後灘・2種	2797.0	-	52.0	5.0	57.0	19.0	20.0	3.0	9.0	3.0	2965.0	8.0	370.6
燧灘	974.0	-	214.0	85.0	410.0	33.0	46.0	6.0	1.0	1.0	1770.0	20	88.5
宗像市沿岸域	930.0	1.0	2.0	-	19.0	2.0	9.0	-	-	-	963.0	24	40.1

計測結果：重量(kg)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計	実績日	隻日平均
加賀市沿岸域	35.1	0.1	2.4	-	24.7	0.1	3.2	45.1	-	0.8	111.5	22	5.1
淡路島沿岸域	22.2	-	11.5	-	14.5	1.3	1.8	0.3	-	-	51.7	27.0	1.9
備讃瀬戸(西)	9.2	-	-	-	0.0	0.0	-	-	8.6	-	17.9	20	0.9
備讃瀬戸(水島灘)	33.2	-	12.6	5.7	11.1	1.7	1.5	0.0	-	0.0	65.8	20	3.3
備後灘・3種	24.9	0.0	15.2	4.2	10.0	1.1	7.2	0.8	-	15.0	78.4	18	4.4
備後灘・2種	51.6	-	6.4	1.9	2.4	0.2	2.8	0.8	66.7	0.2	133.0	8.0	16.6
燧灘	31.9	-	27.1	18.4	40.6	1.5	5.7	0.5	4.1	0.0	129.7	20	6.5
宗像市沿岸域	12.8	0.0	0.0	-	1.4	0.1	0.3	-	-	-	14.7	24	0.6

計測結果：容積(L)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計	実績日	隻日平均
加賀市沿岸域	681.5	25.0	60.5	-	177.9	1.5	34.8	415.7	-	8.1	1404.9	22	63.9
淡路島沿岸域	326.9	-	56.4	-	2.0	9.2	24.5	3.1	-	-	422.1	27.0	15.6
備讃瀬戸(西)	111.1	-	-	-	1.8	0.0	-	-	108.5	-	221.4	20	11.1
備讃瀬戸(水島灘)	927.4	-	37.0	12.7	115.1	2.2	11.4	0.0	-	0.1	1105.9	20	55.3
備後灘・3種	597.6	0.9	82.3	7.8	94.7	6.1	43.4	5.8	-	396.2	1235.0	18	68.6
備後灘・2種	1583.8	-	46.2	3.4	37.8	10.7	16.6	1.2	1268.8	6.2	2974.6	8.0	371.8
燧灘	555.2	-	61.8	58.0	332.0	7.1	83.2	1.5	29.4	0.1	1128.3	20	56.4
宗像市沿岸域	472.4	0.0	0.5	-	36.1	0.5	5.7	-	-	-	515.2	24	21.5

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

※宗像市沿岸域のみそこ刺網漁業により海底ごみを回収し、その他海域では底びき網漁業で回収をした。

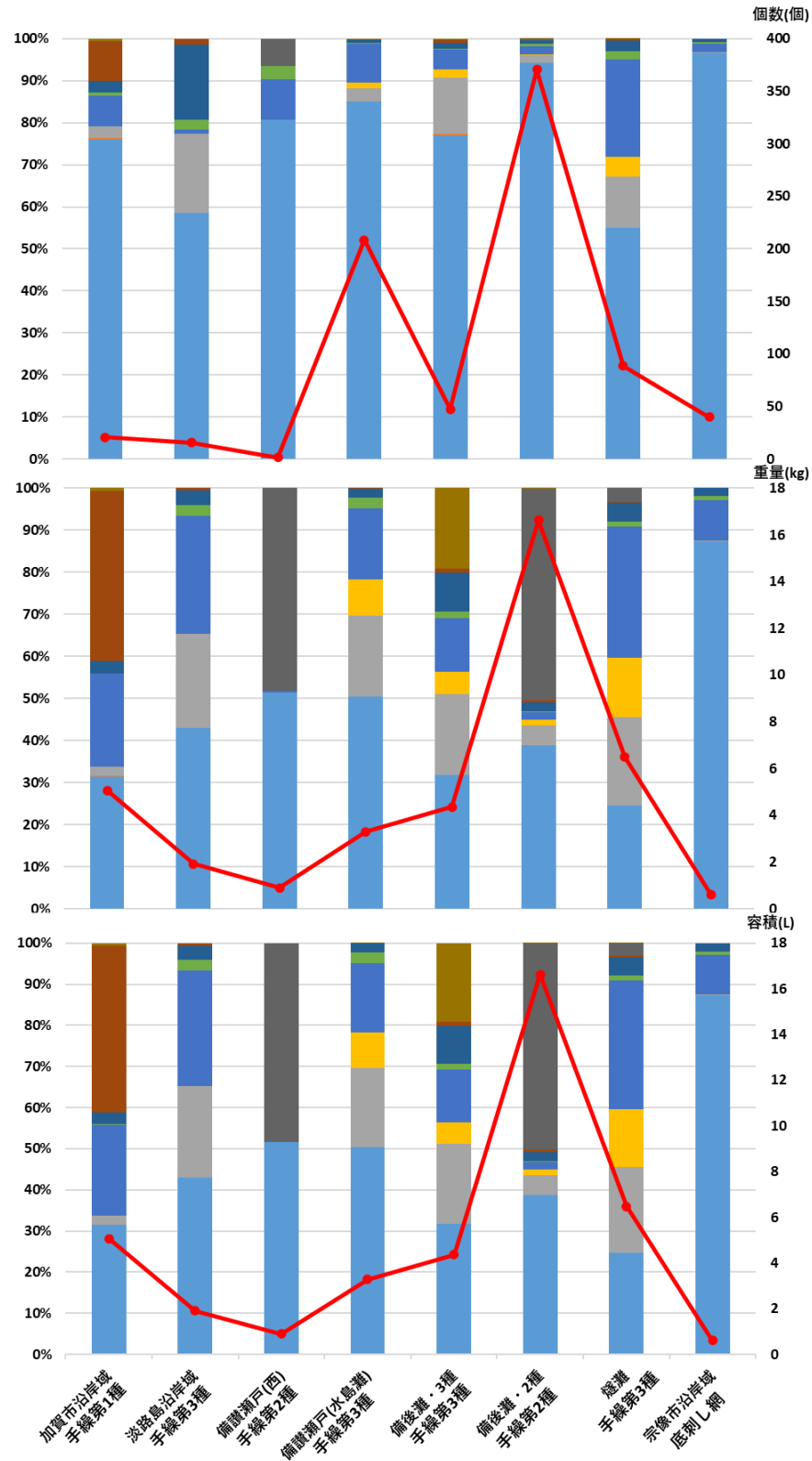
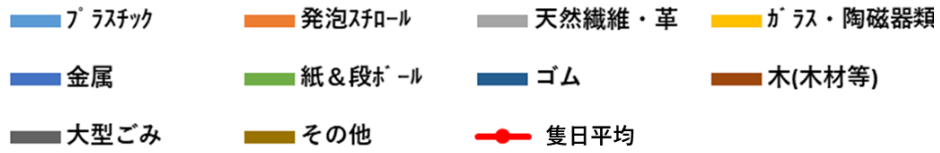


図 III. 2. 8-1 海底ごみの計測結果 (実数)

(2) 個数、重量及び容積(密度)

1) 全項目

調査海域における個数・重量・容積の密度は、表 III. 2. 8-2 及び図 III. 2. 8-2 に示す。

回収方法が異なるため、一律の比較はできないが、底びき網漁業による回収では備讃瀬戸(水島灘)、備後灘、燧灘(西)で個数、重量、容積すべてで大きい結果となった。また、固定式底刺し網漁業で実施した宗像市沿岸域でも、プラスチックを主体に、多くのごみが回収された。

表 III. 2. 8-2 海底ごみの計測結果(密度)

個数密度(個/km²)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
加賀市沿岸域	72.0	0.2	2.7	-	6.8	0.8	2.7	8.8	-	0.6	94.6
淡路島沿岸域	69.5	-	22.4	-	1.1	2.8	21.3	1.7	-	-	118.9
備讃瀬戸(西)	4.3	-	-	-	0.5	0.2	-	-	0.3	-	5.4
備讃瀬戸(水島灘)	2210.5	-	83.6	36.2	237.6	4.4	21.2	0.6	-	7.5	2601.6
備後灘・3種	500.1	2.3	87.4	12.2	31.2	1.5	8.4	5.3	-	1.5	649.9
備後灘・2種	534.0	-	9.9	1.0	10.9	3.6	3.8	0.6	1.7	0.6	566.1
燧灘	263.6	-	57.9	23.0	111.0	8.9	12.5	1.6	0.3	0.3	479.1
宗像市沿岸域	12902.5	13.9	27.7	-	263.6	27.7	124.9	-	-	-	13360.3

重量密度(kg/km²)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
加賀市沿岸域	7.2	0.0	0.5	-	5.1	0.0	0.7	9.3	-	0.2	22.9
淡路島沿岸域	6.2	-	3.2	-	4.1	0.4	0.5	0.1	-	-	14.5
備讃瀬戸(西)	1.6	-	-	-	0.0	0.0	-	-	1.5	-	3.1
備讃瀬戸(水島灘)	20.7	-	7.9	3.6	6.9	1.1	0.9	0.0	-	0.0	41.0
備後灘・3種	19.0	0.0	11.5	3.2	7.6	0.9	5.5	0.6	-	11.4	59.6
備後灘・2種	9.8	-	1.2	0.4	0.5	0.0	0.5	0.2	12.7	0.0	25.4
燧灘	8.6	-	7.3	5.0	11.0	0.4	1.5	0.1	1.1	0.0	35.1
宗像市沿岸域	178.0	0.0	0.6	-	19.6	1.8	4.0	-	-	-	203.9

容積密度(L/km²)

海域名	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
加賀市沿岸域	140.2	5.1	12.5	-	36.6	0.3	7.2	85.5	-	1.7	289.0
淡路島沿岸域	91.7	-	15.8	-	0.6	2.6	6.9	0.9	-	-	118.4
備讃瀬戸(西)	19.2	-	-	-	0.3	0.0	-	-	18.8	-	38.3
備讃瀬戸(水島灘)	578.4	-	23.1	7.9	71.8	1.4	7.1	0.0	-	0.1	689.8
備後灘・3種	454.2	0.7	62.6	5.9	72.0	4.7	33.0	4.4	-	301.1	938.7
備後灘・2種	302.4	-	8.8	0.6	7.2	2.0	3.2	0.2	242.3	1.2	568.0
燧灘	150.3	-	16.7	15.7	89.9	1.9	22.5	0.4	8.0	0.0	305.4
宗像市沿岸域	6554.3	0.5	6.9	-	500.3	6.9	79.0	-	-	-	7148.0

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

※宗像市沿岸域のみそ刺網漁業により海底ごみを回収し、その他海域では底びき網漁業で回収をした。

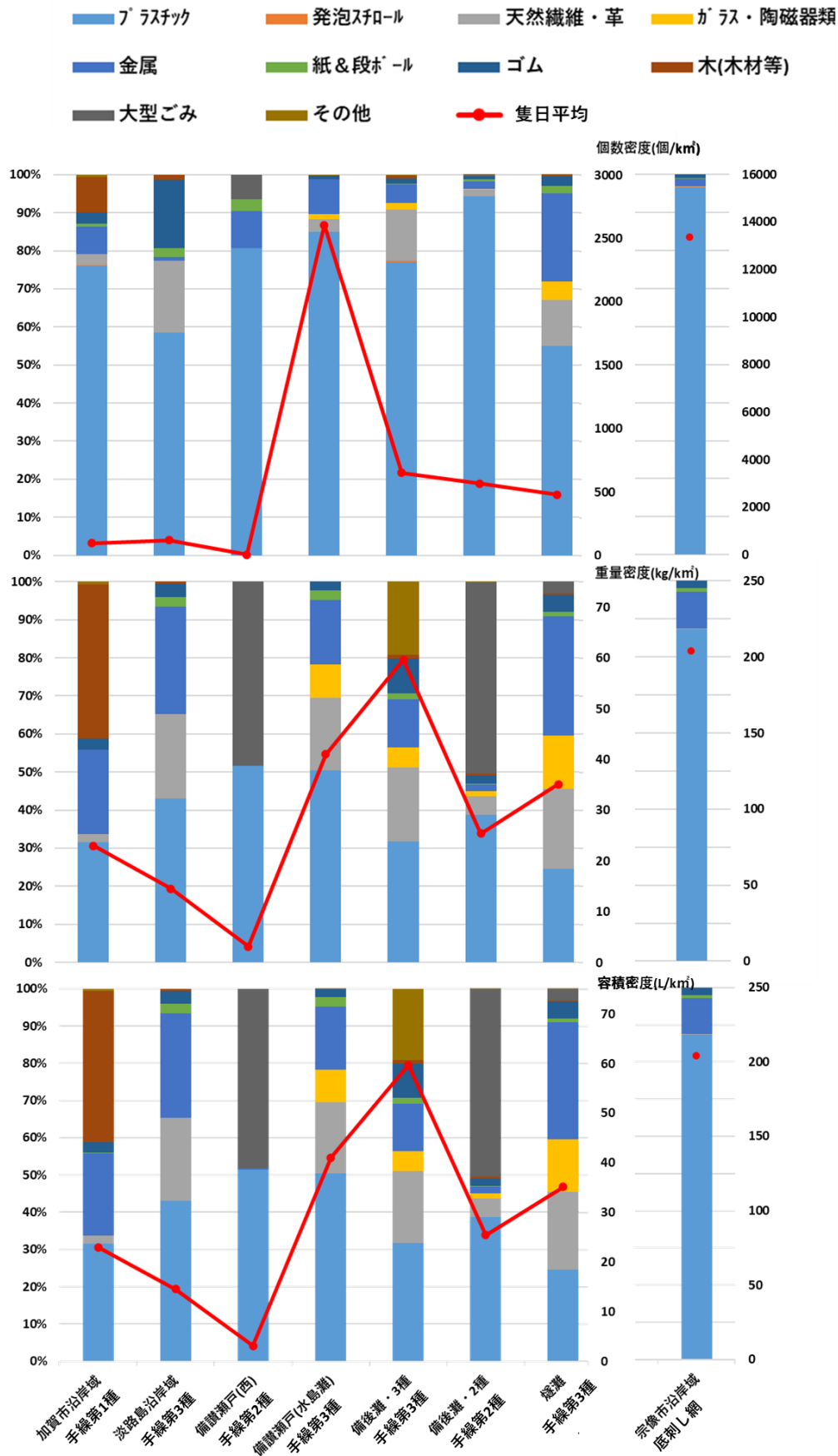


図 III. 2. 8-2 海底ごみの計測結果 (密度)

2) プラスチック類

各海域でのプラスチック密度について、細分類した結果を図 III. 2. 8-3、図 III. 2. 8-4、図 III. 2. 8-5 に示す。

個数においては、加賀市沿岸域除いた海域で破片類、袋類が多い結果となった。特に播磨灘（東）、備讃瀬戸(水島灘)、備後灘では半数近くが破片類であった。一方加賀市沿岸域ではどの分類も近い割合で回収されており、多様なごみが回収された結果となった。

重量においては、加賀市沿岸域、備讃瀬戸(水島灘)、備後灘の手繰り第3種、でひも・ロープ類が多く、宗像市沿岸域では漁具類が多く、1個当たりの重量の大きなものが多くなる傾向があった。また、個数で多く確認されている播磨灘（東）、備讃瀬戸(水島灘)での破片類や宗像市沿岸域での袋類なども重量で大きい結果となった。

容積においては、播磨灘（東）、備讃瀬戸(水島灘)、備後灘の手繰り第2種では破片類が多く、備後灘の手繰り第3種、燧灘（西）では容器類が多く、宗像市沿岸域では袋類が多く、加賀市沿岸域、備讃瀬戸（西）では雑貨類が多い結果となった。

割合でなく、密度で比較をすると、瀬戸内海では東側の播磨灘（東）、備讃瀬戸(西)では量が少なく、西側である備讃瀬戸(水島灘)、備後灘、燧灘（西）では量が多い結果となった。

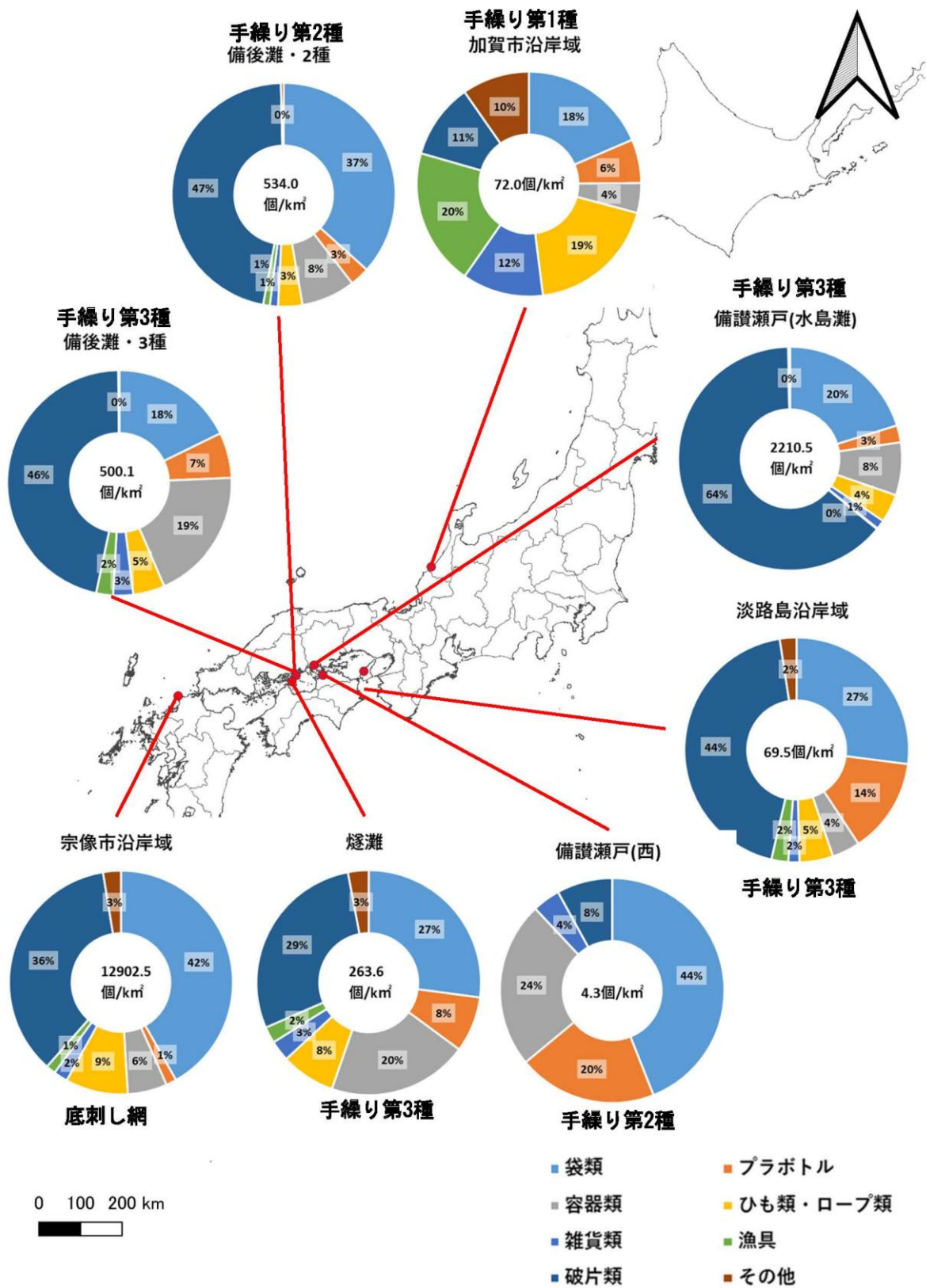


図 III.2.8-3 7 海域の個数密度比較 (プラスチック等の細分類)

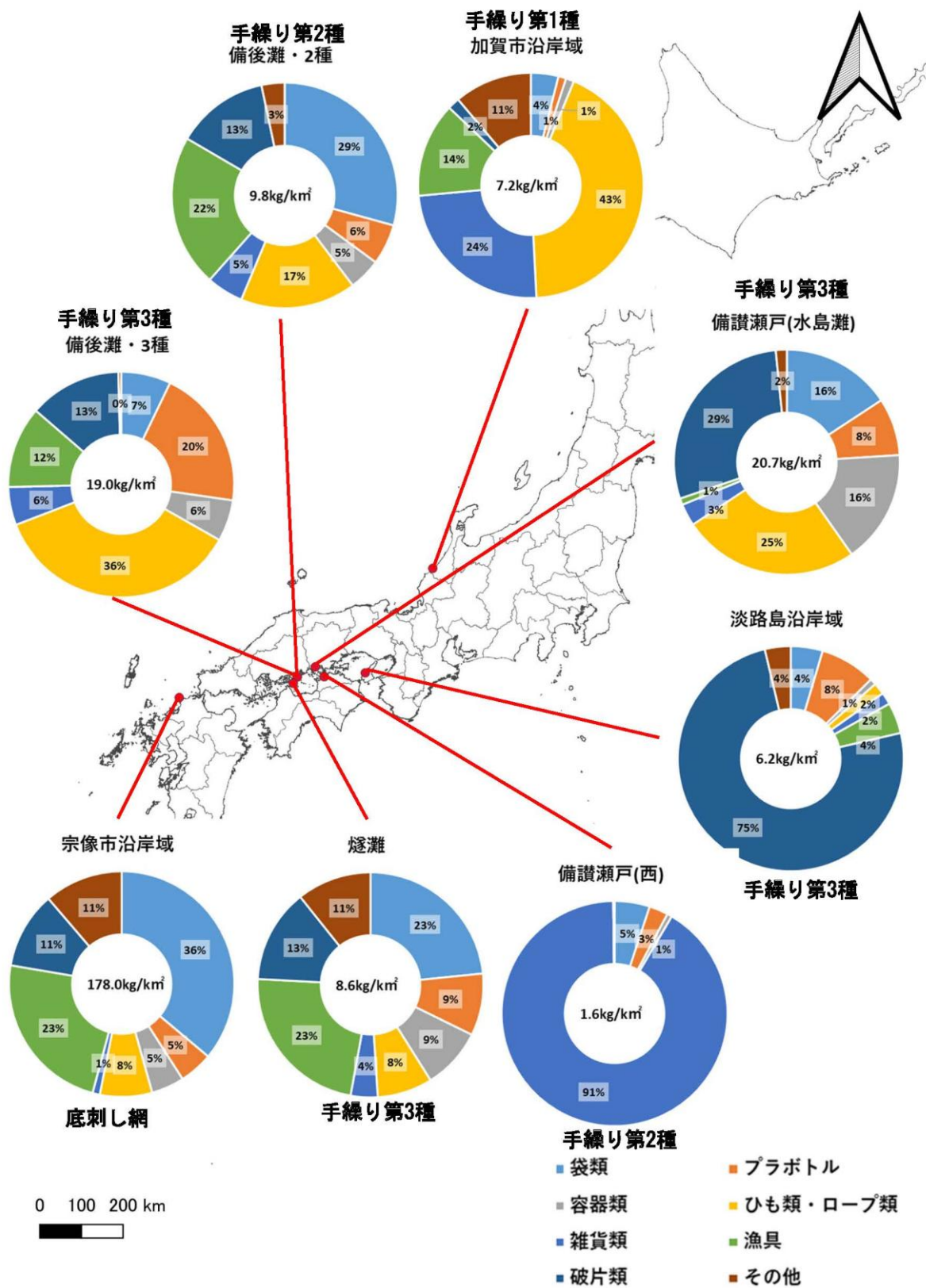


図 III. 2. 8-4 7 海域の重量密度比較 (プラスチック等の細分類)

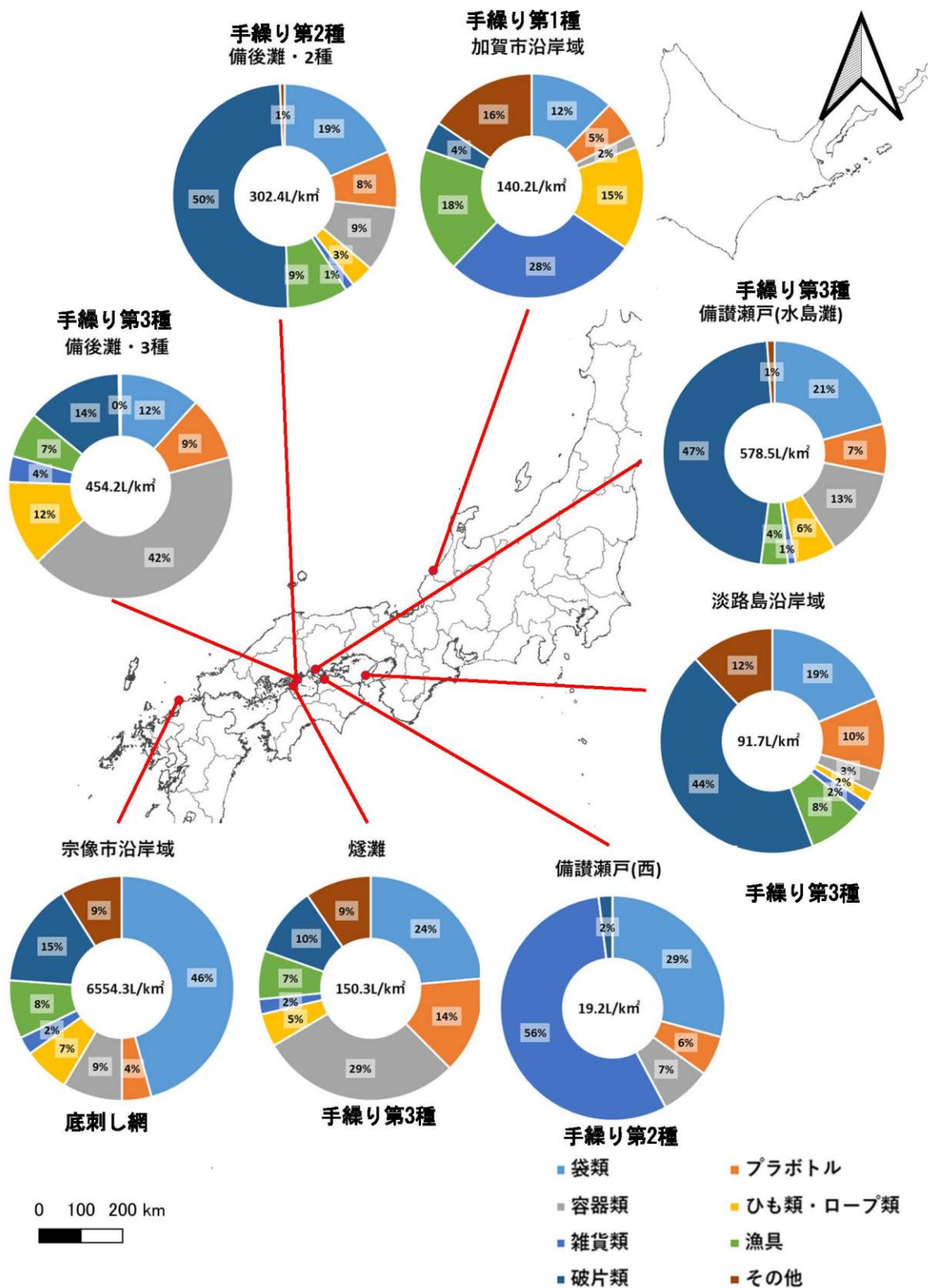


図 III. 2. 8-5 7 海域の容積密度比較 (プラスチック等の細分類)

(3) 採取漁具による比較

備後灘では手繰り第2種と手繰り第3種の2種類の漁具で調査を実施した。漁具ごとに比較した結果を表 III.2.8-3、表 III.2.8-4、図 III.2.8-6、図 III.2.8-7 に示す。

2種に比べ、3種で多くの海底ごみが確認された。プラスチック類では、2種と3種で破片の割合は同程だったが、2種は袋類の割合が多かった。また、どちらも通常は回収されない大型ごみ、その他の影響がみられた。

表 III.2.8-3 備後灘における漁具別の海底ごみ計測結果

単位：個数密度(個/km²)、重量密度(kg/km²)、容積密度(L/km²)

大分類	プラスチック	発泡スチロール	天然繊維・革	ガラス・陶磁器類	金属	紙&段ボール	ゴム	木(木材等)	大型ごみ	その他	総計
2種	534.0	-	9.9	1.0	10.9	3.6	3.8	0.6	1.7	0.6	566.1
割合(%)	94.3%	-	1.8%	0.2%	1.9%	0.6%	0.7%	0.1%	0.3%	0.1%	100%
3種	500.1	2.3	87.4	12.2	31.2	1.5	8.4	5.3	-	1.5	649.9
割合(%)	77.0%	0.4%	13.5%	1.9%	4.8%	0.2%	1.3%	0.8%	-	0.2%	100%
2種	9.8	-	1.2	0.4	0.5	0.0	0.5	0.2	12.7	0.0	25.4
割合(%)	38.8%	-	4.8%	1.4%	1.8%	0.2%	2.1%	0.6%	50.2%	0.1%	100%
3種	19.0	0.0	11.5	3.2	7.6	0.9	5.5	0.6	-	11.4	59.6
割合(%)	31.8%	0.0%	19.3%	5.3%	12.8%	1.5%	9.2%	1.0%	-	19.2%	100%
2種	302.4	-	8.8	0.6	7.2	2.0	3.2	0.2	242.3	1.2	568.0
割合(%)	53.2%	-	1.6%	0.1%	1.3%	0.4%	0.6%	0.0%	42.7%	0.2%	100%
3種	454.2	0.7	62.6	5.9	72.0	4.7	33.0	4.4	-	301.1	938.7
割合(%)	48.4%	0.1%	6.7%	0.6%	7.7%	0.5%	3.5%	0.5%	-	32.1%	100%

※表中の「-」は該当する数値(回収された海底ごみ)が存在しないことを示す

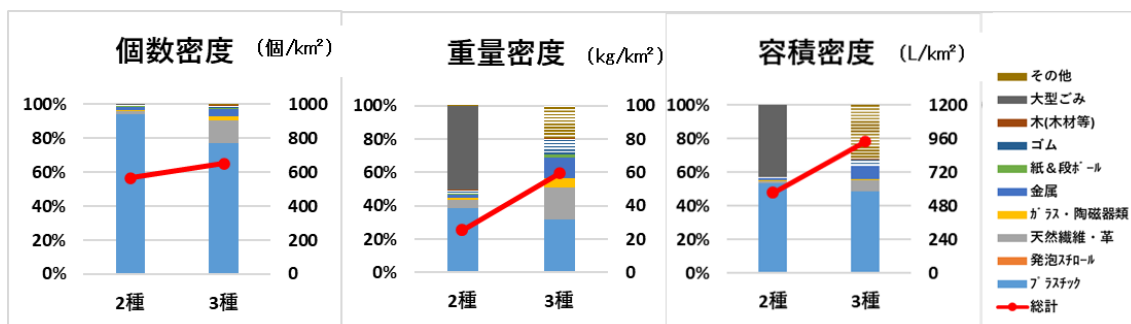


図 III.2.8-6 備後灘漁具別の海底ごみ計測結果

表 III. 2. 8-4 備後灘における漁具別のプラスチックごみ計測結果

	袋類	プラボトル	容器類	ひも類・ ロープ類	雑貨類	漁具	破片類	その他	合計
2種_個数密度	195.9	15.1	41.6	18.7	6.3	5.2	249.2	2.1	534.0
割合(%)	36.7%	2.8%	7.8%	3.5%	1.2%	1.0%	46.7%	0.4%	100%
3種_個数密度	88.9	32.7	95.8	22.8	14.4	12.2	232.6	0.8	500.1
割合(%)	17.8%	6.5%	19.1%	4.6%	2.9%	2.4%	46.5%	0.2%	100%
2種_重量密度	2.9	0.6	0.5	1.6	0.5	2.2	1.3	0.3	9.8
割合(%)	29.3%	5.8%	4.6%	16.6%	5.3%	21.8%	13.3%	3.3%	100%
3種_重量密度	1.4	3.8	1.1	6.8	1.0	2.2	2.5	0.1	19.0
割合(%)	7.1%	20.2%	6.0%	35.9%	5.5%	11.7%	13.2%	0.4%	100%
2種_容積密度	56.0	24.7	28.6	10.2	3.8	26.5	150.6	2.0	302.4
割合(%)	18.5%	8.2%	9.4%	3.4%	1.3%	8.8%	49.8%	0.7%	100%
3種_容積密度	52.9	41.9	192.6	55.8	17.0	30.1	62.5	1.3	454.2
割合(%)	11.7%	9.2%	42.4%	12.3%	3.8%	6.6%	13.8%	0.3%	100%

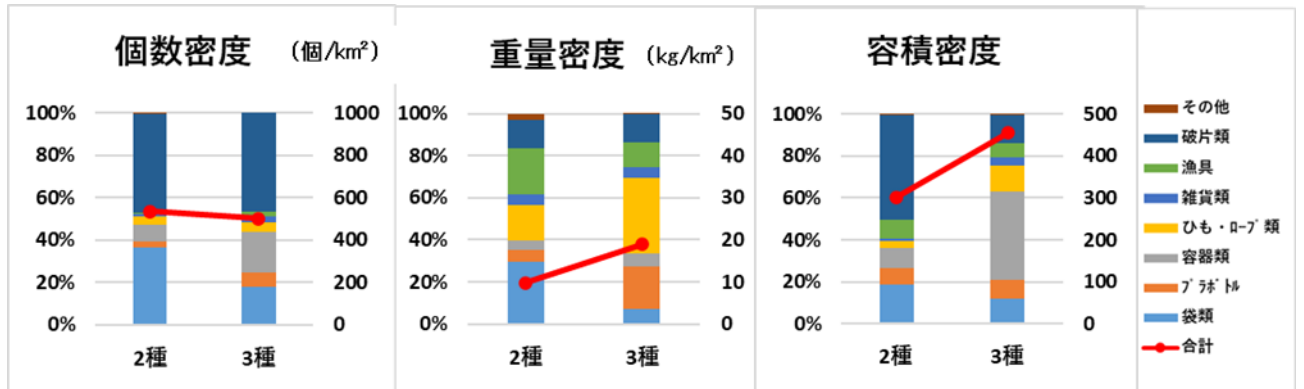


図 III. 2. 8-7 備後灘における漁具別のプラスチックごみ計測結果

(4) 船別、操業日による海底ごみ回収量の変化

宗像市沿岸域では、漁業者の協力のもの回収されたごみを日ごとに分け、ラベリングしたうえでの回収を依頼した。その結果、船、回収日が明確な試料が 11 隻日分回収することができた。

11 隻日分の試料については、大分類で分類をし、それぞれ個数、重量、容積を計測した。結果を表 III. 2-71 に示す。

得られた結果を用い、日ごとに回収された量を整理した。なお、ゴム、金属類は 1 個当たりの重量、容積がプラスチックの袋類に比べて大きいため、一つでそれぞれの値に与える影響が大きくなっている。この 2 つの分類については、回収されなかった日が半数近くあるため、日ごとの比較はプラスチック類のみで実施した。結果は、表 III. 2. 8-5、図 III. 2. 8-8 に示す。

データにバラつきはあるものの、個数、重量、容積ともに、顕著な傾向ではないが、操業による減少傾向が確認された。

表 III. 2. 8-5 船・日別の海底ごみ計測結果

日付	船名	調査分類	個数(個)	重量(kg)	容積(L)
1/28	A丸	プラスチック	97	0.8	34.7
1/28	A丸	ゴム	1	0.2	2.2
1/31	A丸	プラスチック	112	0.5	31.4
1/31	A丸	金属	2	0.0	0.1
2/3	A丸	プラスチック	74	0.9	33.6
2/3	A丸	金属	12	1.3	15.0
2/5	A丸	プラスチック	43	0.7	35.8
2/5	A丸	ゴム	4	0.0	0.8
2/12	A丸	プラスチック	43	0.5	12.3
2/12	A丸	金属	3	0.1	1.1
2/21	A丸	プラスチック	33	0.7	17.9
2/21	A丸	ゴム	1	0.0	0.1
1/26	B丸	プラスチック	45	1.5	26.9
1/28	B丸	プラスチック	24	0.4	23.9
1/31	B丸	プラスチック	33	0.9	31.4
2/3	B丸	プラスチック	41	0.4	29.1
2/9	B丸	プラスチック	6	0.4	19.0

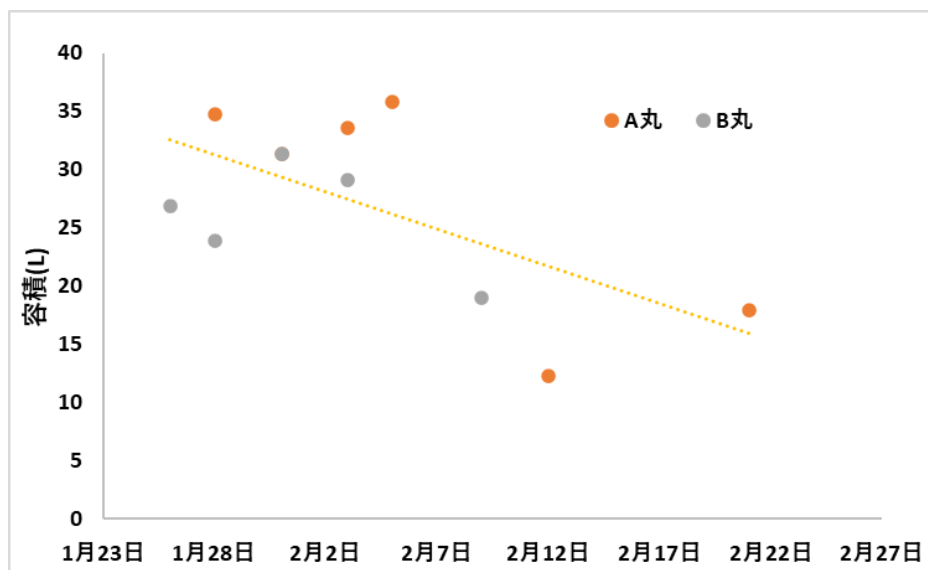
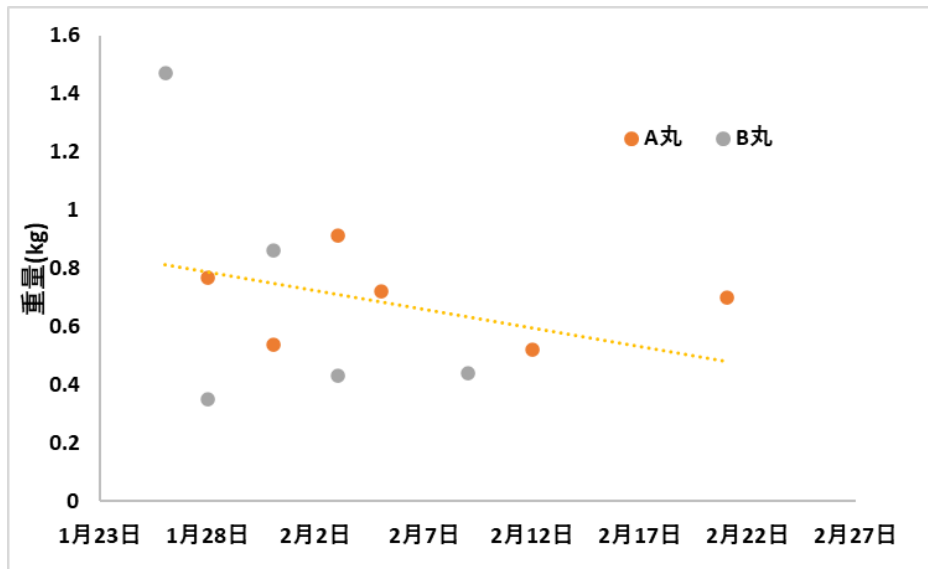
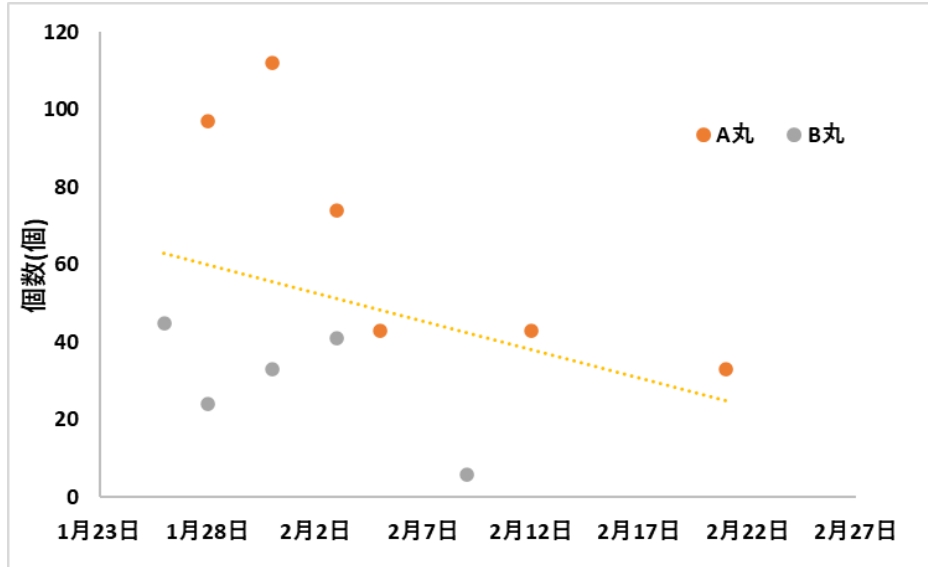


図 III.2.8-8 船・日別の計測結果(上：個数、中：重量、下：容積)

(5) 今後の課題

1) 海底ごみの実態

本年の現地調査結果から、過年度実施した結果と比較して密度はおおむね同程度か、少ない結果となった。海底ごみは海域によっても溜まりやすい場所、溜まりにくい場所とあり操業位置による影響も大きく出る点には留意が必要ではあるが、海底ごみの量が減少している可能性が示唆される。他にも、播磨灘（東）、備讃瀬戸（水島灘）、備後灘では破片類の割合が過年度より多く、半数近くが破片類であったことから、海底に堆積しているごみが劣化し細かくなっているなど海底ごみの状況の変化も考えられる。

また、宗像市沿岸域での日ごとの結果より海洋ごみの回収を実施することで、日ごとでも回収される量が減少する可能性が示唆された。実際の経年変化等を把握するにはデータが不足している状況にはあるため、海底ごみの実態把握には依然として調査を継続することが重要になる。

2) 実施各地の海洋ごみ回収状況

本年度現地調査を行った海洋ごみ回収地点での海洋ごみ回収の取り組み状況を表 III. 2-10、表 III. 2-11 に整理した。

現地調査選定にあたり、海洋ごみ回収に協力的な地域から選定を行ったため各海域で漁業者と自治体での連携は取れていた。一方、漁業者と直接的な連携は水産部局で取っているため、環境関係部局でも海洋ごみ回収にかかる取り組みを実施していると漁業者が認識していない地域も見られた。このことから、海洋ごみ回収事業を始めるにあたって地域によっては環境部局だけで動くのではなく、自治体の中で環境部局と水産部局が連携と取りながら動いていくのが良いと考えられる。

また、備後灘では、漁業者の海洋ごみ回収に対して島内での処理が厳しい状況にあることから、処理困難な大型ごみを回収・処分の対象から外している。無理なく海洋ごみ回収の取り組みを始めるという点で、こういった制限を設けつつ事業を実施するのは重要になる。

表 III.2-10 現地調査実施海域での海洋ごみ回収状況

海域名	状況
加賀市沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に設置したコンテナに漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは加賀市にて処分を実施。
播磨灘（東）	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に設置したコンテナに漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは洲本市にて処分を実施。
備讃瀬戸(西)	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に設置したコンテナに漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは丸亀市にて処分を実施。
備讃瀬戸(水島灘)	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に設置した海底ごみステーション(小屋)に漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは浅口市にて処分を実施。 ・調査に協力の漁業者は操業中に混獲されたごみについては網にかかったものも含めて回収を実施。
備後灘	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が海洋ごみを回収し、回収したごみは島にある市のクリーンセンターに漁業者が搬入。搬入したごみは尾道市で処理、処理費用は市が負担。 ・島内での処理が困難な大型ごみは対象外。 ・島内に海洋ごみステーションはあるが、老朽化のため使用していない。
燧灘（西）	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が回収した海洋ごみは、今治市配布のごみ袋に入れ、船着き場周辺に保管。回収されたごみは今治市が漁業者からの連絡を受け回収、処分。
宗像市沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が回収したごみは市指定の網袋に入れ、一般ごみとして焼却処分。

表 III.2-11 現地調査実施海域での海洋ごみ回収状況

	
<p>加賀市沿岸域計測後ごみ収集状況</p>	<p>播磨灘(東)計測後ごみ収集状況</p>
	
<p>備讃瀬戸(西)計測後ごみ収集状況</p>	<p>備讃瀬戸(水島灘)計測後ごみ収集状況</p>
	
<p>備後灘計測後ごみ収集状況(1)</p>	<p>備後灘計測後ごみ収集状況(2)</p>
	
<p>燧灘西) 備後灘計測後ごみ収集状況</p>	<p>宗像市沿岸域備後灘計測後ごみ収集状況</p>

第IV章 漁業者及び自治体等における「漁業者と自治体の協力による 海洋ごみ回収事業」の研修会の実施

IV.1 研修会概要

令和5年8月31日に環境省から、漁業者による海洋ごみの効率的・効果的な回収や、回収から処理までの課題解決に資するマニュアル・パンフレット等が公表された。これを受け、海洋ごみ回収事業の認知向上及び自治体から漁業者への情報発信を促進することが重要であるため、普及を行うために自治体、漁業者等を対象に「令和7年度海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収に関する研修会」を令和6年度に引き続き実施した。また研修会参加申し込み時に自由記述での質問募集、実施後に事後アンケートを実施し、参加者から研修会についてのフィードバックを得た。

研修会は令和7年9月17日に開催し、多くの関係者へ参加してもらうことを目的として午前と午後の2部制とした。研修会で説明する内容は午前と午後で同一の内容の説明を行った。研修会の次第を図IV-1に示す。

【研修会次第】

- ・開催日：令和7年9月17日
- ・開催時間：第一部10時～12時、第二部14時～16時
- ・開催方法：WEB会議システムにより開催

- ・主催：環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室
- ・参加者：都道府県職員、市長村職員、漁業協同組合職員など
- ・事務局：三洋テクノマリン株式会社

- ・プログラム
 - 1) 開会
 - 2) 開会のあいさつ、研修会趣旨説明
 - 3) 事務連絡
 - 4) 研修
 - ①海洋ごみの現状
 - ③海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイント
 - 休憩
 - ④海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点
 - ⑤事例と回収の効果
 - 5) 閉会のあいさつ
 - 6) 事務連絡
 - 7) 閉会

図 IV-1 研修会次第

公募時アンケート

IV.1.1 公募時アンケートの内容

研修会公募時に合わせ、参加者に海洋ごみ回収に関するアンケート調査を行った。

- ・実施期間（公募期間）：令和7年8月8日～9月17日
- ・公募対象者：事業関係者（環境部局・水産部局・漁業協同組合等）

アンケートはアンケート用紙を用いたメールによるアンケートとMicrosoft Formsを併用して実施した。アンケートの内容を表 IV-1 に、使用したアンケート用紙を図 VI-2 に示す。

また、第一回検討会における委員からの指摘事項を反映し、研修会案内等の「情報入手先」についても記載事項として追加した。

表 IV-1 公募時アンケートの内容

基本情報	所属機関、所属部署、参加者氏名、 連絡先（電話番号、メールアドレス）
参加希望時間帯	午前・午後
海洋ごみ回収の取組について気になる点、不明点	自由記述で回答
研修参加の動機	選択式 ・海洋ごみ回収の取り組みを行ってみたい ・海洋ごみ回収の取り組みを行っているが、他地域の状況等について知りたい ・事業に興味がある ・業務指示
情報の入手先	選択式 ・環境省、水産庁、都道府県、市町村、漁連、その他

研修会登録申込用紙

三洋テクノマリン株式会社(加藤)宛て
メールアドレス:g_kensyu_umigomi@stm.co.jp

R7年 月 日

参加者 (複数名いる場合は、行を適宜追加してご記載ください)
所属機関(都道府県、市町村、団体名):
部課室及び役職名:
担当者氏名:
電話番号:
Eメールアドレス:

参加を希望する研修の時間帯

希望する研修の時間帯をチェック	
<input type="checkbox"/> 午前(10:00~12:00)	<input type="checkbox"/> 午後(14:00~16:00)

海洋ごみ回収の取組について気になる点、不明点等ございましたらご記載ください。

--

本研修を参加される目的・動機を選択してください

<input type="checkbox"/> 海洋ごみ回収の取組を行ってみたい
<input type="checkbox"/> 海洋ごみ回収の取組を行っているが、他地域の状況等について知りたい
<input type="checkbox"/> 事業に興味がある
<input type="checkbox"/> 業務指示

本研修について、どこから情報を得ましたか選択してください

<input type="checkbox"/> 環境省	<input type="checkbox"/> 水産庁
<input type="checkbox"/> 都道府県(□環境部局、□水産部局)	<input type="checkbox"/> 漁連
<input type="checkbox"/> 市町村(□環境部局、□水産部局)	
<input type="checkbox"/> その他	

個人情報の取り扱いについて

環境省セキュリティポリシーに基づき、記載いただきました個人情報は本事業にのみ使用し、その他の目的に使用することはありません。

図 IV-2 アンケート用紙

IV. 1. 2 公募時アンケート結果

研修会参加者の属性を図 IV-31 に示す。

公募時のアンケートでは研修会参加者計 191 名のうち、市町村から 101 名、都道府県から 63 名、漁業関係者が 21 名、その他 NPO 法人や企業等からの参加者が 6 名であった。また、都道府県、市町村の職員の所属部署では、環境部局が 63 名、水産部局が 88 名、土木部局 7 名、観光部局 3 名であった（同一部署からの複数名参加も含まれる）。

研修会への参加の動機を図 IV-4 に示す。

「海洋ごみ回収の取組を行っているが、他地域の状況等について知りたい」が 65 名、「事業に興味がある」が 50 名、「海洋ごみ回収の取組を行ってみたい」が 35 名、業務指示が 22 名であった。

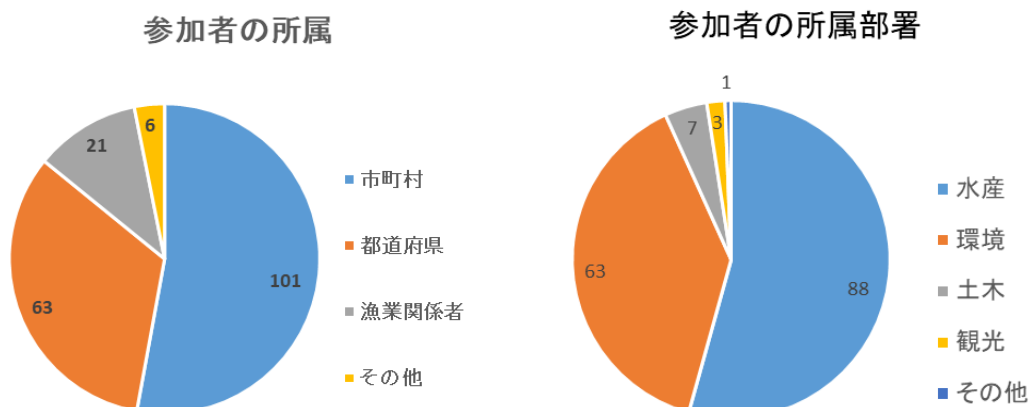


図 IV-3 研修会参加者の属性

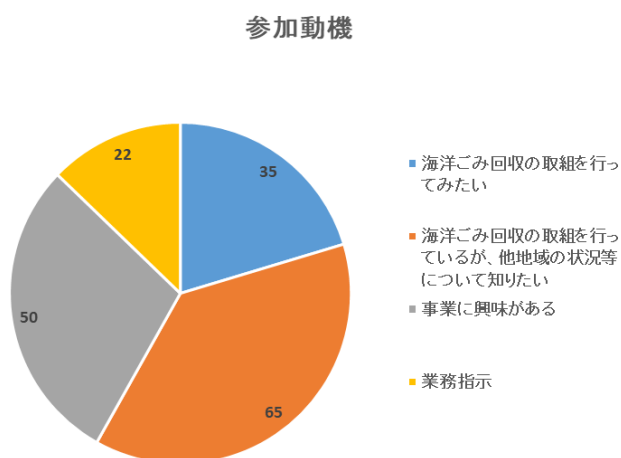


図 IV-4 研修会参加の目的

公募時の海洋ごみ回収の取組について気になる点、不明点を以下に示す。

他地域の事例や補助金対象についての気になる点や不明点についての意見が多くあった。

- ・ 漁業者への分別方法の指導をどのように実施しているのか？
- ・ ごみ分別をきちんとしていない場合、どのように対応しているのか？
- ・ 予算を活用してみたいので、仕組みや取り組みの事例について詳しく知りたい。
- ・ 海洋ごみの定義を教えてください（密漁者等が投棄していった漁網等も海洋ゴミですか）。
- ・ どこまでが補助対象となるか（作業・物品等）
- ・ 世論の関心が低いであろう点。
- ・ 災害時などに海岸にごみが漂着した際の行政の役割分担、許認可などについて勉強したい。
- ・ 庁内水産部門との連携及び漁業者との協働について。
- ・ 海岸に漂着した筏のフロートの処理費用が高額である。処理方法として良い案があればお聞きしたい。
- ・ 海洋ごみのうち海岸漂着ごみが多く、村内では処理できないことから処理費用が莫大になる。安価な漂着ごみ焼却設備があるであれば、情報提供をいただけると助かります。
- ・ 不明な液体が入ったポリタンク、巨木や漁網等が絡まっている流木など、安全で合理的、具体的な処理方法を知りたい。
- ・ 海洋ごみ汚染のホットスポット海域は知られているのでしょうか。
- ・ 現在行っているもの以外の回収方法を知りたい。
- ・ 回収したごみの処理費用の負担に対する助成制度などについて。
- ・ 費用面と海洋ゴミ回収後の保管方法について。
- ・ 漂着ごみと産業廃棄物の線引きについて。
- ・ 事業や予算の区分けについて。
- ・ 責任の所在について。
- ・ 漂流しているごみと漂着したごみで処分管轄が変わってしまうことが多々ある。ごみの回収事業でどうして回収できないのかという問合せに苦慮している。
- ・ 海洋ゴミを回収した後、何か収益に繋がる取組とか事例がありましたら、情報提供お願いいたします。
- ・ 海底の漁網の残骸や漂着物の処理について漁業者に負担の少ない処理の方法を知りたい。
- ・ 他地域での海洋ごみの回収・処理方法について。
- ・ 流木等の処理について、他地域の状況等を知りたい。
- ・ 人力で回収するには限度があるため、効率的に回収している機器等の紹介をお願いいたします

- ・ 漁業者と自治体の関係構築について、より良い関係を築くためのポイント、効率的な海洋ごみ回収方法について。
- ・ 大雨災害等による大量の漂着物に対し適切な対応が必要である。
- ・ 例年、海洋ゴミの対応に苦慮している。定額補助金、効率的な各自治体への横展開等について詳しく知りたい。
- ・ 他地域の漁業活動で使用された資材等が漂流・漂着し、地元漁業者にとって回収や処理の負担となる場合、これら海洋ごみ発生源に対する指導や対策について、自治体や関係機関としてどのような取組みや考え方があるのか。
- ・ 漁業者及び地元漁協の協力を得て海底及び漂流海洋ごみを操業時や海底ごみ清掃時に回収を実施しているが、漁業者の高齢化により漂流物が多い年の回収作業に苦慮している。
- ・ 漁業者がボランティアで回収している海洋ごみ(漂流・海底ごみ)の回収部分について、事例の紹介願いたい。
- ・ ごみ収集の主体組織(行政・漁協)について。
- ・ 複雑な地形の海岸におけるごみ収集などの課題について。
- ・ 沖合での積極的なごみ回収の事例(マイクロプラスチックなど)。
- ・ 国境を越えた漂着ごみの処理について危険性と処理費用の問題について。
- ・ 回収後のごみの分別処理等の問題について。
- ・ 自治体及び沿岸漁協のごみ回収における処理費用の問題について。
- ・ 海洋ごみがある場所により、管轄行政のすみわけが整理されているか(海面：海保、海岸：所管する自治体など)。
- ・ ごみのストック場所の設置などへの費用も補助対象か？

IV.2 研修内容

研修会資料は、①海洋ごみの現状、②海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイント、③海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点、④事例と回収の効果の4項目について作成し、説明を行った。昨年度からの変更点としては、マニュアル策定の背景で補助事業の内容を詳細に説明したが、本年度は補助事業の内容の説明量を減らし、他地域の事例やごみ回収を行うことによって得られる効果を追加し紹介した（図 IV-4 研修会参加の目的）。

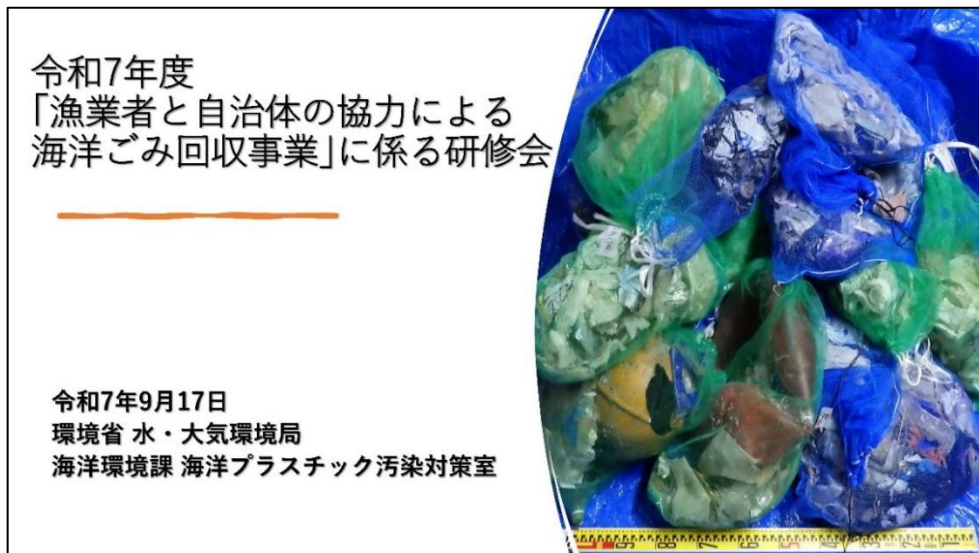


図 IV-5 研修会資料（表紙）

IV.2.1 海洋ごみの現状

海洋ごみの現状では、研修を行う初めに海洋ごみについての理解を深めるため、海洋ごみの発生源やその後どのような動きをするのか、また、現状海底ごみがどのように堆積しているのか、調査データ等を用いて説明を行った。



図 IV-6 ①海洋ごみの現状スライド（一部抜粋）

IV. 2.2 海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイント

海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイントでは、漁業者向けと自治体向けに分けて回収事業を始めるためにどのようなことを気を付けるとよいのか、それぞれの視点で説明を行った。

(3) 海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイント

内容

- ・ 海洋ごみの回収から処理までの流れ
- 【漁業者の方へ】 ・ 回収事業を始めるための手順とポイント
- 【自治体の方へ】 ・ 回収事業の流れ（必要手続き）
 - ・ 漁業者と自治体との連携
 - ・ 回収事業を始めるにあたってのヒント
 - ・ 漁業者への具体的な支援・協働
- ・ 海洋ごみ回収事業の体制事例

図 IV-7 ②海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイントスライド(一部抜粋)

IV. 2.3 海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点

海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点では、実際に海洋ごみ回収を始めるにあたって、どのようなことに気をつけるとよいのか、回収、分別、保管、処理の4段階に分けてそれぞれの方法、工夫点について事例を交えて説明を行った。



図 IV-8 ③海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点スライド(一部抜粋)

IV. 2. 4 事例と回収の効果

事例と回収の効果では、海洋ごみ回収を実施している自治体についての事例と海洋ごみを回収することで期待できる効果について紹介した。

海洋ごみ回収事例

市と漁業者が連携した海底ごみの回収事例(広島県尾道市)

尾道市では、平成20年7月より市内の3漁協(吉和、尾道、因島市)、令和5年以降は浦島漁協が加わり4漁協の小型底曳き網漁業者が中心となって協力し、容器包装 プラスチック類、ペットボトル、缶類、ビン類の海底ごみを回収している。尾道市における役割分担は、①漁業者は、操業中に海底ごみを回収、各港へ持ち帰り、分別。②漁協は、設置された専用ごみステーションに海底ごみを一時保管し、クリーンセンターに搬入。③市は、搬入された海底ごみの処分、漁協への委託料の支払い。

実施に要したコスト(令和6年度)は、回収用袋(内容量4~5kg)1袋あたり約150円、ごみ搬入時のトラック運搬費は約5千円/回である。なお、海底ごみの操業調査は、平成28年度以降未実施。

課題としては、小型底曳き網漁業を行う漁業者が高齢化等もあり減少しているため、ごみ回収の担い手が少なくなっている(刺し網漁業の漁業者による回収を実施している漁協もある)。また、回収しても根本的にごみのポイ捨て等がなくなれば、海底ごみは減らず、解決には至らない。

年度	回収量(kg)	回数(回)
平成20年	2,940	20
平成21年	2,000	23
平成22年	1,210	17
平成23年	890	14
平成24年	583	12
平成25年	790	9
平成26年	690	8
平成27年	570	7
平成28年	340	7
平成29年	630	9
平成30年	820	6
令和元年	780	8
令和2年	200	5
令和3年	250	6
令和4年	200	4
令和5年	230	4
令和6年	260	3
合計	13,383	162

出典：尾道市HP、提供資料

4-1

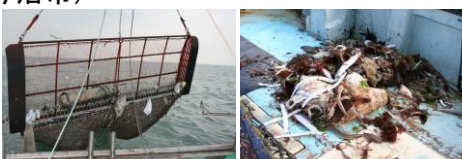
海洋ごみ回収事例

市と漁業者が連携した海底ごみの回収事例(愛媛県今治市)

今治市では、平成16年度頃より市内の愛媛県漁協4支所(桜井、今治、宮窪、志津見)の小型機船底びき網漁業者が中心となって海底ごみを回収している。市で作成、4支所へ配布されたごみ袋を支所から漁業者へ配布し、ごみ回収と持帰りの協力を依頼。今治市における役割分担は、①漁業者は、操業中に海底ごみを回収、各港へ持ち帰り、物揚げ場に一時保管・積上げ。②漁協は、適宜、ごみを回収して、クリーンセンターに一般ごみとして搬入し、処理費用(1,000円/10kg)を支払う。③市は、搬入されたごみを処分し、漁協へ委託料を支払う。

実施に要したコスト(令和6年度)は、事業費1,033千円、回収量は、8.55tであった。

海洋ごみ回収海岸漂着物事業は、漁業者による海底ごみ回収を担当する農林水産課と漂着物等の回収を行う海岸管理者や港湾漁港課が関係している。事務・申請の簡略化の観点から課題もあるが、現況は連携良好で実施。また、漁業者や漁獲量の減少による出漁日数の影響でごみ回収量の減少あり。ごみ袋に入らない自転車・消火器・ワイヤーロープ等の大きなごみは、令和6年度より産業廃棄物として処分を実施。不法投棄のリスクもあり、漁業者を束ねる漁協や管理者との連携が不可欠で、補助金活用に向けて実証実験中。



年度	回収量(kg)	協力漁業者数(人)	平均回収量(kg/人)
H27	15	10	1.5
H28	13	10	1.3
H29	11	10	1.1
H30	10	10	1.0
H31	11	10	1.1
H32	10	10	1.0
H33	10	10	1.0
H34	9	10	0.9
H35	10	10	1.0

4-3

図 IV-9(1) ④事例と回収の効果(スライド)

IV.3 事後アンケート

IV.3.1 事後アンケートの内容

研修会終了後、研修会についてのアンケートを実施した。

アンケートは研修会参加者を対象とし、Microsoft Forms にて実施した。

- ・実施期間：令和7年9月5日～10月2日
- ・実施対象者：研修会参加者
- ・事後アンケートの内容を表 IV-2 に示す。

表 IV-2 事後アンケートの内容

項目	内容
1. 所属・関係先について	以下の内容を自由記述で回答 ・所属機関 ・部課室及び役職 ・氏名 ・連絡先
2. 研修会の内容について	研修会資料の項目(1)～(4)までのそれぞれについて、以下、①～③で選択、回答。 ①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない また、最後に意見、質問等があれば、自由に記述
3. 研修会全体を通して	以下、①～⑤で選択、回答 ①すでに海洋ごみ回収を実施しているが、参考になった。 ②すでに海洋ごみ回収を実施しているが、参考にならなかった。 ③海洋ごみの回収を実施していないが、参考になった。 ④海洋ごみの回収を実施してみようと思った。 の5つから選択
4. ご意見・ご感想	自由記述にて研修会全般について回答

IV. 3. 2 事後アンケート結果

IV. 3. 2. 1 回答者の属性

事後アンケートの回答者の属性を図 IV-10 に示す。

事後アンケートの回答者の内訳は、市町村所属が 41 名、都道府県所属が 32 名、漁業協同組合所属が 8 名、NPO 法人等の所属が 1 名の合計 82 名であり、参加者の約半分からの回答であった。また、都道府県、市町村の職員の所属部署では、環境部局が 32 名、水産部局が 34 名等であった（同一部署からの複数名回答も含まれる）。

回答者人数は、参加者と比較すると減少しているが、回答者属性の比率はおおむね一致しており、回答の偏りは少ない結果であった。

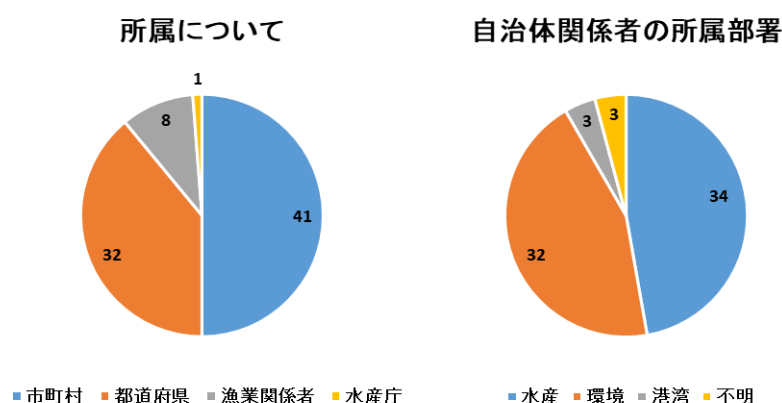


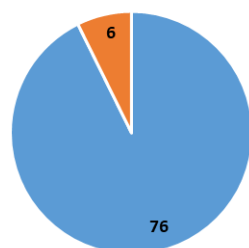
図 IV-10 事後アンケート回答者属性

IV. 3. 2. 2 研修会内容について

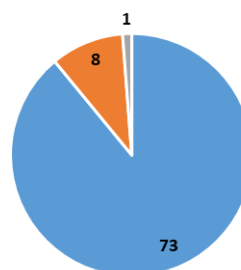
研修会内容のアンケート結果を図 IV-11 に示す。

全項目で 8 割以上が「参考になった・興味深かった」と回答があった。また、個別では「①海洋ごみの現状が」9 割以上が「参考になった・興味深かった」と回答しており最も評価が高く、「③海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点」、「④事例と回収の効果」については「参考になった・興味深かった」との回答が最も低かった。

①「海洋ごみの現状」



②「海洋ごみ回収事業を行うための手順とポイント」



■ 参考になった・興味深かった ■ どちらともいえない ■ 参考になった・興味深かった ■ どちらともいえない ■ 参考にならなかった・興味がない

図 IV-11(1) 研修内容の評価（アンケート結果）

③「海洋ごみ回収の具体的方法と工夫点」

④「事例と回収の効果」

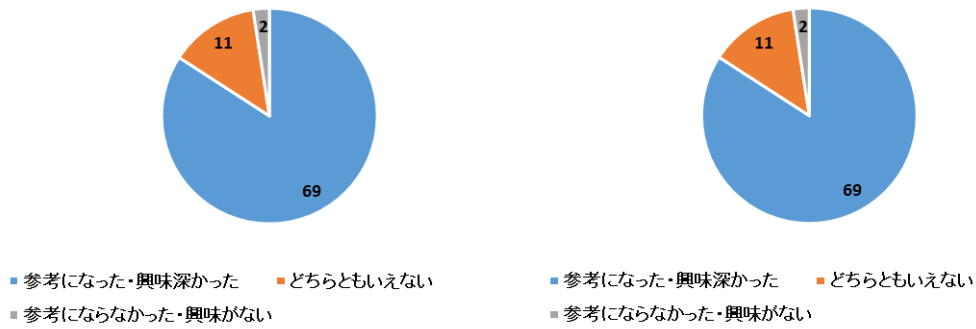


図 IV-11 (2) 研修内容の評価（アンケート結果）

本研修会全体を通していかがでしたか

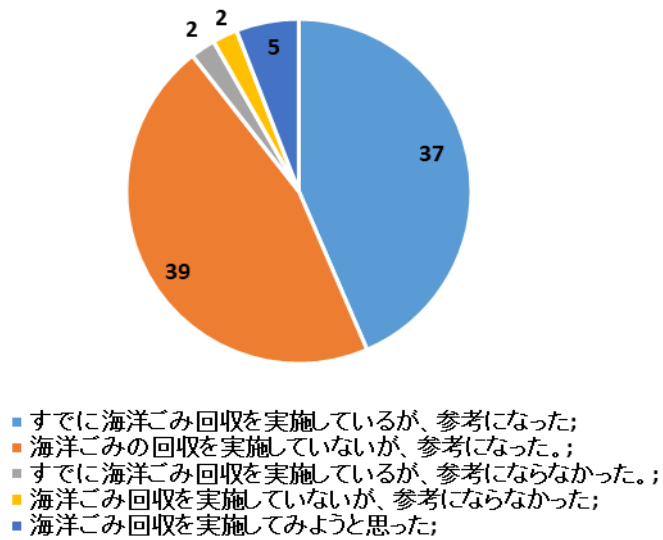


図 IV-11 (3) 研修会全体を通して（アンケート結果）

IV. 3. 3 その他自由記述アンケート結果

そのほか事後アンケートでは以下のような意見が得られた。

- ・次回は、“海底”ではなく“海岸”の漂着ゴミの処理についても取り上げていただけたらと思います。
- ・操業時の海洋ごみ混入は現場として深刻な状況になっており、その対策に乗り出した市町においても予算的に厳しいと感じているので実際の取り組みについてより詳しい情報（取り組みでの苦労や予算、工夫等具体的に）を知りたい。
- ・研修 URL は届いたが、資料が前日にメールで届くと聞いていたが届かなかった。
- ・漁業者向けに特化した内容で、5-10 分くらいの解説動画を作ってもらえると、漁業者への普及に使えるかと。
- ・各自治体で行っている、海洋ごみ回収事業について、とても参考になりました。
- ・どういう立場の方が受講することを想定しているのかももう少し情報があるとありがたいです。
- ・香川県以外の取り組みでもっと先進的な取り組みが知りたかった。
- ・法律や事業予算メニューについて、もう少し詳細に御紹介頂きたい。
- ・海底ごみを漁業者（ボランティアとして）に回収はわかりやすい。
海岸漂着ごみ、漂流ごみの回収事例についても、漁業者・市町村・都道府県・国（林野、水産）の連携の成功例を紹介欲しい。
- ・漂流ごみについては、航路安全観点から海上保安庁の関与も考えられるところです。海保と市町村との連携例などご紹介いただければと思います。
- ・「大中型まき網漁業」という比較的大型の漁業の担当をしております。当該漁業に従事する漁業者は、沿岸の漁業者と違い、地域（エリア）をベースとした漁業協同組合に所属していないため、自治体とのつながりが少々希薄な状況です。このため、主要な水揚げ地（釧路、銚子、松浦、長崎、境港等）の自治体さんでまず事業実施を検討いただいて、その事業計画の中で、大中型まき網漁業者にもお声がけをいただけると事業に協力しやすいと感じました。
- ・開催時期や時間等良かったと思います。
検討すべき項目や課題が他の事例が参考になった。
- ・説明会の内容を期間限定でも良いので動画配信していただければ、視聴しやすい自治体等も増えるのかと思われます。（今回も、急な仕事で一部聞けなかった箇所があったので。）
- ・開催時期を春～初夏にして欲しい（事業担当者が替わった際に、新担当者が事業について理解するため）
- ・漁業者と自治体の協力による海洋ごみ回収事業に係る研修会ではありますが、ダイビング業者なども対象になる旨を備考欄などどこかに小さくでも記載した方がよいかと思いました。
- ・市町村での焼却施設で処分が進まない理由として塩分による焼却炉への悪影響懸念があります。塩抜きに関する情報（雨ざらしの場合の期間や目安、自治体による取り組み例）があればご提供いただきたい。

- ・港湾区域内において、プレジャーボート団体と港湾管理者（海岸管理者）間で海洋ごみの回収を実施している事例等がありましたら、ご教授いただけますと幸いです。
- ・1 漁網の鉛分別方法がわかりません。
- ・一般廃棄物は市町村が処理すべきものと認識していましたが、大型の流木など都道府県で処理してもらえるものなのでしょうか？を
- ・他地域の事例は参考になりましたが、現場の漁業者と公的機関の連携はどのように取っているのでしょうか。
- ・ごみの陸揚後、漁協、自治体による分別が困難な場合、業者に委託する費用も補助されるとの事ですが、困難かどうかの判断はどこが行うのでしょうか。（漁協、担当課の判断で良いのか、補助元で判断されるのか）
- ・県をまたいで漂流するような、漁船では回収できない大型の漂流物の回収方法、対応事例等あればご教示いただきたい。
- ・海洋ごみについて、離島である本村には沢山の海洋ごみが漂着するのですが、現在は村で処理できず、年に1度だけ補助金も使い回収し、沖縄本島の業者に処理してもらっています。安価で海洋漂着ゴミを処理できる装置がもしあれば情報を頂けると助かります。
- ・漁業者の活動により海洋ごみ及び漁港漂着ごみの回収分別は進んでいるようですが、漁港管理者に処理を要望されるケースが多く予算的にもスペース的にも苦慮している。各地の事例等もこれからも御紹介いただきたい。
- ・海洋ごみの7割が内陸由来とのことですが、海洋ゴミのボランティア清掃によるごみのように、湖・河川のボランティア清掃のごみ、流木の回収・処理で補助事業の対象になりますか、また、他に対象となる事業はあるのでしょうか？
- ・海洋ごみ回収事業を行うための手順については、すでに回収を実施しているのであまり参考にならなかった。
- ・漂流ごみの分類は研修内容の種類まで細分しなければならないのでしょうか？
- ・海洋ごみ回収事業の補助金は、対象となる収集・運搬・処理にかかった費用の100%補助率なのでしょうか？
- ・スライド3-3で「海岸清掃活動で回収した漂着ごみ」は対象外とし、一方QAの20問目では「漁業者による海岸清掃として事前に申請されていれば補助対象」となっていますがどちらが正しいですか。そもそもこの事業は漁村の市町村の負担が大きくメリットは乏しく、広げるには漁業者のインセンティブが不可欠と思います。漁業者のニーズは大雨等のあとに漁港に流れ着いて出港の邪魔になる（あるいは堆積した海岸から満潮時に再び流入する可能性がある）流木等の除去が大きく、これを対象外とすることはニーズに合わないと考えます。
- ・漂着ごみの回収に必要な費用に対して、環境省から配分される金額が不足している。海岸漂着ごみの予算の増額に努めてほしい。

IV.4 研修会の課題

研修会開催にあたって、昨年度課題として挙げた開催時期を10月から9月へと前倒しを行ったが、開催時期について更なる前倒しの要望や研修内容や研修対象者を明確にしてほしいといった意見があった。これらの意見をまとめ、以下に研修会の課題を整理した。

(1) 研修会開催時期

本年度は開催時期を10月から9月へ変更したものの、アンケートでは「春～初夏に開催してほしい」、「新任担当者が着任した直後に受講できる時期が望ましい」といった意見が複数寄せられた。

特に、自治体担当者の人事異動時期（4～6月）を意識したスケジュール設定が求められており、参加者が適切なタイミングで研修を受けられるよう、開催時期のさらなる検討が必要である。

(2) 研修会の内容

本年度の研修では、海洋ごみ回収事業の普及を目的に、自治体・漁業者双方を対象とし、各主体の取り組みや他地域の事例、回収による利点等を中心に構成する一方で、補助事業の詳細説明については時間配分の都合上、昨年度より縮小した。

しかし、アンケートでは「対象者が誰なのか分かりにくかった」、「補助事業の内容について、より詳しい説明がほしかった」、「補助制度の判断基準、費用補助の範囲、自治体と業者の役割分担をより明確にしてほしい」などの指摘があった。これらの指摘事項から、補助事業の制度説明と参加者のニーズに応じた実務的・詳細な内容の両立が求められていることが明らかとなった。

また、研修URLや資料配布の遅延に関する意見もあり、事務局としての運営面での改善も必要である。

(3) 研修会の対象者

本研修は「自治体及び漁業者を中心とする関係主体を対象」として実施したが、アンケートでは、「どの立場の人に向けた研修なのか、事前の案内で明確にしてほしい」、「ダイビング事業者、プレジャーボート団体、海上保安庁等も関係主体として想定できるため、対象者の幅を明示してほしい」等の意見もあった。

これらの指摘から、本研修における対象者の定義をより明確に示し、異なる立場の参加者が内容を理解しやすくなるよう、講義構成の工夫や案内時の説明改善が課題として抽出された。

IV.5 研修会から抽出された海洋ごみ回収事業の課題

研修会を行って抽出できた事業の課題を整理した。

研修会前後のアンケートで得られた事業についての意見について、事例、事業範囲、関係者との連携、ごみについて、その他・不明の5つで整理した。結果を図 IV-7 に示す。

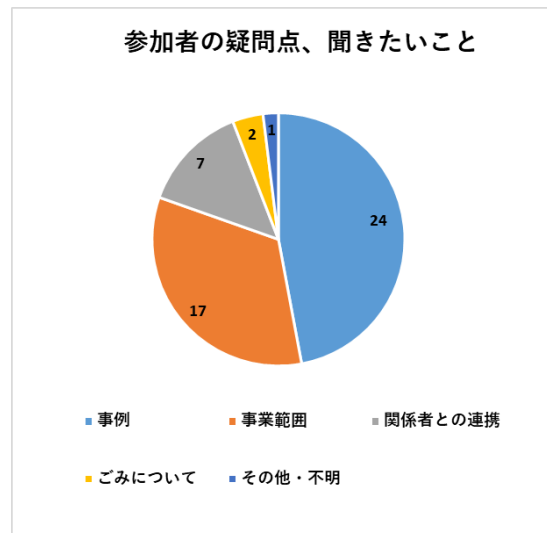


図 IV-12 参加者の疑問点、聞きたいこと

(1) 先行事例の公表されている情報について

昨年度同様、事例についての疑問が最も多く、先行事例として公表されている情報が古く、実際に他の自治体がどのように取り組んでいるのかがわかりにくいった意見が多くあった。

本年度研修会では、最新の事例について紹介し、プラスチック・スマートの活用による情報提供の依頼等を行ったが、引き続き事例の収集、公表が重要である。

(2) 関係者との連携

関係者との連携方法や、自治体・漁業者・事業者のどこまでを担当すべきかといった点についての疑問も確認された。事後アンケートでは「回収事業をやりたい」と回答した自治体が複数あった。事業実施に至っていない理由について確認していないが、連携方法や役割分担の具体像が十分に共有されていないことが、潜在的な課題となっている可能性がある。

こうした自治体に対しては、個別にヒアリングを行い、事業実施の支障となっている要因を把握するとともに、関係者間の連携体制構築を支援することが重要である。そして、それらの結果をもとに、自治体・漁業者・事業者の役割整理や調整プロセスを分かりやすく整理し、マニュアル等に反映することで、事業開始に向けたハードルを下げ、円滑な連携体制の構築を後押しすることが課題である。

以上の課題を解決できるよう、マニュアルに事例の追加、研修会の継続した実施、連携支援などを行うことが望ましい。

(空白ページ)

第V章 漁業者と自治体の協力による海洋ごみ

回収マニュアルの改訂

本マニュアルは、漁業者が操業中の混獲ごみや海底清掃等のボランティアで回収した海洋ごみを港に持ち帰り、保管後、自治体が申請した公費（補助金）で処理を行うためのものである。

(1) 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に関する文献・事例の収集・整理

本年度は事例の収集により、新たに漁場やアマモ場への影響について述べた文献や漁具による回収効率を求めた文献が確認できた。

こうした情報を活用することで、漁業者が回収したごみでどれだけ海がきれいになったかの「見える化」や、藻場造成など海洋ごみ回収による漁業者への新たなメリットを示せる可能性が得られた。

漁業者の協力による海洋ごみ回収事業を進めるにあたって、漁業者のボランティアというのが課題の一つに挙げられる。ごみの回収を行うことでのメリットについても広く啓発していく事が、事業の普及につながると考えられる。

現状のマニュアルは、図 V-1 に示すような構成となっており、海洋ごみ回収事業を開始するための実務的な面を中心とした資料となっている。そのため、今回示したような海洋ごみ回収によるメリットまでは説明できていないのが現状になる。マニュアルは海洋ごみ回収事業の普及啓発などを目的としており、説明内容が増えることで煩雑化し、読み手の負担となることは望ましくないため参考情報として海洋ごみ回収におけるメリットを提示することなどがブラッシュアップ案として考えられる。また、回収におけるメリットが多くはないため引き続き情報を収集していき、適宜追加していくのが望ましい。

目 次

【概要】	1
1. 背景	1
2. 目的	2
【漁業者向け】	3
1. 海洋ごみ回収の取り組みを行うための手順とポイント	3
2. 漁業者と自治体の関係構築	7
3. 海洋ごみ回収・処理手法の工夫	8
4. 課題と解決策	12
【自治体向け】	13
1. 海洋ごみ回収の取り組みを行うための手順とポイント	13
2. 漁業者と自治体の関係構築	17
3. 海洋ごみ回収・処理手法の工夫	18
4. 必要な手続き	23
5. 課題と解決策	25
【参考情報】	27
【事例集】	28

図 V-1 海洋ごみ回収マニュアル目次

1) 事例

岡山県産業廃棄物処理税（産廃税）は、平成15年度（2003年）から導入された法定外目的税であり、産業廃棄物の発生抑制、減量化、再生利用、及び適正な処理の促進を目的とする。県内の最終処分場へ搬入される産業廃棄物の重量に応じて、排出事業者や中間処理業者に1トンあたり1,000円（一般産廃）が課税され、発生抑制やリサイクルなどの環境保全事業の財源として活用されるものである。

関連資料として以下に示す記載事項は、海底ごみ回収について重要なポイントが記載されており、マニュアルへの事例紹介として有効であるとする。

海底ごみ適正処理の取組拡充や普及方法についての検討

1. 海底ごみステーションを増設し、回収を呼び掛ける

- 海底ごみステーションは、海底ごみの回収に効果がある。
- 設置に当たっては、市と漁協とで海底ごみの分別や回収・処理の役割分担などについて十分話し合いの上、取り決めを交わしたり、市が漁協に対し、海底ごみの処理に困った時の連絡窓口を案内しておくなど、漁協が安心して海底ごみ回収に取り組める体制を整備することが必要である。



2. 回収すれば海底ごみは無くなるということを漁業者に理解してもらう

- 最初は、海底ごみの回収作業を負担と感ずるかもしれないが、回収をしなければ同じ作業を繰り返すことになり、作業のロスによる損失は年間約50万円に相当する。
- 海底ごみは、回収を数年も続ければ回収量が徐々に減り、何よりも漁場環境の改善につながる。

3. 回収・処理活動に継続的に取り組むため、漁業者の負担を少なくする仕組みを構築する

- 県・市が、漁業者に対して、海底ごみを回収しさえすれば、後は県・市が連携し適切に処理するという方針を明確に打ち出し、漁業者の負担をできるだけ少なくする仕組みを構築することが望まれる。
- 実際に回収される海底ごみは、1沿岸市あたりに換算すると年間約4t程度と非常に微量であり、炉や最終処分場の処理容量に影響を与える量ではないと考えられる。
- 市で対応できない場合（焼却施設のみで、埋立処分ができないなど）もあり得ることから、国や県による補完体制の整備が必要である。



4. 発生源対策が重要である

- 陸域で発生したごみが河川を通じて流入することを止めない限りは、海底ごみを無くすることはできない。
- 河川や上流域の用排水路の樋門でごみを定期的に回収したり、梅雨・台風による流出の前に河川敷のごみを回収するなど、発生源対策をより強化することが重要である。



5. 漁業者を市民が応援する仕組みを整備する

- 小学校の授業などで、実際に子どもたちが漁業や海底ごみの実態を体験し、その中で、実際にどれくらいの成果が上がっているのかを説明する。
- 市民が、漁業者の社会的貢献を理解して、漁業者を応援するようになることが必要である。



6. 国の法整備等が必要である

- 海底ごみの大半は陸域由来の生活ごみであり、移動範囲は県境を越えることから、県レベルにとどまらず、国が政策として海底ごみ対策を打ち出すべきである。
- 岡山県においても県全体の問題として、その回収・処理についてルール化することが望ましい。
- 回収・処理にかかる費用については、発生源である上流域の市町村も含めて負担するという役割分担を検討することが重要である。

産業廃棄物処理税活用事業

岡山県では、産業廃棄物の処分量に応じて、事業者に課税し、廃棄物の抑制やリサイクルの推進に活用しています。

出典：岡山県 HP

図 V-2 海底ごみ適正処理の取組拡充や普及方法についての検討

(2) 海底ごみ現地調査の結果

海底ごみ現地調査を行った際に得られた現地の状況を表 V-1 に示す。現地調査に協力的な漁協（漁業者）と自治体では、相互の連携は密に取られており、海洋ごみ回収事業の普及やマニュアルの改訂に資する課題は得られなかった。

一方、備後灘では漁業者自らが島内処分場へ海底ごみを分別・搬入することになっており、処理が難しい大型ごみについては対象外となっている（そのため、通常は持ち帰ることは少ない）。また、燧灘（西）では、本事業の補助金を活用せずに、別途、漁協対応により現地回収が行われたなど、各自治体で対応可能な範囲で海底ごみ回収が実施されており、漁協（漁業者）、自治体とも協力的であった。

すべてのごみを処分するわけではなく漁業者側の分別の手間などもあるので関係者との連携が難しくなるが、一般ごみのみでも回収を実施することは海洋ごみ対策として重要である。

このような、現地調査で得られた海域の情報についても、マニュアルの事例集に追加・記載することで、事例集の更新を行うことは望ましいと考える。

表 V-1(1) 現地調査時における海底ごみの保管・処理の状況

海域名	状況
加賀市沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港に設置した水産用コンテナに漁業者が海洋ごみを集積し、集積された海洋ごみは加賀市にて処分を実施。 ・廃棄漁網はリサイクル用に、また他のごみについても、場所を決めて保管、処理が行われている。保管場所への不法投棄を防止する対策として、監視カメラや海保巡回ありのプレートもあり。
播磨灘(東)	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は地元特産の玉ねぎ袋を活用して回収ごみを持ち帰り、漁港岸壁背後に配置されコンテナに海洋ごみを集積。集積された海洋ごみは洲本市にて処分を実施。 ・事務所近くの目立つ場所にコンテナを配置することで、不法投棄を防止し、底びき網漁終了時には、箱型コンテナは撤去され、他のごみとの混在防止が行われている。
備讃瀬戸(西)	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協事務所前に設置したコンテナに漁業者が持ち帰った海洋ごみを集積。ある程度集積すると丸亀市水産部局により処分を実施。 ・コンテナ等には通常はシートが掛けられており、不法投棄対策がとられている。
備讃瀬戸(水島灘)	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港背後に設置された海底ごみステーション(小屋)に漁業者が海洋ごみを可燃と不燃に分別・集積し、浅口市にて定期的に搬出され処分を実施。また、大型ごみ等は屋外の屋根なし別区画に集積し、不定期で回収頻度は少ないが回収、処理される。 ・操業中の網に絡んだ細かい混獲ごみ含めた回収や海底ごみ回収の体験乗船・環境学習を積極的に実施されている地域である。

表 V-2(2) 現地調査時における海底ごみの保管・処理の状況

海域名	状況
備後灘	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が海洋ごみを回収し、回収したごみは島にある市のクリーンセンターに漁業者が搬入。搬入したごみは尾道市で処理、処理費用は市が負担。 ・島内での処理が困難な大型ごみは対象外。 ・島内に海洋ごみステーションはあるが、老朽化のため使用していない。
燧灘（西）	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が回収した海洋ごみは、今治市配布のプラごみ袋に入れ、船着き場周辺に保管。回収されたごみは今治市が漁業者からの連絡を受け回収、処分。
宗像市沿岸域	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が回収したごみは市指定の網袋に入れ、一般ごみとして焼却処分。特定の集荷・保管場所はなく、各漁業者が船溜まり背後地や番屋近くで一時保管を行っている。

(3) 海洋ごみ回収事業の研修会における課題の整理

漁業者や自治体が海洋ごみ回収事業を活用する場合に支障となる事柄のうち、マニュアル改訂に関連した事項を、研修会応募時や研修会の質疑の中から抜粋し、整理した。

1) 事例

事例については公表されている情報が少なく、または古く、実際に他の自治体がどのように取り組んでいるのかが分かり難い。実際に事業を始める際に参考となる事例が少ないという問題がある。現在、ごみ回収事業を実施している自治体では、県の環境部局から既に補助金活用を行っている自治体を紹介され、資料の提供を受け、事業を開始したといった事例もあり、事業を進めるうえで他がどのように行っているかを示すことは重要である。現在のマニュアルでも巻末に事例集を設けており、事例については記載があるが更新を行わないと情報が古くなり、参考とならなくなる可能性もあるため、適宜マニュアル等の事例を更新していく必要がある。

2) 事業範囲

事業範囲についての問い合わせも多く確認された。マニュアルやパンフレット等に海洋ごみについての記述があるが、どのようなごみが補助対象となるのかイメージがし難いといった課題がある。マニュアル等には、漁業者が操業時や海底清掃時等にボランティアで回収して港に持ち帰った海洋ごみとし、例としてスーパー袋や食品トレイなどの梱包資材、漁網、ロープ等のプラスチック類、金属類、ゴム類、木材類としており、対象外のものとして漁業者が自ら排出したごみ、船上の飲食生活雑貨ごみ等や、自然災害時に発生した流木等としている。状況等も異なるため、すべてを網羅することは難しいが、明記されていないもので疑問が生じている。

こうした情報を一つ一つマニュアルの中に入れ込むことはマニュアルの煩雑化を招き、読み手の負担が大きくなるというリスクが考えられる。そのため、こうした情報は疑問に思った人が適宜確認できる形であるのが望ましいため、Q&A といった形で掲載するのがふさわしいと考えられる。以下の表に研修会の事後アンケートより得られた質疑をもとにしたマニュアル Q&A の追加の案を示す。

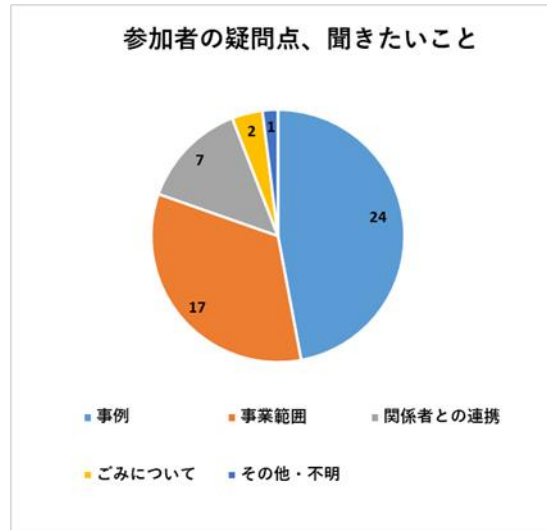


図 V-3 研修会参加者の疑問点、聞きたいこと

表 V-3 マニュアル Q&A 追加案(1)

質問	回答
海洋ごみの7割が内陸由来とのことですが、海洋ゴミのボランティア清掃によるごみのように、湖・河川のボランティア清掃のごみ、流木の回収・処理で補助事業の対象になるのでしょうか。また、他に対象となる事業はあるのでしょうか。	湖・河川でのボランティア清掃やごみの回収・処理は、本事業の対象にはなりません。本事業はあくまで、海岸の環境保全、公衆衛生上の管理の必要性において実施される事業を想定しており、海洋ごみが内陸由来かどうかに影響されるものではありません。
海洋ごみ回収事業の補助金は、対象となる収集・運搬・処理にかかった費用の100%補助率なのでしょうか。	補助率はメニューにより異なるのと、回収・処理事業においては特例地域における嵩上げ措置があります。詳しくはご所在の都道府県へご確認ください。 (なお、100%というのは漁業者などが行うボランティアにより回収された海底・漂流ごみの処理を行う場合です。通常の事業は補助率が異なります)

表 V-3 マニュアル Q&A 追加案(2)

質問	回答
<p>一般廃棄物は市町村が処理すべきものと認識していましたが、大型の流木など都道府県で処理してもらえるものなのでしょうか。</p>	<p>区域内における一般廃棄物の適正な処理を行う責任は市町村にあります。なお、大型の流木の処理については、実際の処理については個別の事案によるので最終的には都道府県にご相談をいただきたいですが、海岸保全のために海岸管理者が行う事業に含まれるのではないかと考えます。</p>
<p>どこまでが補助対象となりますか。</p>	<p>本事業では海洋ごみを回収いただくところまではボランティアになります。回収したごみの処理や保管のためのコンテナ等は補助対象になります。不明な場合は環境省海洋プラスチック汚染対策室までお問い合わせ願います。</p>

(4) 検討会における意見の反映

・本年度の検討会では、マニュアル改訂についての意見はなかった。しかし、補助金を活用した海底ごみ回収事業を啓発、推奨するためのマニュアルを活用した研修会の開催については、続けて毎年開催していく事で効果が増幅されるため、引き続き実施することが望ましいとの指摘があった。

(5) マニュアルの活用における留意点

・マニュアルは、環境省から現場の市町村（環境、水産部局）や漁業者へと伝達されるが、補助金を活用する海洋ごみ回収実施の要望は、逆方向の伝達経路となる。過年度まで実施した課題の検討では、末端の漁業者や市町村の担当者がマニュアル配布を知らないという課題が確認された。マニュアルの活用における課題については、過年度から本年度までの検討結果を踏まえ、根本的な課題がマニュアルの配布方法にあるか、内容にあるか等を整理し、マニュアルの活用が促進される方法について、マニュアル改訂に合わせて検討を行う必要があると考える。

以下、第Ⅱ章～第Ⅳ章の検討結果及びⅤ章に示した検討会の指摘事項を基に、「マニュアル」を更新する場合のポイントを整理した。

表 V-4 マニュアルの改訂、更新する場合のポイント

改訂の目的	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・内容が分かりやすい資料であることが重要。 	<p>短い動画や YouTube 仕様など視聴覚的な資料の作成も検討すべき。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみ回収事業を始めるにあたり、漁業者への利点、メリットを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみ回収のモチベーション上昇に資する情報の追加を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業を開始するにあたり、参考となる事例を追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度得られた情報をもとに事例集の更新を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを読むだけでは理解が難しい個別の補助対象についての説明が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度研修会にて得られた質疑をもとに、補助対象についての Q&A 追加を検討する。

(空白ページ)

第VI章 検討会の資料作成支援の実施

VI.1 検討会資料作成支援

本業務の実施に際し、別途実施される「令和7年度 海洋ごみの実態把握及び効率的な回収に関する総合検討業務」において開催する調査方針及び調査結果の取りまとめに関する検討会(2回)の資料作成を支援した。

開催時期と資料項目は、以下に示すとおりである。

第1回 令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収に関する検討会

- ・開催日時：令和7年7月16日(水) 10:00～12:00
- ・議事：漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の計画について
- ・作成資料：資料6 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務
の計画について

第2回 令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収に関する検討会

- ・開催日時：令和8年2月12日(木) 9:00～12:00
- ・議事：漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の結果について
- ・作成資料：資料7 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の結果
について

参考資料7 現地調査結果(速報)

令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収
に関する検討会（第1回）
議事概要

日時：令和7年7月16日（水）10:00～12:00
場所：日本エヌ・ユー・エス株式会社社会議室と
オンラインのハイブリッド開催

議 事

開会（10:00）

1. 環境省あいさつ
2. 資料の確認
3. 検討委員の紹介
4. 座長選任・座長あいさつ
5. 議事
 - (1) 【報告】 本検討会の背景と趣旨について[資料 1-1、1-2]
 - (2) 【議題】 漂着ごみの分析方針について[資料 2]
 - (3) 【議題】 IT 技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集の改訂について[資料 3]
 - (4) 【議題】 瀬戸内海における海洋への流入実態把握の推計計画について[資料 4]
 - (5) 【議題】 令和6年度沖合海域における漂流・海底ごみの分布調査とりまとめ経過報告及び令和7年度のデータ分析・とりまとめ方針について[資料 5]
 - (6) 【議題】 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の計画について[資料 6]
 - (7) 【報告】 海洋ごみ3種類（漂流、漂着、海底）調査分類体系について[資料 7]
6. 連絡事項

閉会（12:00）

配布資料

資料 1-1 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収に関する検討会設置要綱

資料 1-2 本検討会の背景と趣旨について

資料 2 漂着ごみの分析方針について

資料 3 IT 技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集の改訂について

資料 4 瀬戸内海における海洋への流入実態把握の推計計画について

資料 5 令和6年度沖合海域における漂流・海底ごみの分布調査とりまとめ経過報告及び
令和7年度のデータ分析・とりまとめ方針について

資料 6 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の計画について

資料 7 海洋ごみ3種類（漂流、漂着、海底）調査分類体系について

図 VI-1 第1回検討会 議事次第

令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収
 に関する検討会（第1回）
 出席者名簿

（五十音順、敬称略）
 * オンライン参加

検討委員		
磯辺 篤彦 *	九州大学応用力学研究所	教授
内田 圭一 *	東京海洋大学学術研究院海洋資源エネルギー学部門	教授
加古 真一郎 *	鹿児島大学大学院理工学研究科	教授
北門 利英 *	東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門	教授
東海 正	東京海洋大学	名誉教授
日向 博文	愛媛大学大学院理工学研究科	教授
（欠 席）		
オブザーバー		
津山 桂子 *	水産庁増殖推進部漁場資源課海洋保全班	課長補佐
松下 吉樹 *	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	教授
環境省		
水谷 好洋	水・大気環境局海洋環境課	課長
（欠 席）		
中山 直樹	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室	室長
長谷 代子	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室	室長補佐
原田 圭	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室	環境専門調査員
事務局：日本エヌ・ユー・エス株式会社		
井川 周三	環境管理ユニット	サブマネジャー
大野 洋幸	環境管理ユニット	
小菅 良典	環境調和ユニット	
後藤 澄江	環境管理ユニット	
杉村 亮	地域創生ユニット	
鈴木 善弘 *	環境管理ユニット	
橋谷 珠世	環境管理ユニット	
林田 泰和	環境管理ユニット	
山崎 俊弥	環境管理ユニット	
山本 裕加	環境管理ユニット	
三洋テクノマリン株式会社 東京支社技術部		
島田 久子	環境コンサルタントグループ	長
入江 正己	環境コンサルタントグループ	
加藤 伸幸	環境コンサルタントグループ	
辻 美里*	環境コンサルタントグループ	
山本 美愛*	環境コンサルタントグループ	

図 VI-2 第1回検討会出席者名簿

議事概要（抜粋）

<資料 6 関係>

(1) 海底ごみ現地調査

- ・調査資料の中で「網口の長さ」など専門的で聞き慣れない用語が使用されているため、報告書や公開資料では用語の定義を明確にしてほしい、との指摘があった。
- ・調査の最終的な成果物の方向性について海域を代表する平均値を算出するのは困難であることに留意し、瀬戸プラネットの「ごみ流入量推計」に活用する他、発生抑制対策の成果としてごみの減少傾向の有無の確認を目指す方針となった。

(2) 研修会

- ・昨年度の水産関係団体への研修会案内の配布は、全国底曳網漁業連合会のみの実施であったが、本年度は水産庁と環境省で連携しつつ、漁協や漁連の系統、大日本水産会などプラスチック問題や廃漁網処理に積極的な団体を通じ、幅広く関係者に案内していく方針が示された。
- ・研修内容については、昨年度はマニュアルを基に回収事業の基本を紹介したが、今年度は回収後の事業者のメリットも伝える方向が示された。例として、海洋ごみ回収を通じてMSC 認証を取得した事業者の事例紹介など、外部から入手した資料も活用する方針に決定した。

令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収
に関する検討会（第2回）
議事概要

日時：令和8年2月12日（木）9:00～12:00
場所：日本エヌ・ユー・エス株式会社社会議室と
オンラインのハイブリッド開催

議 事

開会（9:00）

1. 資料の確認

2. 議事

- (1) 【議題】 漂着ごみの回収・組成調査の分析結果について[資料1]
- (2) 【報告】 IT技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集の改訂について[資料2]
- (3) 【議題】 瀬戸内海における海洋への流入実態把握の推計結果について[資料3]
- (4) 【議題】 令和6年度沖合海域における漂流・海底ごみの分布調査とりまとめ報告及び令和7年度のデータ分析・とりまとめ経過報告について[資料4]
- (5) 【報告】 海洋漂流マイクロプラスチックの含有添加剤について[資料5]
- (6) 【議題】 令和7年度沿岸海域におけるマイクロプラスチックを含む漂流ごみ実態把握調査結果について[資料6]
- (7) 【議題】 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の結果について[資料7]
- (8) 【議題】 海洋ごみ3調査（漂流、漂着、海底）の分類体系について[資料8]

3. 連絡事項

4. 閉会あいさつ

閉会（12:00）

配布資料

資料1 漂着ごみの回収・組成調査の分析結果について

資料2 IT技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集の改訂について

資料3 瀬戸内海における海洋への流入実態把握の推計結果について

資料4 令和6年度沖合海域における漂流・海底ごみの分布調査とりまとめ報告及び
令和7年度のデータ分析・とりまとめ経過報告について

資料5 海洋漂流MPに含まれる残留性有機汚染物質(POPs)を含む添加剤の測定結果
について

資料6 令和7年度沿岸海域におけるマイクロプラスチックを含む漂流ごみ実態把握調査
結果について

資料7 漁業者の協力による海洋ごみ回収等に係る実証業務の結果について

資料8 海洋ごみ3調査（漂流、漂着、海底）の分類体系について

図 VI-3(1) 第2回検討会議事次第

参考資料 1-1 令和 6 年度漂着ごみ組成調査の取りまとめ結果

参考資料 1-2 漂着ごみ組成調査地点一覧

参考資料 2-1 IT 技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集（改訂案）

参考資料 2-2 IT 技術等を活用した海洋ごみ回収・処理事例集作成のための文献調査結果

参考資料 7 現地調査結果（速報）

参考資料 8 海洋ごみ 3 調査の分類整理表

図 VI-4(2) 第 2 回検討会議事次第

令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収
 に関する検討会（第2回）
 出席者名簿

（五十音順、敬称略）
 * オンライン参加

検討委員	
磯辺 篤彦 *	九州大学応用力学研究所 教授
内田 圭一 *	東京海洋大学学術研究院海洋資源エネルギー学部門 教授
加古 真一郎 (欠席)	鹿児島大学大学院理工学研究科 教授
北門 利英 *	東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門 教授
東海 正	東京海洋大学 名誉教授
日向 博文 *	愛媛大学大学院理工学研究科 教授
【議題5 報告者】	
鈴木 剛 *	国立環境研究所資源循環領域資源循環基盤技術研究室 室長
オブザーバー	
津山 桂子 *	水産庁増殖推進部漁場資源課海洋保全班 課長補佐
松下 吉樹 *	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 教授
環境省	
水谷 好洋 (欠席)	水・大気環境局海洋環境課 課長
中山 直樹	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室 室長
長谷 代子	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室 室長補佐
原田 圭	水・大気環境局海洋環境課海洋プラスチック汚染対策室 環境専門調査員
事務局：日本エヌ・ユー・エス株式会社	
井川 周三	環境管理ユニット サブマネジャー
大野 洋幸	環境管理ユニット
小菅 良典	環境調和ユニット
後藤 澄江	環境管理ユニット
杉村 亮	地域創生ユニット
鈴木 善弘 *	環境管理ユニット
林田 泰和	環境管理ユニット
山崎 俊弥	環境管理ユニット
山本 裕加	環境管理ユニット
三洋テクノマリン株式会社 東京支社技術部	
島田 久子 *	副部長
入江 正己	環境コンサルタントグループ
加藤 伸幸	環境コンサルタントグループ

図 VI-4 (1) 第2回検討会出席者名簿

令和7年度 海洋ごみの実態把握と効果的・効率的な海洋ごみ回収
に関する検討会（第2回）
出席者名簿

（五十音順、敬称略）
* オンライン参加

株式会社 環境管理センター			
長谷川 亮 *	環境政策部	部長	
金子 綾子 *	環境政策部	政策企画グループ	
額尔 徳尼 *	環境政策部	政策企画グループ	
下村 良介 *	技術センター（分析部）	環境分析グループ	
白旗 美奈	技術センター（分析部）	環境分析グループ	
パク ソウン	技術センター（調査部）	環境分析グループ	

図 VI-4 (2) 第2回検討会出席者名簿

議事概要（抜粋）

<資料 7 関係>

(1) 海底ごみ現地調査

・本年度の調査結果について、漁具仕様の比較を実施した点と破片類が多い結果となった点の2点について議論があった。

漁具仕様の違いによる結果の差異については、漁具による回収効率の差が、他の同様の調査でも出ているとの意見があった。プラスチック破片類が多かった結果については、同一漁法・同一海域で長期間の調査で、回収ごみの重量の減少と個数の増加傾向が確認されており、海底ごみが時間の経過とともに細分・破片化していることを示唆しているとして、今後も注視する必要があるとの指摘があった。

・漁業者の海底ごみ回収データにおいては、回収努力量及び回収量が分かれば、漁具の能力を推定することが可能となる。これにより、海底ごみの回収効率の算出や初期存在量の推定を通じて、具体的な海底ごみを回収する計画策定に繋げることができる。そのため、調査手法の整備及び標準化を進めることも有効であるとの指摘があった。

・今後実施する現地調査については、「漁業者による実際の回収実績を把握するための調査」と「海底ごみ量の推定を目的とした調査」に分けて計画し、調査方法や調査範囲を調整した上で、実施することが重要であるとの指摘があった。

(2) 研修会

・研修会については、続けていく事で効果が増幅されるため、引き続き実施することが望ましいとの助言を得た。

(空白ページ)

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。